

地域創生学群 地域創生学類 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	10
2年					
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2		
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	14	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	2年	
	情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2		2年
	地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2	2年	
	教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2		2年
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	2年	
	教養演習 A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2		2年
教養演習 A II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	2年	18	
教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2			2年
教養演習 B I GES301F 閉講	1学期	3	2	3年		
教養演習 B II GES302F 閉講	2学期	3	2	3年		
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	1年	20
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	1年	22
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2		
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	1年	22

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	23
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	24
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 MCC001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	25
		1年			
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	26	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	27	
	1年				
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	28	
	1年				
政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	30
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	31
	1年				
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	32
	1年				
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	33
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	34
	1年				
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2		
1年					
都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	35	
1年					
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	36	
1年 (2015年度以降入学生)					
地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	37	
1年 (2015年度以降入学生)					
現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	38	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	1年	
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	1年	39
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	1年	
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	1年	
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	1年	40
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	1年	41
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	1年	
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	1年		
戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期	1	2	1年		
もの与人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	1年		
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	1年		
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	1年	42	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	43
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	44
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	45
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	46
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	47
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	48
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	49
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	50
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	51
		1年			
フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	52	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	53	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	54	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	55	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	56	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	57
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー) HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	58
		1年			
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	59	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	60	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	61
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	62
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	63
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	64
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	65
		2年			
地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2		
	2年				
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	66	
	1年				
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	67	
	1年				
プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2	2年
	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2	3年
	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2	3年
■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1	2	1年
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 休講	1学期	1	2	1年
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	1年
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	1年
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	2年
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期	3	2	3年
■外国語教育科目	英語I (群 1 - A) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	68
		群 1 - A			
	英語I (群 1 - B) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	69
		群 1 - B			
	英語I (群 1 - C) ENG101F 林 裕二	1学期	1	1	70
		群 1 - C			
	英語I (群 1 - D) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	71
		群 1 - D			
	英語I (群 1 - E) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	72
		群 1 - E			
	英語I (群 1 - F) ENG101F 團迫 雅彦	1学期	1	1	73
		群 1 - F			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語I (律政群 1-G) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	74
		律政群 1 - G			
	英語I (律政群 1-H) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	75
		律政群 1 - H			
	英語I (律政群 1-I) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	76
		律政群 1 - I			
	英語II (群 1-A) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	77
		群 1 - A			
	英語II (群 1-B) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	78
		群 1 - B			
	英語II (群 1-C) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	79
		群 1 - C			
	英語II (群 1-D) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	80
		群 1 - D			
	英語II (群 1-E) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	81
		群 1 - E			
	英語II (群 1-F) ENG111F 船方 浩子	2学期	1	1	82
		群 1 - F			
	英語II (群 1-G) ENG111F 團迫 雅彦	2学期	1	1	83
		群 1 - G			
英語II (律政群 1-H) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	84	
	律政群 1 - H				
英語II (律政群 1-I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	85	
	律政群 1 - I				
英語III (群 1-E) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	86	
	群 1 - E				
英語III (群 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	87	
	群 1 - F				
英語III (群 1-G) ENG102F クリスティン・マイスター	1学期	1	1	88	
	群 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語III (律政群 1-H) ENG102F マーニー・セイティ	1学期	1	1	89
		律政群 1 - H			
	英語III (律政群 1-I) ENG102F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	90
		律政群 1 - I			
	英語III (群 1-A) ENG102F ケネス・ギブソン	1学期	1	1	91
		群 1 - A			
	英語III (群 1-B) ENG102F アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	92
		群 1 - B			
	英語III (群 1-C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	93
		群 1 - C			
	英語III (群 1-D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	94
		群 1 - D			
	英語IV (群 1-E) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	95
		群 1 - E			
	英語IV (群 1-F) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	96
		群 1 - F			
	英語IV (群 1-G) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	97
		群 1 - G			
	英語 IV (律政群 1-H) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	98
		律政群 1 - H			
英語IV (律政群 1-I) ENG112F マーニー・セイティ	2学期	1	1	99	
	律政群 1 - I				
英語IV (群 1-A) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	100	
	群 1 - A				
英語IV (群 1-B) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	101	
	群 1 - B				
英語IV (群 1-C) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	102	
	群 1 - C				
英語IV (群 1-D) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	103	
	群 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語V (律政群 2 - E) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	104
		律政群 2 - E			
	英語V (律政群 2 - F) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	105
		律政群 2 - F			
	英語V (律政群 2 - G) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	106
		律政群 2 - G			
	英語V (群 2 - A) ENG201F 漆原 朗子	1学期	2	1	107
		群 2 - A			
	英語V (群 2 - B) ENG201F 百武 玉恵	1学期	2	1	108
		群 2 - B			
	英語V (群 2 - C) ENG201F 酒井 秀子	1学期	2	1	109
		群 2 - C			
	英語V (群 2 - D) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	110
		群 2 - D			
	英語VI (群 2 - E) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	111
		群 2 - E			
	英語VI (律政群 2 - F) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	112
		律政群 2 - F			
	英語VI (律政群 2 - G) ENG211F 酒井 秀子	2学期	2	1	113
		律政群 2 - G			
英語VI (群 2 - A) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	114	
	群 2 - A				
英語VI (群 2 - B) ENG211F 漆原 朗子	2学期	2	1	115	
	群 2 - B				
英語VI (群 2 - C) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	116	
	群 2 - C				
英語VI (群 2 - D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	117	
	群 2 - D				
英語VII (群 2 - A) ENG202F マーニー・セイテイ	1学期	2	1	118	
	群 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VII (群 2 - B) ENG202F ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	2	1	119
		群 2 - B			
	英語VII (群 2 - C) ENG202F クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	120
		群 2 - C			
	英語VII (群 2 - D) ENG202F ケネス・ ギブソン	1学期	2	1	121
		群 2 - D			
	英語VII (群 2 - E) ENG202F デビット・ ニール・ マクレラン	1学期	2	1	122
		群 2 - E			
	英語VII (律政群 2 - F) ENG202F クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	123
		律政群 2 - F			
	英語VII (律政群 2 - G) ENG202F ロバート・ マーフィ	1学期	2	1	124
		律政群 2 - G			
	英語VIII (群 2 - A) ENG212F 村田 希巳子	2学期	2	1	125
		群 2 - A			
	英語VIII (群 2 - B) ENG212F 十時 康	2学期	2	1	126
		群 2 - B			
	英語VIII (群 2 - C) ENG212F 下條 かおり	2学期	2	1	127
		群 2 - C			
	英語VIII (群 2 - D) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	128
		群 2 - D			
英語VIII (群 2 - E) ENG212F 酒井 秀子	2学期	2	1	129	
	群 2 - E				
英語VIII (律政群 2 - F) ENG212F 百武 玉恵	2学期	2	1	130	
	律政群 2 - F				
英語VIII (律政群 2 - G) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	131	
	律政群 2 - G				
ビジネス英語I (群 1 年) ENG131F ダニー・ ミン	1学期	1	1	132	
	群 1 年				
ビジネス英語II (群 1 年) ENG132F ダニー・ ミン	2学期	1	1	133	
	群 1 年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	中国語I (1 - a)		1学期	1	1	134
	CHN101F	野村 和代	済営人律政群 1年			
	中国語I (1 - b)		1学期	1	1	135
	CHN101F	板谷 俊生	済営人律政群 1年			
	中国語II (1 - a)		2学期	1	1	136
	CHN111F	野村 和代	済営人律政群 1年			
	中国語II (1 - b)		2学期	1	1	137
	CHN111F	板谷 俊生	済営人律政群 1年			
	中国語III (1 - a)		1学期	1	1	138
	CHN102F	艾文婷	済営人律政群 1年			
	中国語III (1 - b)		1学期	1	1	139
	CHN102F	于 佳	済営人律政群 1年			
	中国語IV (1 - a)		2学期	1	1	140
	CHN112F	艾文婷	済営人律政群 1年			
	中国語IV (1 - b)		2学期	1	1	141
	CHN112F	于 佳	済営人律政群 1年			
	中国語V		1学期	2	1	142
	CHN201F	有働 彰子	英済営人律政群 2年			
	中国語VI		2学期	2	1	143
	CHN211F	有働 彰子	英済営人律政群 2年			
中国語VII		1学期	2	1	144	
CHN202F	未定	英済営人律政群 2年				
中国語VIII		2学期	2	1	145	
CHN212F	未定	英済営人律政群 2年				
朝鮮語I (1 - a)		1学期	1	1	146	
KRN101F	呉 香善	済営律政群 1年				
朝鮮語I (1 - b)		1学期	1	1	147	
KRN101F	金 京姫	済営律政群 1年				
朝鮮語II (1 - a)		2学期	1	1	148	
KRN111F	金 慶湖	済営律政群 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 京姫	2学期	1	1	149
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	150
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - b) KRN102F 呉 珠熙	1学期	1	1	151
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	152
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - b) KRN112F 呉 珠熙	2学期	1	1	153
		済営律政群 1年			
朝鮮語V KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	154	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VI KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	155	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VII KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	156	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VIII KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	157	
	済営比人律政群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門 RDE100M 夜のみ開講科目		1	2	
		1年			
	コミュニティ論 RDE212M 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	システムマネジメント BUS190M 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	キャリア学概論 CAR100M 見館 好隆	2学期	1	2	158
		1年			
	プロジェクトマネジメント BUS191M 佐藤 貴之	1学期	1	2	159
		1年			
地域文化論 RDE213M 廣川 祐司	2学期	2	2	160	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	キャリア形成論 CAR200M 真鍋 和博	1学期	2	2	161
		2年			
	まちづくりマネジメント RDE215M 片岡 寛之	1学期	2	2	162
			2年		
	北九州社会論 RDE214M 閉講	2学期	2	2	
			2年		
	地域経営実践論 RDE216M 片岡 寛之	2学期	2	2	163
			2年		
	指導的実習I (FM実習) RDE180M 休講	1学期	1	1	
			1年		
	指導的実習II (学び支援) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
			1年		
	指導的実習II (猪倉) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
			1年		
	指導的実習II RDE181M 閉講	2学期	1	1	
			1年		
	指導的実習II (コミュニティ) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
			1年		
	指導的実習II (ESDプロモート) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
			1年		
指導的実習II (キタプロ) RDE181M 閉講	2学期	1	1		
		1年			
指導的実習II (北スマ) RDE181M 閉講	2学期	1	1		
		1年			
指導的実習II (広報) RDE181M 閉講	2学期	1	1		
		1年			
指導的実習II (小倉) RDE181M 閉講	2学期	1	1		
		1年			
指導的実習II (門司) RDE181M 閉講	2学期	1	1		
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	指導的実習II (まちあるぎ) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
		1年			
	指導的実習II (モビリティ) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
		1年			
	指導的実習II (421Lab.) RDE181M 閉講	2学期	1	1	
		1年			
	指導的実習II RDE181M 閉講	2学期	1	1	
		1年			
	指導的実習II RDE181M 休講	2学期	1	1	
		1年 (再履修)			
	地域創生実習I (猪倉) RDE280M 岩本 晃典	1学期	2	1	164
		2年			
	地域創生実習I (キタプロ) RDE280M 岩本 晃典	1学期	2	1	165
		2年			
	地域創生実習I (北スマ) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	166
		2年			
	地域創生実習I (学び支援) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	167
		2年			
	地域創生実習I (ESDプロモート) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	168
		2年			
地域創生実習I (コミュニティ) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	169	
	2年				
地域創生実習I (広報) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	170	
	2年				
地域創生実習I (小倉) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	171	
	2年				
地域創生実習I (421Lab.) RDE280M 石川 敬之	1学期	2	1	172	
	2年				
地域創生実習I (門司) RDE280M 休講	1学期	2	1		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生実習I (まちあるき)	1学期	2	1	
	RDE280M 休講	2年			
	地域創生実習I (モビリティ)	1学期	2	1	
	RDE280M 休講	2年			
	地域創生実習II (猪倉)	2学期	2	1	173
	RDE281M 岩本 晃典	2年			
	地域創生実習II (キタプロ)	2学期	2	1	174
	RDE281M 岩本 晃典	2年			
	地域創生実習II (北スマ)	2学期	2	1	175
	RDE281M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習II (学び支援)	2学期	2	1	176
	RDE281M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習II (ESDプロモート)	2学期	2	1	177
	RDE281M 下田 泰奈	2年			
	地域創生実習II (コミュニティ)	2学期	2	1	178
	RDE281M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習II (広報)	2学期	2	1	179
	RDE281M 下田 泰奈	2年			
	地域創生実習II (小倉)	2学期	2	1	180
	RDE281M 下田 泰奈	2年			
地域創生実習II (421Lab.)	2学期	2	1	181	
RDE281M 石川 敬之	2年				
地域創生実習II (門司)	2学期	2	1		
RDE281M 休講	2年				
地域創生実習II (まちあるき)	2学期	2	1		
RDE281M 休講	2年				
地域創生実習II (モビリティ)	2学期	2	1		
RDE281M 休講	2年				
地域創生実習III (猪倉)	1学期	3	1	182	
RDE380M 岩本 晃典	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生実習Ⅲ (キタプロ) RDE380M 岩本 晃典	1学期	3	1	183
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (北スマ) RDE380M 勅使河原 航	1学期	3	1	184
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (学び支援) RDE380M 勅使河原 航	1学期	3	1	185
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート) RDE380M 下田 泰奈	1学期	3	1	186
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (コミュニテイ) RDE380M 勅使河原 航	1学期	3	1	187
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (広報) RDE380M 下田 泰奈	1学期	3	1	188
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (小倉) RDE380M 下田 泰奈	1学期	3	1	189
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (421Lab.) RDE380M 石川 敬之	1学期	3	1	190
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (門司) RDE380M 休講	1学期	3	1	
		3年			
	地域創生実習Ⅲ (まちあるき) RDE380M 休講	1学期	3	1	
		3年			
地域創生実習Ⅲ (モビリティ) RDE380M 休講	1学期	3	1		
	3年				
地域創生実習Ⅲ (チャレンジプログラム) RDE380M 閉講	1学期	3	1		
	3年				
地域創生実習Ⅳ (猪倉) RDE381M 岩本 晃典	2学期	3	1	191	
	3年				
地域創生実習Ⅳ (キタプロ) RDE381M 岩本 晃典	2学期	3	1	192	
	3年				
地域創生実習Ⅳ (北スマ) RDE381M 勅使河原 航	2学期	3	1	193	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生実習Ⅳ (学び支援) RDE381M 勅使河原 航	2学期	3	1	194
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) RDE381M 下田 泰奈	2学期	3	1	195
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) RDE381M 勅使河原 航	2学期	3	1	196
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (広報) RDE381M 下田 泰奈	2学期	3	1	197
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (小倉) RDE381M 下田 泰奈	2学期	3	1	198
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (421Lab.) RDE381M 石川 敬之	2学期	3	1	199
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (門司) RDE381M 休講	2学期	3	1	
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (まちあるき) RDE381M 休講	2学期	3	1	
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (モビリティ) RDE381M 休講	2学期	3	1	
		3年			
	地域創生実習Ⅳ (チャレンジプログラム) RDE381M 閉講	2学期	3	1	
		3年			
スポーツ・ボランティア実習Ⅰ HSS280M 閉講	1学期	2	1		
	2年				
スポーツ・ボランティア実習Ⅱ HSS281M 閉講	2学期	2	1		
	2年				
スポーツ・ボランティア実習Ⅲ HSS380M 閉講	1学期	3	1		
	3年				
スポーツ・ボランティア実習Ⅳ HSS381M 相羽・徳永	2学期	3	1		
	3年				
障害者スポーツ実習Ⅰ HSS282M 山本 浩二	1学期	2	1	200	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	障害者スポーツ実習II HSS283M 山本 浩二	2学期	2	1	201
		2年			
	障害者スポーツ実習III HSS382M 山本 浩二	1学期	3	1	202
		3年			
	障害者スポーツ実習IV HSS383M 山本 浩二	2学期	3	1	203
		3年			
	相談援助実習 SOW382M 寺田 千栄子 他	集中	3	6	204
		3年			
	地域マネジメント実践論I (猪倉) RDE210M 岩本 晃典	1学期	2	2	205
		2年			
	地域マネジメント実践論I (キタプロ) RDE210M 岩本 晃典	1学期	2	2	206
		2年			
	地域マネジメント実践論I (北スマ) RDE210M 勅使河原 航	1学期	2	2	207
		2年			
	地域マネジメント実践論I (学び支援) RDE210M 勅使河原 航	1学期	2	2	208
		2年			
地域マネジメント実践論I (ESDプロモート) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	209	
	2年				
地域マネジメント実践論I (広報) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	210	
	2年				
地域マネジメント実践論I (小倉) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	211	
	2年				
地域マネジメント実践論I (421Lab.) RDE210M 石川 敬之	1学期	2	2	212	
	2年				
地域マネジメント実践論I (門司) RDE210M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域マネジメント実践論I (まちあるき) RDE210M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域マネジメント実践論I (モビリティ) RDE210M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域マネジメント実践論II (猪倉) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	213
		2年			
	地域マネジメント実践論II (キタプロ) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	214
		2年			
	地域マネジメント実践論II (北スマ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	215
		2年			
	地域マネジメント実践論II (学び支援) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	216
		2年			
	地域マネジメント実践論II (ESDプロモート) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	217
		2年			
	地域マネジメント実践論II (広報) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	218
		2年			
	地域マネジメント実践論II (小倉) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	219
		2年			
	地域マネジメント実践論II (421Lab.) RDE211M 石川 敬之	2学期	2	2	220
		2年			
地域マネジメント実践論II (門司) RDE211M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域マネジメント実践論II (まちあるき) RDE211M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域マネジメント実践論II (モビリティ) RDE211M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域マネジメント実践論III (猪倉) RDE310M 岩本 晃典	1学期	3	2	221	
	3年				
地域マネジメント実践論III (キタプロ) RDE310M 岩本 晃典	1学期	3	2	222	
	3年				
地域マネジメント実践論III (北スマ) RDE310M 勅使河原 航	1学期	3	2	223	
	3年				
地域マネジメント実践論III (学び支援) RDE310M 勅使河原 航	1学期	3	2	224	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域マネジメント実践論III (ESDプロモート) RDE310M 下田 泰奈	1学期	3	2	225
		3年			
	地域マネジメント実践論III (広報) RDE310M 下田 泰奈	1学期	3	2	226
		3年			
	地域マネジメント実践論III (小倉) RDE310M 下田 泰奈	1学期	3	2	227
		3年			
	地域マネジメント実践論III (421Lab.) RDE310M 石川 敬之	1学期	3	2	228
		3年			
	地域マネジメント実践論III (門司) RDE310M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	地域マネジメント実践論III (まちあるき) RDE310M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	地域マネジメント実践論III (モビリティ) RDE310M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	地域マネジメント実践論III (チャレンジプログラム) RDE310M 閉講	1学期	3	2	
		3年			
	地域マネジメント実践論IV (猪倉) RDE311M 岩本 晃典	2学期	3	2	229
		3年			
	地域マネジメント実践論IV (キタプロ) RDE311M 岩本 晃典	2学期	3	2	230
		3年			
地域マネジメント実践論IV (北スマ) RDE311M 勅使河原 航	2学期	3	2	231	
	3年				
地域マネジメント実践論IV (学び支援) RDE311M 勅使河原 航	2学期	3	2	232	
	3年				
地域マネジメント実践論IV (ESDプロモート) RDE311M 下田 泰奈	2学期	3	2	233	
	3年				
地域マネジメント実践論IV (広報) RDE311M 下田 泰奈	2学期	3	2	234	
	3年				
地域マネジメント実践論IV (小倉) RDE311M 下田 泰奈	2学期	3	2	235	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域マネジメント実践論Ⅳ (421Lab.)	2学期	3	2	236
	RDE311M 石川 敬之	3年			
	地域マネジメント実践論Ⅳ (門司)	2学期	3	2	
	RDE311M 休講	3年			
	地域マネジメント実践論Ⅳ (まちあるき)	2学期	3	2	
	RDE311M 休講	3年			
	地域マネジメント実践論Ⅳ (モビリティ)	2学期	3	2	
	RDE311M 休講	3年			
	地域マネジメント実践論Ⅳ (チャレンジプログラム)	2学期	3	2	
	RDE311M 閉講	3年			
	地域ボランティア実践論Ⅰ	1学期	2	2	
	HSS290M 休講	2年			
	地域ボランティア実践論Ⅰ	1学期	2	2	
	HSS290M 閉講	2年			
	地域ボランティア実践論Ⅱ	2学期	2	2	
	HSS291M 休講	2年			
	地域ボランティア実践論Ⅱ	2学期	2	2	
	HSS291M 閉講	2年			
	地域ボランティア実践論Ⅲ	1学期	3	2	
	HSS390M 閉講	3年			
地域ボランティア実践論Ⅲ	1学期	3	2		
HSS390M 休講	3年				
地域ボランティア実践論Ⅳ	2学期	3	2		
HSS391M 休講	3年				
地域ボランティア実践論Ⅳ	2学期	3	2		
HSS391M 閉講	3年				
地域福祉実践論Ⅰ (コミュニティ)	1学期	2	2	237	
SOW212M 勅使河原 航	2年				
地域福祉実践論Ⅱ (コミュニティ)	2学期	2	2	238	
SOW213M 勅使河原 航	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域福祉実践論Ⅲ (コミュニティ) SOW310M 勅使河原 航	1学期	3	2	239
		3年			
	地域福祉実践論Ⅳ (コミュニティ) SOW311M 勅使河原 航	2学期	3	2	240
		3年			
	地域創生基礎演習 A SEM111M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (学び支援) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (猪倉) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (コミュニティ) SEM112M	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (ESDプロモート) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (キタプロ) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (北スマ) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B (広報) SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
地域創生基礎演習 B (小倉) SEM112M 休講	2学期	1	2		
	1年				
地域創生基礎演習 B (門司) SEM112M 休講	2学期	1	2		
	1年				
地域創生基礎演習 B (まちあるぎ) SEM112M 休講	2学期	1	2		
	1年				
地域創生基礎演習 B (モビリティ) SEM112M 休講	2学期	1	2		
	1年				
地域創生基礎演習 B (421Lab.) SEM112M 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	
	SEM211M 休講	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	
	SEM211M 休講	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	241
	SEM211M 佐藤 貴之	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	242
	SEM211M 真鍋 和博	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	243
	SEM211M 内田 晃	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	244
	SEM211M 小林 敏樹	2年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	245
	SEM211M 片岡 寛之	2年			
地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	246	
SEM211M 西田 心平	2年				
地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	247	
SEM211M 廣川 祐司	2年				
地域創生基礎演習 C	1学期	2	2		
SEM211M 休講	2年				
地域創生基礎演習 C	1学期	2	2		
SEM211M 休講	2年				
地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	248	
SEM211M 山本 浩二	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 C SEM211M 稲月 正	1学期	2	2	249
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 佐藤 貴之	2学期	2	2	250
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 眞鍋 和博	集中	2	2	251
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 内田 晃	2学期	2	2	252
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 小林 敏樹	2学期	2	2	253
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 片岡 寛之	2学期	2	2	254
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 西田 心平	2学期	2	2	255
		2年			
	地域創生基礎演習 D SEM212M 廣川 祐司	2学期	2	2	256
		2年			
地域創生基礎演習 D SEM212M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域創生基礎演習 D SEM212M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域創生基礎演習 D SEM212M 山本 浩二	2学期	2	2	257	
	2年				
地域創生基礎演習 D SEM212M 稲月 正	2学期	2	2	258	
	2年				
地域創生演習 A (チャレンジプログラム) SEM311M 閉講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	259
	SEM311M 佐藤 貴之	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	260
	SEM311M 眞鍋 和博	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	261
	SEM311M 内田 晃	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	262
	SEM311M 山本 浩二	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	地域創生演習 A (通常枠)	1学期	3	2	263
	SEM311M 小林 敏樹	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	264
	SEM311M 片岡 寛之	3年			
地域創生演習 A	1学期	3	2	265	
SEM311M 西田 心平	3年				
地域創生演習 A	1学期	3	2	266	
SEM311M 廣川 祐司	3年				
地域創生演習 A (チャレンジプログラム)	1学期	3	2		
SEM311M 閉講	3年				
地域創生演習 A	1学期	3	2	267	
SEM311M 稲月 正	3年				
地域創生演習 B (チャレンジプログラム)	2学期	3	2		
SEM312M 閉講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 B SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 佐藤 貴之	2学期	3	2	268
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 眞鍋 和博	集中	3	2	269
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 内田 晃	2学期	3	2	270
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 山本 浩二	2学期	3	2	271
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習 B (通常枠) SEM312M 小林 敏樹	2学期	3	2	272
		3年			
	地域創生演習 B SEM312M 片岡 寛之	2学期	3	2	273
		3年			
地域創生演習 B SEM312M 西田 心平	2学期	3	2	274	
	3年				
地域創生演習 B SEM312M 廣川 祐司	2学期	3	2	275	
	3年				
地域創生演習 B (チャレンジプログラム) SEM312M 閉講	2学期	3	2		
	3年				
地域創生演習 B SEM312M 稲月 正	2学期	3	2	276	
	3年				
地域創生演習 C (チャレンジプログラム) SEM411M 閉講	1学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 C SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 佐藤 貴之	1学期	4	2	277
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 眞鍋 和博	1学期	4	2	278
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 内田 晃	1学期	4	2	279
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 山本 浩二	1学期	4	2	280
		4年			
	地域創生演習 C (通常卒) SEM411M 小林 敏樹	1学期	4	2	281
		4年			
	地域創生演習 C SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 C (通常卒) SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
地域創生演習 C SEM411M 片岡 寛之	1学期	4	2	282	
	4年				
地域創生演習 C SEM411M 西田 心平	1学期	4	2	283	
	4年				
地域創生演習 C SEM411M 廣川 祐司	1学期	4	2	284	
	4年				
地域創生演習 C (チャレンジプログラム) SEM411M 休講	1学期	4	2		
	4年				
地域創生演習 C SEM411M 稲月 正	1学期	4	2	285	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 D SEM412M 眞鍋 和博	2学期	4	2	286
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 佐藤 貴之	2学期	4	2	287
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 内田 晃	2学期	4	2	288
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 山本 浩二	2学期	4	2	289
		4年			
	地域創生演習 D (通常卒) SEM412M 小林 敏樹	2学期	4	2	290
		4年			
	地域創生演習 D SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 D (通常卒) SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
地域創生演習 D SEM412M 片岡 寛之	2学期	4	2	291	
	4年				
地域創生演習 D SEM412M 西田 心平	2学期	4	2	292	
	4年				
地域創生演習 D SEM412M 廣川 祐司	2学期	4	2	293	
	4年				
地域創生演習 D (チャレンジプログラム) SEM412M 休講	2学期	4	2		
	4年				
地域創生演習 D SEM412M 稲月 正	2学期	4	2	294	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	相談援助実習指導 1 SOW380M 夜のみ開講科目		3	2	3年
	相談援助実習指導 2 SOW381M 夜のみ開講科目		3	1	3年
	相談援助演習 1 SOW265M 坂本 毅啓	1学期	2	2	295
		2年			
	相談援助演習 2 SOW266M 坂本 毅啓	2学期	2	2	296
		2年			
	相談援助演習 3 SOW360M 夜のみ開講科目	1学期	3	2	297
		3年			
	相談援助演習 4 SOW361M 夜のみ開講科目	2学期	3	2	298
		3年			
	相談援助演習 5 SOW460M 夜のみ開講科目		4	2	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 休講	1・2学期(ペア)	4	4	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 佐藤 貴之	1・2学期(ペア)	4	4	299
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 眞鍋 和博	1・2学期(ペア)	4	4	300
		4年			
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 内田 晃	1・2学期(ペア)	4	4	301	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 休講	1・2学期(ペア)	4	4	4年	
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 休講	1・2学期(ペア)	4	4	4年	
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 山本 浩二	1・2学期(ペア)	4	4	302	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 片岡 寛之	1・2学期(ペア)	4	4	303	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 西田 心平	1・2学期(ペア)	4	4	304
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 廣川 祐司	1・2学期(ペア)	4	4	305
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告(チャレンジプログラム) STH410M 休講	1・2学期(ペア)	4	4	
		4年			
卒業論文・卒業実践報告 稲月 正	1・2学期(ペア)	4	4	306	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告(チャレンジプログラム) STH410M 閉講	1・2学期(ペア)	4	4		
	4年				
■専門科目	地域コーディネート論 RDE110M 西田 心平	2学期	1	2	307
		1年			
	地域調査論 INF242M 小林 敏樹	1学期	2	2	308
		2年			
	景観まちづくり論 ARC233M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	ものづくりマネジメント論 BUS317M 吉村 英俊	2学期	2	2	309
		2年			
	福祉環境デザイン論 ARC235M 内田 晃	1学期	2	2	310
		2年			
	危機管理論 SSS210M 休講	2学期	2	2	
		2年			
都市計画の基礎 ARC234M 片岡 寛之	2学期	2	2	311	
	2年				
地域創生特講I(チャレンジプログラム) RDE290M 閉講	1学期	2	2		
	2年				
地域創生特講I(クリエイティブシンキング) RDE290M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域創生特講I(観光事業概論) RDE290M 見館 好隆	2学期	2	2	312	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域創生特講II (海外スタディツアー) RDE291M 見館・内田	集中	2	2	313
	2年				
	地域創生特講II (マレーシア・プトラ大学との交流) RDE291M 内田・豊田	集中	2	2	
	2年				
	地域創生特講II (チャレンジプログラム) RDE291M 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	まちづくり実践論 RDE312M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	314
	1年				
	日本国憲法原論 LAW120M 山本 健人	1学期	1	2	315
	1年				
	憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期	1	2	316
	1年				
	民法総則 LAW160M 丸山 愛博	2学期 (ペア)	1	4	317
1年					
民法概論I LAW161M 丸山 愛博	1学期	2	2	318	
2年					
民法概論II LAW162M 夜のみ開講科目		2	2		
2年					
親族法 LAW264M 矢澤 久純	2学期	2	2	319	
2年					
物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	320	
2年					
社会法総論 LAW140M 岡本 舞子	2学期	2	2	321	
2年					
行政法総論 LAW121M 近藤 卓也	1学期 (ペア)	2	4	322	
2年					
刑法犯罪論 LAW130M 富川 雅満	2学期 (ペア)	2	4	323	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	刑法犯罪各論I LAW230M 大杉 一之	1学期	3	2	324
		3年			
	刑法犯罪各論II LAW330M 大杉 一之	2学期	3	2	325
		3年			
	会社法I LAW270M 夜のみ開講		3	2	
		3年			
	会社法II LAW271M 夜のみ開講		3	2	
		3年			
	企業取引法I LAW272M 今泉 恵子	2学期	3	2	326
		3年			
	企業取引法II LAW372M 前越 俊之	2学期	3	2	327
		3年			
	知的財産法 LAW341M 小川 明子	集中	3	2	328
		3年			
	行政争訟法 LAW222M 堀澤 明生	2学期	3	2	329
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	NPO論 PLC114M 榎原 真二 他	1学期	1	2	330
		1年			
政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	331	
	1年				
福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	332	
	1年				
公共政策論 PLC211M 榎原 真二	1学期	2	2	333	
	2年				
地方自治論 PAD211M 黒石 啓太	1学期	2	2	334	
	2年				
政策過程論 PLC212M 申 東愛	2学期	2	2	335	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	336
	2年				
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	2	2	337
	2年				
	都市環境論 PLC111M 吉田 舞	1学期	2	2	338
	2年				
	公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	339
	2年				
	都市経営論 PAD213M 田代 洋久	2学期	2	2	340
	2年				
	経済学入門B ECN111M 畔津 憲司	1学期	1	2	341
	1年				
	経済学入門B ECN111M 前林 紀孝	1学期	1	2	342
	1年				
	現代日本経済入門A ECN150M 柳井 雅人	1学期	1	2	343
	1年				
	現代日本経済入門B ECN151M 前田 淳	2学期	1	2	344
	1年				
	金融論I ECN260M 内田 交謹	1学期	2	2	345
	2年				
金融論II ECN261M 万 軍民	2学期	2	2	346	
2年					
国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2		
2年					
国際経済論II ECN241M 休講	2学期	2	2		
2年					
国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	347	
3年					
国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	348	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期	2	2	349
		2年			
	経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期	2	2	350
		2年			
	財政学I ECN361M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II ECN362M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	環境経済学 ECN340M 牛房 義明	2学期	3	2	351
		3年			
	マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	352
		1年			
	企業論基礎 BUS110M 姚 智華	2学期	1	2	353
		1年			
	企業論基礎 BUS110M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	簿記論I ACC110M 岡部 勝成	1学期	1	2	354
		1年			
	簿記論II ACC111M 休講	2学期	1	2	
		1年			
数学 MTH100M 村原 英樹	1学期	1	2	355	
	1年				
経営統計 MTH150M 村原 英樹	2学期	1	2	356	
	1年				
情報デザイン INF103M 休講	集中	1	2		
	1年				
プログラミングI INF110M 平山 克己	2学期	1	2	357	
	1年				
プログラミングII (新JAVA) INF210M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	コンピュータシステム	1学期	2	2	
	INF220M 休講	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	358
	ACC214M 西澤 健次	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	359
	ACC215M 西澤 健次	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	360
	BUS213M 浦野 恭平	2年			
	データ構造	2学期	2	2	361
	INF231M 隈本 寛	2年			
	データベース	1学期	2	2	362
	INF232M 池田 欽一	2年			
	Webプログラミング	2学期	2	2	363
	INF212M 池田 欽一	2年			
	人的資源管理論	1学期	3	2	364
	BUS310M 丸子 敬仁	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	365
	BUS313M 吉村 英俊	3年			
	企業データ分析	1学期	3	2	366
	INF341M 齋藤 朗宏	3年			
オペレーションズ・マネジメント	1学期	3	2	367	
INF200M 齋藤 朗宏	3年				
情報ネットワーク	1学期	3	2	368	
INF320M 三宅 芳博	3年				
情報経営	1学期	3	2	369	
BUS316M 泉 英明	3年				
システム分析	1学期	3	2	370	
INF340M 平山 克己	3年				
システム設計	2学期	3	2	371	
INF420M 平山 克己	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	現代社会と福祉 1 SOW100M 深谷 裕	1学期	1	2	372
		1年			
	現代社会と福祉 2 SOW101M 河嶋 静代	2学期	1	2	373
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 坂本 毅啓	2学期	1	2	374
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査の基礎 SOW290M 阪井 俊文	1学期	2	2	375
		2年			
	社会調査の基礎 SOW290M 稲月 正	1学期	2	2	376
		2年			
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 休講	2学期	2	2		
	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 休講	1学期	2	2		
	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) SOW222M 伊東 良輔	1学期	2	2	466	
	2年				
相談援助の理論と方法 1 SOW262M 休講	1学期	2	2		
	2年				
相談援助の理論と方法 2 SOW263M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	社会保障 SOW240M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	保健医療サービス SOW230M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	2	2	377
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	就労支援サービス SOW243M 休講		2	2	
		2年			
	更生保護制度 SOW244M 休講		2	2	
		2年			
更生保護制度 SOW244M 深谷 裕	2学期	2	2	378	
	2年				
心理学概論 PSY100M 山下 雅子	2学期	1	2	379	
	1年				
発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	380	
	2年				
老年心理学 PSY213M 石塚 優	2学期	2	2	381	
	2年				
教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	382	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	3	2	383
		3年			
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	3	2	384
		3年			
	カウンセリング論 PSY232M 田中 信利	2学期	3	2	385
		3年			
	心理療法論 PSY231M 中島 俊介	2学期	3	2	386
		3年			
	コミュニケーション論 PSY212M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	リハビリテーション論 HSS330M 山本 浩二	2学期	3	2	387
		3年			
	観光社会学 SOC216M 閉講	集中	1	2	
		1年			
	フィールドワーク論 ANT212M 井上 大輔	1学期	2	2	388
		2年			
	ボランティア活動論 RDE111M 西田 心平	1学期	1	2	389
		1年			
	スポーツ指導論 HSS110M 豊田 直樹	1学期	1	2	390
		1年			
障害者スポーツ指導論 HSS120M 小手川 郁人	1学期	1	2	391	
	1年				
スポーツ・ボランティア指導論 HSS101M 豊田 直樹	2学期	1	2	392	
	1年				
スポーツ心理学 HSS221M 柴原 健太郎	1学期	2	2	393	
	2年				
スポーツ・ボランティア各論 HSS200M 休講	1学期	2	2		
	2年				
コミュニティスポーツ論 HSS220M 山本 浩二	1学期	2	2	394	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	障害者スポーツ各論 HSS224M 小手川 郁人	1学期	2	2	395
		2年			
	スポーツ産業論 HSS222M 内田 満	1学期	2	2	396
		2年			
	身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	3	2	397
		3年			
	身体スポーツ論 HSS210M 柴原 健太郎	2学期	3	2	398
		3年			
	健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	3	2	399
		3年			
	トレーニング論 HSS223M 梨羽 茂	1学期	3	2	400
		3年			
	スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M 寺田 千栄子	2学期	3	2	401
		3年 (2017年度以降入学生対象)			
	スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M 寺田 千栄子	1学期	4	2	402
		4年 (2017年度以降入学生対象)			
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 寺田 千栄子	1学期	4	1	403	
	4年 (2017年度以降入学生対象)				
スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 寺田 千栄子	集中	4	3	404	
	4年 (2017年度以降入学生対象)				
教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	405	
	3年 (2017年度以降入学生対象)				
教育制度論 EDU227M 休講	1学期	3	2		
	3年 (2017年度以降入学生対象)				
精神保健の課題と支援 SOW330M 梶原 浩介	1学期	3	2	406	
	3年 (2017年以降入学生対象)				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	407
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	408
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	409
		1年			
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	410	
	1年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	411	
	2年				
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	412
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	413
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	414
		1年			
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	415	
	1年				
企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	416
	1年				
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	417
	1年				
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	417
	1年				
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	418
	1年				
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	419
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	418	
1年					
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	419	
1年					
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	418	
1年					
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	419	
1年					
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	420
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	420
1年					
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	420
	1年				
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	420
2年					
■専門基幹科目	地域学入門 RDE100M 閉講	1学期	1	2	420
	1年				
	コミュニティ論 RDE212M 閉講	1学期	1	2	420
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	システムマネジメント	2学期	1	2	
	BUS190M 閉講	1年			
	キャリア学概論	2学期	1	2	
	CAR100M 休講	1年			
	プロジェクトマネジメント	1学期	1	2	
	BUS191M 休講	1年			
	地域文化論	2学期	2	2	
	RDE213M 休講	2年			
	キャリア形成論	2学期	2	2	
	CAR200M 休講	2年			
	まちづくりマネジメント	1学期	2	2	
	RDE215M 休講	2年			
	北九州社会論	2学期	2	2	
	RDE214M 閉講	2年			
	地域経営実践論	2学期	2	2	
	RDE216M 休講	2年			
	指導的実習I	1学期	1	1	
	RDE180M 昼のみ開講科目	1年			
	指導的実習II	2学期	1	1	
	RDE181M 昼のみ開講科目	1年			
地域創生実習I		2	1		
RDE280M 昼のみ開講科目	2年				
地域創生実習II		2	1		
RDE281M 昼のみ開講科目	2年				
地域創生実習III		3	1		
RDE380M 昼のみ開講科目	3年				
地域創生実習IV		3	1		
RDE381M 昼のみ開講科目	3年				
スポーツ・ボランティア実習I		2	1		
HSS280M 昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	スポーツ・ボランティア実習II HSS281M 昼のみ開講科目		2	1	2年
	スポーツ・ボランティア実習III HSS380M 昼のみ開講科目		3	1	3年
	スポーツ・ボランティア実習IV HSS381M 昼のみ開講科目		3	1	3年
	障害者スポーツ実習I HSS282M 昼のみ開講科目		2	1	2年
	障害者スポーツ実習II HSS283M 昼のみ開講科目		2	1	2年
	障害者スポーツ実習III HSS382M 昼のみ開講科目		3	1	3年
	障害者スポーツ実習IV HSS383M 昼のみ開講科目		3	1	3年
	相談援助実習 SOW382M 休講	集中	3	6	3年
	地域マネジメント実践論I RDE210M 昼のみ開講科目		2	2	2年
	地域マネジメント実践論II RDE211M 昼のみ開講科目		2	2	2年
地域マネジメント実践論III RDE310M 昼のみ開講科目		3	2	3年	
地域マネジメント実践論IV RDE311M 昼のみ開講科目		3	2	3年	
地域ボランティア実践論I HSS290M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
地域ボランティア実践論II HSS291M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
地域ボランティア実践論III HSS390M 昼のみ開講科目		3	2	3年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門基幹科目	地域ボランティア実践論Ⅳ HSS391M 昼のみ開講科目		3	2	3年	
	地域福祉実践論Ⅰ SOW212M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
	地域福祉実践論Ⅱ SOW213M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
	地域福祉実践論Ⅲ SOW310M 昼のみ開講科目		3	2	3年	
	地域福祉実践論Ⅳ SOW311M 昼のみ開講科目		3	2	3年	
	地域創生基礎演習 A SEM111M 昼のみ開講科目		1	2	1年	
	地域創生基礎演習 B SEM112M 昼のみ開講科目		1	2	1年	
	地域創生基礎演習 C SEM211M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
	地域創生基礎演習 D SEM212M 昼のみ開講科目		2	2	2年	
	地域創生演習 A (夜間特別枠) SEM311M 小林 敏樹	1学期	3	2	3年	421
地域創生演習 A (夜間特別枠) SEM311M 休講	1学期	3	2	3年		
地域創生演習 B (夜間特別枠) SEM312M 小林 敏樹	2学期	3	2	3年	422	
地域創生演習 B (夜間特別枠) SEM312M 休講	2学期	3	2	3年		
地域創生演習 C (夜間特別枠) SEM411M 休講	1学期	4	2	4年		
地域創生演習 C (夜間特別枠) SEM411M 小林 敏樹	1学期	4	2	4年	423	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生演習 C (夜間特別枠)	1学期	4	2	
	SEM411M 休講	4年			
	地域創生演習 D (夜間特別枠)	2学期	4	2	
	SEM412M 休講	4年			
	地域創生演習 D (夜間特別枠)	2学期	4	2	424
	SEM412M 小林 敏樹	4年			
	地域創生演習 D	2学期	4	2	
	SEM412M 休講	4年			
	地域創生演習 D (夜間特別枠)	2学期	4	2	425
	SEM412M 坂本 毅啓	4年			
	相談援助実習指導 1	1学期 (ヘア)	3	2	426
	SOW380M 寺田 千栄子	3年			
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	427
	SOW381M 寺田 千栄子	3年			
	相談援助演習 1	1学期	2	2	
	SOW265M 休講	2年			
	相談援助演習 2	2学期	2	2	
	SOW266M 休講	2年			
	相談援助演習 3	1学期	3	2	
	SOW360M 休講	3年			
相談援助演習 4	2学期	3	2		
SOW361M 休講	3年				
相談援助演習 5	1学期	4	2		
SOW460M 休講	4年				
相談援助演習 5	1学期	4	2	428	
SOW460M 坂本 毅啓	4年				
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ヘア)	4	4		
STH410M 休講	4年				
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ヘア)	4	4	429	
STH410M 小林 敏樹	4年				

地域創生学群 地域創生学類 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	430
	STH410M 深谷 裕	4年			
	卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	431
	STH410M 坂本 毅啓	4年			
■専門科目	地域コーディネート論	2学期	1	2	
	RDE110M 休講	1年			
	地域調査論	1学期	2	2	
	INF242M 休講	2年			
	景観まちづくり論	2学期	2	2	432
	ARC233M 片岡 寛之	2年			
	ものづくりマネジメント論	2学期	2	2	
	BUS317M 休講	2年			
	福祉環境デザイン論	1学期	2	2	
	ARC235M 休講	2年			
	危機管理論	2学期	2	2	
	SSS210M 閉講	2年			
	都市計画の基礎	2学期	2	2	
	ARC234M 休講	2年			
	地域創生特講I	1学期	2	2	
	RDE290M 昼のみ開講科目	2年			
	地域創生特講II	1学期	2	2	
	RDE291M 昼のみ開講科目	2年			
	まちづくり実践論	1学期	3	2	433
	RDE312M 南 博	3年			
法学総論	1学期	1	2	434	
LAW100M 小野 憲昭	1年				
日本国憲法原論	1学期	1	2	435	
LAW120M 山本 健人	1年				
憲法人権論	2学期	1	2		
LAW220M 休講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	民法総則		1	4	1年
	LAW160M 昼のみ開講				
	民法概論I	1学期	2	2	2年
	LAW161M 休講				
	民法概論II	2学期	2	2	2年
	LAW162M 休講				
	親族法		2	2	2年
	LAW264M 昼のみ開講				
	物権法		2	2	2年
	LAW260M 昼のみ開講				
	社会法総論	2学期	2	2	2年
	LAW140M 休講				
	行政法総論	1学期(ベア)	2	4	2年
	LAW121M 休講				
	刑法犯罪論		2	4	2年
	LAW130M 昼のみ開講				
	刑法犯罪各論I		3	2	3年
	LAW230M 昼のみ開講				
	刑法犯罪各論II		3	2	3年
	LAW330M 昼のみ開講				
会社法I	1学期	3	2	3年	
LAW270M 休講					
会社法II	2学期	3	2	3年	
LAW271M 休講					
企業取引法I		3	2	3年	
LAW272M 昼のみ開講					
企業取引法II		3	2	3年	
LAW372M 昼のみ開講					
知的財産法		3	2	3年	
LAW341M 昼のみ開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	行政争訟法		3	2	
	LAW222M 昼のみ開講	3年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	LAW322M 昼のみ開講	3年			
	NPO論	1学期	1	2	
	PLC114M 休講	1年			
	政治過程論		1	2	
	PLS210M 昼のみ開講	1年			
	福祉国家論		1	2	
	PLC112M 昼のみ開講	1年			
	地方自治論	1学期	2	2	
	PAD211M 休講	2年			
	政策過程論		2	2	
	PLC212M 昼のみ開講	2年			
	福祉政策論	1学期	2	2	
	PLC217M 休講	2年			
	都市経済論		2	2	
	PLC113M 昼のみ開講	2年			
	都市環境論	1学期	2	2	436
	PLC111M 吉田 舞	2年			
公共経営論		2	2		
PAD212M 昼のみ開講	2年				
都市経営論		2	2		
PAD213M 昼のみ開講	2年				
経済学入門A	1学期	1	2	437	
ECN110M 牛房 義明	1年				
現代日本経済入門A	1学期	1	2		
ECN150M 閉講	1年				
現代日本経済入門B	2学期	1	2		
ECN151M 閉講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	金融論I ECN260M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	金融論II ECN261M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期	2	2	438
	2年				
	国際経済論II ECN241M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	国際金融論I ECN363M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	国際金融論II ECN364M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	地域経済I ECN244M 田村 大樹	1学期	2	2	439
	2年				
	経済地理学I ECN242M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	財政学I ECN361M 前林 紀孝	1学期	3	2	440
	3年				
環境経済学 ECN340M 休講	2学期	3	2		
3年					
マネジメント論基礎 BUS111M 岸野 早希	2学期	1	2	441	
1年					
企業論基礎 BUS110M 姚 智華	2学期	1	2	442	
1年					
簿記論I ACC110M 休講	1学期	1	2		
1年					
簿記論II ACC111M 昼のみ開講		1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	数学		1	2	
	MTH100M 昼のみ開講	1年			
	経営統計		1	2	
	MTH150M 昼のみ開講	1年			
	情報デザイン	2学期	1	2	
	INF103M 閉講	1年			
	プログラミングI		1	2	
	INF110M 昼のみ開講	1年			
	プログラミングII (新JAVA)		2	2	
	INF210M 昼のみ開講	2年			
	コンピュータシステム	1学期	2	2	443
	INF220M 河島 晋	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	444
	ACC214M 西澤 健次	2年			
	財務会計論II		2	2	
	ACC215M 昼のみ開講	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	445
	BUS213M 山下 剛	2年			
	データ構造		2	2	
	INF231M 昼のみ開講	2年			
データベース	2学期	2	2		
INF232M 休講	2年				
Webプログラミング		2	2		
INF212M 昼のみ開講	2年				
人的資源管理論	1学期	3	2		
BUS310M 休講	3年				
中小企業論	1学期	3	2		
BUS313M 休講	3年				
企業データ分析		3	2		
INF341M 昼のみ開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門科目	オペレーションズ・マネジメント INF200M 昼のみ開講		3	2	3年	
	情報経営 BUS316M 昼のみ開講		3	2	3年	
	システム分析 INF340M 休講	1学期	3	2	3年	
	システム設計 INF420M 閉講		3	2	3年	
	現代社会と福祉 1 SOW100M 休講	1学期	1	2	1年	
	現代社会と福祉 2 SOW101M 休講	2学期	1	2	1年	
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 休講	2学期	1	2	1年	
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 坂本 毅啓	1学期	1	2	1年	446
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 閉講	1学期	2	2	2年	
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 岡本 政孝	1学期	2	2	2年	447
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 寺田 千栄子	2学期	2	2	2年	448	
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	2	2	2年	449	
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	2	2	2年	450	
相談援助の理論と方法 1 (読替科目 : 相談援助の理論と方法 1) SOW262M 藤上 幸恵	1学期	2	2	2年	467	
相談援助の理論と方法 2 SOW263M 工藤 歩	2学期	2	2	2年	451	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 藤田 博久	1学期	2	2	452
	2年				
	社会保障 SOW240M 安川 涉寛	1学期	2	2	453
	2年				
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 柴田 滋	2学期	2	2	454
	2年				
	人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 島 京子	1学期	2	2	455
	2年				
	保健医療サービス SOW230M 金蔵 常一	2学期	2	2	456
	2年				
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	2	2	457
	2年				
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 植竹 克典	1学期	2	2	458
	2年				
	就労支援サービス SOW243M 横谷 佳代	2学期	2	2	459
	2年				
	心理学概論 PSY100M 休講	2学期	1	2	
	1年				
心理学概論 PSY100M 休講	2学期	1	2		
1年					
発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	460	
2年					
老年心理学 PSY213M 石塚 優	2学期	2	2	461	
2年					
教育心理学 PSY220M 昼のみ開講		2	2		
2年					
対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	3	2	462	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門科目	臨床心理学 PSY230M	1学期	3	2	3年	
	休講					
	カウンセリング論 PSY232M	2学期	3	2	3年	
	休講					
	心理療法論 PSY231M	2学期	3	2	3年	463
	寺田 千栄子					
	コミュニケーション論 PSY212M	1学期	3	2	3年	
	休講					
	リハビリテーション論 HSS330M	2学期	3	2	3年	
	休講					
	観光社会学 SOC216M	2学期	1	2	1年	
	閉講					
	フィールドワーク論 ANT212M		2	2	2年	
	昼のみ開講科目					
	ボランティア活動論 RDE111M	1学期	1	2	1年	
	休講					
	スポーツ指導論 HSS110M		1	2	1年	
	休講					
	障害者スポーツ指導論 HSS120M		1	2	1年	
	昼のみ開講科目					
スポーツ・ボランティア指導論 HSS101M	2学期	1	2	1年		
休講						
スポーツ心理学 HSS221M		2	2	2年		
昼のみ開講						
スポーツ・ボランティア各論 HSS200M		2	2	2年		
昼のみ開講科目						
コミュニティスポーツ論 HSS220M	1学期	2	2	2年		
休講						
障害者スポーツ各論 HSS224M		2	2	2年		
昼のみ開講科目						

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門科目	スポーツ産業論 HSS222M 休講	2学期	2	2	2年	
	身体適応論 HSS231M 休講	1学期	3	2		3年
	身体スポーツ論 HSS210M 柴原 健太郎	2学期	3	2	3年	
	健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	3	2		3年
	トレーニング論 HSS223M 休講	1学期	3	2	3年	
	スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M 昼のみ開講科目		3	2		3年
	スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M 昼のみ開講科目		4	2	4年	
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 昼のみ開講科目		4	1		4年
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 昼のみ開講科目	集中	4	3	4年 (2017年度以降入学生対象)	
	精神保健の課題と支援 SOW330M 昼のみ開講科目	1学期	3	2		3年 (2017年以降入学生対象)

歴史と政治【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦―「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災―「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化―二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化―戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交―1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議―「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変―「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊―「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相―謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

歴史と政治【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 さまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田國江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス (日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎 (1) ミクロとマクロ (日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎 (2) 宇宙で生まれた物質 (中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎 (3) 生命と分子 (日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性 (1) 生物の分類と系統 (日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性 (2) ウイルスは生物か (日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性 (3) 単細胞生物と多細胞生物 (日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性 (4) 生態系と進化 (日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性 (5) 多様な生命 (日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性 (1) 遺伝子の名前 (日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性 (2) 多様性を生む生殖 (日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは (1) 科学と疑似科学 (日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは (2) 太陽と地球の環境 (中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは (3) 人類の起源 (日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ (日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を歩んでいたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

可能性としての歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能(一)です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

言語と認知【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第9回 ヒューマンエラー(松田)
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者からの課題の講評など(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% (最終)課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の(最終)課題を提出しない限り評価不能(一)となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習:担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】 共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
 - 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
 - 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
 - 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)
 - 5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー
- 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一（評価不能）評価とする。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加するには、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジユメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジユメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジюме作成 100%
- * レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジюмеの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決断するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジюмеの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

現代人のこころ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 2学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
			環境都市としての北九州
			ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

環境都市としての北九州【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(外部講師)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤教育センター・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 6回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業(大学院マネジメント研究科・松永)
- 8回 施設見学(環境ミュージアム)
- 9回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 10回 環境問題とNPO①(都市交通、外部講師)
- 11回 環境問題とNPO②(フードバンク、外部講師)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 特別講義(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター・石川)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
 授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
 期末レポート・・・10%
 課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
 事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
 ・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
 ・環境首都検定は12月11日(日)の予定。
 *スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
 *見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自律的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用するのがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活しているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定

○ 『現代の社会学的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)

『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750

その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			人権論
			SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

「女性はわきまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自律的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に興味をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自律的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

- 【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」 都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」 都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自律的行動」 都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

都市と地域【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念:『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例(LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題(合計) ... 40% 最終クイズ(2回合計) ... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2015年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor	篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科 久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科																																			
履修年次 1年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 講義 /Class Format	クラス 1年 /Class																																
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <tr> <th>2011</th><th>2012</th><th>2013</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>												2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			○	○	○	○	○	○				
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022																									
		○	○	○	○	○	○																													

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

現代の国際情勢【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(篠崎)オリエンテーション
- 第2回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(1)概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(2)現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回(阿部)米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回(政所)国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回(政所)国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回(久木)2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
- 第8回(久木)2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
- 第9回(篠崎)世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回(大平)東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回(デルガド) Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
(※英語での講義です)
- 第12回(白石)中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回(柳)朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回(柳)北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回(下野)台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%
- 小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連
- 第4回(阿部)9. 産業・技術革命
- 第5回、第6回(政所)16. 平和と公正
- 第7回(久木)3. 健康と福祉を
- 第8回(久木)10. 不平等をなくす
- 第9回(篠崎)11. まちづくり
- 第11回(デルガド)9. Innovation and Infrastructure (産業・技術革命)
- 第12回(白石)17. グローバル・パートナーシップ
- 第15回(下野)5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】 国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	40%
毎回のコメントカード	30%
その他、小レポートなど	30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクシヨN(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクシヨNや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第5回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み(課題の提出) 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題をMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔(オンデマンド)授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%
欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...70% レポート...30%

4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・ヘルスI
			HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・ヘルスI
			HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...70% レポート...30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 1学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅ですぐに運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回～7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回～9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回～11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回～13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (ー) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

- < 到達目標 >
 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより充実させるための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%
※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。

⑤講義

⑥授業終了後、大福帳を提出する。

⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

キャリア・デザイン 【昼】

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会 (税込1,980円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな(自己表現)のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリューススコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームズ W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
 最終レポート・・・30%
 採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- <基本事項>
- ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
- ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- <履修者調整について>
- ※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。

例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ペンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%
毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%
最終レポート・・・30%
なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

<授業の進め方>

- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
- ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
- ③第3回までにグループ핑と挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
- ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
- ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
- ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
- ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体に実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講して下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良い市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能（-）とします。

また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能（-）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。

講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。

受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

英語I (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 1年次
単位 /Credits 1単位 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス 群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

英語I (群 1 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ①PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST 「600点を目指すTOEIC® L&R TEST へのストラテジー」 松本恵美子著 成美堂 ¥2200(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 UNIT 1 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 UNIT 2 Restaurant
- 4回 UNIT 3 Hotel / Service
- 5回 UNIT 4 Employment
- 6回 UNIT 5 Entertainment
- 7回 UNIT 6 Shopping / Purchases
- 8回 UNIT 7 Sports / Health
- 9回 UNIT 8 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 UNIT 9 Hobbies / Art
- 11回 UNIT 10 Education / Schools
- 12回 UNIT 11 Technology / Office Supplies
- 13回 UNIT 12 Transportation
- 14回 UNIT 13 Travel / Airport
- 15回 UNIT 14 Housing / Construction

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICテストのスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (群 1-B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（5分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition
著者：Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira ¥2,200（税込み）
出版社：センゲージラーニング 2016年1月出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Shopping 買い物
- 3回 Daily Life 日常生活
- 4回 Transportation 交通
- 5回 Jobs 職業
- 6回 Meals 食事
- 7回 Communication コミュニケーション
- 8回 Fun 楽しみ
- 9回 Office Work オフィスワーク
- 10回 Meeting 会議
- 11回 Travel 旅行
- 12回 Finance お金
- 13回 Business ビジネス
- 14回 予備(1) 1～13回でできなかったところ
- 15回 予備(2) 1～13回でできなかったところとまとめ

英語I (群 1-C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 定期試験 (50%)
- ② 小テスト (30%)
- ③ 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。
- ④ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学は予習が必要です。どこがわかるかわからないかが、わかっていれば予習は成立しています。授業では、文字を見て意味がわかり、音声を聞いて意味がわかり、音読ができるようになっていただきます。受講生の理解度等に応じて、授業内容を変更することもあります。音声はダウンロード形式です。教室では音声は流しません。自分で聞く必要があります。

キーワード /Keywords

英語I (群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
コミュニケーション力		●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー)
(成美堂) (¥2,200)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Restaurant : Listening、U.1 単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Hotel / Service : Listening、U.2 単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Employment : Listening、U.3 単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Entertainment : Listening、U.4 単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping / Purchases : Listening、U.5 単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Sports / Health : Listening、U.6 単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ、試験説明

英語I (群 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み (課題、小テスト) ...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいる。

（ Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。 ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 分の好きな仕事
- 3回 働き改
- 4回 少齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 読解
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

英語I (群 1-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第 3 回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第 4 回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第 5 回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第 6 回 Unit 5: Meals (時制)
- 第 7 回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第 8 回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第 9 回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第 10 回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第 11 回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第 12 回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第 13 回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第 14 回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第 15 回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

英語I (群 1 - F) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

英語I (律政群 1-G) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1-H) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 I
			ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST

著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業ではTOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語I (律政群 1-H) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

語彙 & 文法の復習テスト・ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Emiko MATSUMOTO 他、Progressive Strategy for the TOEIC L&R Test、978-4-7819-7233-3、SEIBIDO、2000円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円（税別）
TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円（税別）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 Restaurant
- 4回 Hotel / Service
- 5回 Employment
- 6回 Entertainment
- 7回 Shopping / Purchases
- 8回 Sports / Health
- 9回 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 Hobbies / Art
- 11回 Education / School
- 12回 Technology / Office Supplies
- 13回 Transportation
- 14回 Travel / Airport
- 15回 Housing / Construction

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点(20%)と筆記試験(80%)にTOEIC® L&Rのスコアを加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。
事後学習：学習した語彙と文法を復習しましょう。語彙&文法の復習テストを実施します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
第1回の授業の前に必ず新しい教科書を買ってください。
受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
語彙&文法テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で学習を済ませてテストに臨んでください。
その他詳細は初回講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行することがあります。

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 3
北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155968
（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語II (群 1-A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

英語II (群 1-B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回 の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST 「TOEIC L&R テスト攻略の鍵」 安丸雅子 他著 金星堂 ￥2090(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life
- 3回 Unit 2 Shopping
- 4回 Unit 3 Parties & Events
- 5回 Unit 4 Traffic & Travel
- 6回 Unit 5 Office Work
- 7回 Unit 6 Marketing & ICT
- 8回 Review Test1
- 9回 Unit 7 Production & Logistics
- 10回 Unit 8 Employment
- 11回 Unit 9 Personnel
- 12回 Unit 10 Business
- 13回 Unit 11 Health & Environment
- 14回 Unit 12 Finance
- 15回 Review Test2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語II (群 1-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（一）とします。

英語II (群 1-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（一）とします。

英語II (群 1-E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

"STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 2 - Intermediate -" (一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2) (朝日出版社) (¥ 1,870)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Eating Out : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Travel : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Amusement : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 U. 4 Meetings : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Personnel : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Shopping : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Advertisement : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7: Reading、まとめ

英語II (群 1-F) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み (課題、小テスト) ...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語II (群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

英語II (群 1-G) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 2
北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155951
（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語II (律政群 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語III (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1 - E																											
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <tr> <th>2011</th><th>2012</th><th>2013</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>												2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			○	○	○	○	○	○				
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022																									
		○	○	○	○	○	○																													

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
関心・意欲・態度	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
- Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
- Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
- Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
- Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
- Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
- Week 8 Review of Units 1-3
- Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
- Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
- Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
- Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
- Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
- Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
- Week 15 Review

英語III (群 1-E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1 - F				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
				○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標			
知識・理解	総合的知識・理解					
技能	情報リテラシー					
	数量的スキル					
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。			
思考・判断・表現	その他言語力					
	課題発見・分析・解決力					
関心・意欲・態度	自己管理能力					
	社会的責任・倫理観					
	生涯学習力					
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。			
			英語Ⅲ		ENG102F	

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

英語III (群 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The main aim of this course is to consolidate students' basic English skills in writing and speaking.

Additionally, students will use reading, writing, listening, and speaking to meet daily needs of university students at the beginner level.

教科書 /Textbooks

Smart Choice: Level 2 : Multi-Pack A with Online Practice 3rd ed. ISBN 9780194602761

Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Recommendations will be made at the beginning of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
 Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
 Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B), Unit Quiz #1
 Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
 Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B) Unit Quiz #2
 Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
 Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B) Unit Quiz #3
 Week 8 Midterm Speaking Test
 Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
 Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B) Unit Quiz #4
 Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
 Week 12 Unit 5 Where's the party? (B) Unit Quiz #5
 Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
 Week 14 Unit 6 You should try it! (B) Unit Quiz #6
 Week 15 Review and prepare for final speaking test

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%

Unit Quizzes 20%

Homework 10%

Midterm Speaking Test 20%

Final Speaking Test 20%

Note: Missing the final test will result in a — grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします!

英語III (群 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. With good attendance, homework, and preparation, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅲ
			ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

英語III (律政群 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3 ¥3,091 [税込]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

英語III (律政群 1 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 20%, Final Test 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishⅢ・Ⅳ (共通)

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A (ISBN 9781108570701)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

英語III (群 1 - A) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "My Interests"
Discussing and learning about interests. / Basic communication skills. / Sports and exercise vocabulary.
3. "My Interests"
Unit listening and reading practice.
4. "Descriptions"
Learning to talk about and describe people. / Basic "What" question skills. / Personality adjectives and appearance.
5. "Descriptions"
Unit listening and reading practice.
6. "Rain or shine"
Learning to talk about the weather. / Using adverbs of intensity. / Weather and indoor activities vocabulary.
7. "Rain or shine"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Life at Home"
Learning how to describe your home. / Using "How many, How much" and separable two word phrasal verbs. / Household chores, making requests vocabulary.
10. "Life at Home"
Unit listening and reading practice.
11. Health"
Giving and following instructions, discussing health. / Adverbs of manner. / "How" questions.
12. Health"
Unit listening and reading practice.
13. "What's on TV?"
Learning to talk about TV shows. / Talking about future plans. / Agreeing and disagreeing. / Types of TV shows.
14. "What's on TV?"
Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語Ⅲ (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase, Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Split 1A with Online Workbook Access Code Second Edition, National Geographic Learning, ISBN 978-1-33-756255-3, ¥3,091

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction / Meeting People
- Week 2 Unit 1: Living for Work / Millennials at Work
- Week 3 Speaking Skills / The Simple Present vs. the Present Continuous
- Week 4 Listing and Video Activities
- Week 5 Group Discussion
- Week 6 Presentation Preparation
- Week 7 Presentation
- Week 8 Unit 3: The Marketing Machine / The On-Demand Economy
- Week 9 Speaking Skills / Clarifying
- Week 10 Listening and Video Activities
- Week 11 Group Discussion
- Week 12 Presentation Preparation
- Week 13 Presentation
- Week 14 Unit 4: Wild Weather / Extreme Weather Around the World
- Week 15 Speaking Skills / Count and Noncount Nouns

英語III (群 1-B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit Quizzes: 20 percent
Presentations: 30 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 30 percent
試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.
試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Due to Covid-19, we may have to do online classes.

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語III (群 1-C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
 (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語Ⅲ (群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
Week 15 Review

英語III (群 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

英語IV (群 1-E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Going Places published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-619 by Todd Jay Leonard (author) (2,420 yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

英語Ⅳ (群 1 - F) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Preparation for Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Assignments: 50%

Midterm (25%) and Final Speaking Exam: 25%

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。Students who do not attend the final exam will be awarded (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

英語Ⅳ (群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語Ⅳ (群 1-G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
 (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語 IV (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・IV (共通)

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)

Cambridge University Press

About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語 IV (律政群 1 - H) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Shopping 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Shopping 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Fun in the City 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Fun in the City 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：People 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：People 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：In a Restaurant 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：In a Restaurant 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Entertainment 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Entertainment 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Time for a Change 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Time for a Change 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

英語IV (群 1 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (40%), presentations (20%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語Ⅳ (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 群 1 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ● 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	● 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785 2695yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
 Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
 Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
 Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
 Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
 Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
 Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
 Week 8 Review of Units 7-9
 Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
 Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
 Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
 Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
 Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
 Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
 Week 15 Review

英語IV (群 1-B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you in class. Let's enjoy the class.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1-C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・Ⅳ (共通)

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)

Cambridge University Press

About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語Ⅳ (群 1-C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語Ⅳ (群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語Ⅳ (群 1-D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
 (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語V (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

教科書 /Textbooks

“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
（著者）Ayako Yokogawa, Tony Cook（センゲージ・ラーニング）（¥2,310 [税込]）
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

英語V (律政群 2-E) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 続副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、期末試験...50%、平常の授業への取組 (小テストを含む)...30%、e-learning 学習状況...20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。
①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。
②巻末の「頻出語句リスト」を活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - F /Law School 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&Rテスト）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (律政群 2-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
（著者）早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel : Listening
- 3回 U. 1 :Reading
- 4回 Unit 2 Dining Out : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Media : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Entertainment : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Purchasing : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Clients : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Recruiting : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

英語V (律政群 2-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Bamba, Naoyuki et al. 2019. "Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (レベル別 TOEIC® L&Rテスト実力養成コース：中級編)." Tokyo: Kinseido. (¥2200 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

英語V (群 2 - A) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 ...10%
Degree of execution in designated e-learning 指定 e-learning の学習状況...20%
Final examination 期末試験...70%

Note that if you do not take the final examination, the grade will be "unevaluable (-)".
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Score Booster for the TOEIC(R) L&R Test: Intermediate
(著者) 番場直之・小山克明 金星堂 (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle(学習管理システム)にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、プレイズメント・テスト
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 Unit 14 Sales & Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：30%、平常の授業への取り組み（小テストを含む）：50%、 e-learning学習状況：20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

英語V (群 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力			
	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 1 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC (R) Listening & Reading 問題集 7 （国際コミュニケーション協会）（3,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC (R) Listening & Reading 問題集 1~6、8 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5 (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の授業への取り組み（小テスト、課題などを含む）...50%、e-learning 学習状況...20%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（-）とします。

英語V (群 2 - C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7 978-4-906033-61-4
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

英語V (群 2 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト：10%
期末試験：50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TESTパーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ￥2420(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Websites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (群 2 - E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST ”
(TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習) (著者) 石井隆之他共著 成美堂 ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading 、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 2 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 8 （国際コミュニケーション協会）（3,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1～7 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5, (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、課題等を含む）...50%、e-learning 学習状況...20%
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

- ① “ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST”
（TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習）（著者）石井隆之他共著 成美堂 ￥2,420
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ”（著者）TEX加藤 朝日新聞出版 ￥979

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Department Store、U. 1単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Train Station、U. 2単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Transportation、U. 3単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Post Office、U. 4単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Bank、U. 5単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Airport、U. 6単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 Unit 8 Hotel、U. 7単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 Unit 9 Hospital、U. 8単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 Unit 10 Events and Performances、U. 9単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 Unit 11 College、U. 10単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 Unit 12 Office、U. 11単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 Unit 13 Business Trip、U. 12単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語VI (群 2 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
コミュニケーション力		●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Ishii, Takayuki, et al. 2020. "ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L & R TEST (TOEIC® L&R TEST オールラウンド演習)." Tokyo: Seibido. (¥2420 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

英語VI (群 2 - B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Units 11 and 12
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 ...10%
Degree of execution in designated e-learning 指定 e-learning の学習状況...20%
Final examination 期末試験...70%

Note that if you do not take the final examination, the grade will be "unevaluable (-)".
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができます。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8 978-4-906033-63-8
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2021.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

英語VI (群 2 - C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題 : 20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト : 10%
期末試験 : 50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

基礎的な文法・語法学習並びにリーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「500点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

教科書 /Textbooks

TOEIC® L&R TEST オールラウンド演習 ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 石井 隆之 他共著 成美堂 ¥2,420 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語VI (群 2 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・30%、e-learning 学習状況・・・20%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one discussion style debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Discussion and Debate
- 2回 Critical Thinking Skills: Providing Facts / Opinions / Supporting Ideas
- 3回 Responding to Facts & Opinions: Agreeing, Disagreeing & Giving Reasons
- 4回 Organization & Structure: Starting the Discussion / Matching Ideas / Ending the Discussion
- 5回 Positive Persuasive Discussion: Writing Time
- 6回 Positive Persuasive Discussion: Pair Presentation 1
- 7回 Pro / Con Discussion: Research & Write
- 8回 Pro / Con Debate Discussion: Peer Editing & Practice
- 9回 Pro / Con Debate Discussion: Pair Presentation 2
- 10回 Argumentative Debate: Research & Write
- 11回 Argumentative Debate: Presentation Skills & Practice
- 12回 Argumentative Debate: Pair Presentation 3
- 13回 Spontaneous Debate Challenge
- 14回 Final Test Preparation: Stage 1
- 15回 Final Test Preparation: Stage 2

英語VII (群 2 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Presentations 30%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A Third Edition, Wilson Oxford University Press Oxford University Press 2592 yen
978-0194602853

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are expected to use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing hobbies present perfect continuous
- 2回 Personal profiles and drone rodeo
- 3回 I think it's exciting- adjectives in -ing and -ed
- 4回 Describing TV shows and indirect questions
- 5回 Passives and reductions of don't and do
- 6回 A tour of three art museums
- 7回 Review of first three units
- 8回 Describing people and relative clauses
- 9回 Famous friendships and online messaging
- 10回 Infinitives and gerunds
- 11回 An article about robots and auction ad
- 12回 Describing events and the past perfect
- 13回 A travel accident about past events
- 14回 Review of last three units
- 15回 Review for exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします

英語VII (群 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare a weekly peer journal where they write about weekly activities

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語VII (群 2 - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 : Course introduction, requirements, grading advice.

第2回 : Unit 1 - 'I've been running' Vocabulary(用語), conversation (会話)(listening and speaking), language practice (文法)(grammar review), pronunciation(発音), and longer listening activity (長いリスニング).

第3回 : Speaking activity(スピーキング練習), reading(読書), and pair work(ペアワーク). Complete the review on pages 1-5 at the back of the book.(ワークブック)

第4回: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第5回: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

第6回: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第7回: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

第8回: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト (graded - 採点)

第9回: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第10回: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

第11回: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第12回: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

第13回: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

第14回: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

第15回: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語VII (群 2 - D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語VII (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Education 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Personal Stories 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Personal Stories 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Style and Fashion 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Style and Fashion 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Interesting Lives 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Interesting Lives 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Our World 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Our World 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Organizing your time [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

英語VII (群 2 - E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
 (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
 (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語VIII (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力、語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People Places and Perspectives
映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点
by Todd Rucynski 中川洋子 金星堂（2970円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 記事を読む 3 . Discussion

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 中間テスト 7課
- 9回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 10回 Chapter 8 Oswego, New York
- 11回 Chapter 9 Austin, Texas
- 12回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 13回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 14回 Chapter 12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 15回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter 14 Los Angeles 2

英語VIII (群 2 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30% 予習点14点パーセント 単語のテスト25点 期末試験31%
中間・期末テストを受験しなかった場合、成績不能(一)とします。
オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

必ずビデオを見て、CDを聞いて、予習をしてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に予習点の説明をします。指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

VOA (Voice of America)のニュース記事を使って、英語をトレーニングする授業です。毎週短めの記事をピックアップします。VOAの中でも Learning Englishのセクションに上がっている非英語話者向けの記事を使いますので、語彙、文法、読み上げスピードのどれも頑張れば十分に手が届くレベルです。

授業ではピックアップしたニュース記事、レポート記事をじっくりと読みます。単語はクイックレスポンスできるまで繰り返し練習し、登場した単語は正しく発音できるまで徹底練習、文法ルールは分かるまで丁寧に。内容をしっかり理解した後は、動画や音声を使ってシャドーイングやリピティングの練習を個人、ペア、グループで行います。

ピックアップした記事をいろいろな角度から、いろいろなやり方でモノにしていきます。

教科書 /Textbooks

使用しません。VOAのサイト上に公開されている素材を使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自、高校時代に使用していた参考書など、しっかり読み返しましょう。

英語VIII (群 2 - B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業の進め方、グループわけ、アプリ紹介)
- 2 . VOAニュース記事 教育分野
- 3 . VOAニュース記事 文化分野
- 4 . VOAニュース記事 政治分野
- 5 . VOAニュース記事 医療分野
- 6 . VOAニュース記事 経済分野
- 7 . VOAニュース記事 環境分野
- 8 . 前半のまとめ
- 9 . VOAニュースレポート 国際開発
- 10 . VOAニュースレポート 農業
- 11 . VOAニュースレポート 医療
- 12 . VOAニュースレポート 技術
- 13 . VOAニュースレポート 環境
- 14 . 後半のまとめ
- 15 . 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題、ペア / グループワークへの参加度 : 30%
小テスト : 20%
期末試験 : 50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

VOA

英語VIII (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Vocabulary Review Test を実施します。

教科書 /Textbooks

Junko Murao 他、INSIGHTS 2022、978-4-7647-4147-8、KINSEIDO、1900円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円（税別）
TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円（税別）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction / 英字新聞を知ろう (教科書を必ず買って持ってくる)
- 2回 Chapter 1 Global Competition in the Sky
- 3回 Chapter 2 Library on Wheels
- 4回 Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Chapter 4 Olympic Pride
- 6回 Chapter 5 The Big Business of Water
- 7回 Chapter 6 Evacuation Shelters for pets
- 8回 Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 9回 Chapter 8 Home Is Where the Heart Is
- 10回 Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 11回 Chapter 13 No Teens Allowed
- 12回 Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara
- 13回 Chapter 17 We still Don't Have Choices
- 14回 Chapter 18 Urban Farming in Singapore
- 15回 Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto

成績評価の方法 /Assessment Method

欠席が授業実施回数の 3 分の 1 を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点 (20%) と筆記試験 (80%) で総合的に評価します。

英語VIII (群 2 - C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：該当の Chapter を通読して、わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。

事後学習：毎回授業の冒頭に前回の授業内容についての Vocabulary Review Test を実施するので、必ず学習した語彙を復習して授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

第1回の授業に必ず教科書を買って持ってくること。

欠席が授業実施回数の 3 分の 1 を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

必ず新しい教科書を買ってください。

受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。

Vocabulary Review Test などの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で学習を済ませてテストに臨んでください。

質問がある場合は、授業中に聞くこと。

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

その他詳細は初回講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行する可能性があります。

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、現代社会の様々なトピックについて書かれた英文を音読した後、文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

授業では小テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂（2,090円 [税込]）
ISBN: 978-4-7919-7207-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

英語VIII (群 2 - D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 1単位 / 1単位
学期 /Semester 2学期 / 2学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 群 2 - E / 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、TOEIC テストの公式問題集を用いて、リスニングとリーディングの英語力向上も目指します。

教科書 /Textbooks

Insights 2022 世界を読むメディア英語入門 2022 （金星堂）（2,090円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1~8 （国際コミュニケーション協会）(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Global Competition in the Sky
- 3回 Library on Wheels
- 4回 English Subtitles Help Foreign Residents
- 5回 Olympic Pride
- 6回 The Big Business of Water
- 7回 Evacuation Shelters for Pets
- 8回 TOEIC 演習
- 9回 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 10回 Home Is Where the Heart Is
- 11回 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 12回 The Historic Red-Planet Mission
- 13回 More Layers Make You Feel Cooler
- 14回 Impossible May Be Possible
- 15回 No Teens Allowed

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の授業への取り組み（小テスト、リスニングテスト、課題等を含む）...70%
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

英語VIII (群 2 - E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、毎回250語前後のエッセイを読みながら、文法力・語彙力・聴解力を身に付けていきます。

教科書 /Textbooks

『やさしく読める社会事情』

（著者）Joan McConnell, 山内 圭 成美堂（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 9 Tattoos
- 11回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 12回 Chapter 11 All the Lonely People
- 13回 Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet
- 14回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 15回 Chapter 14 Helping People with Disabilities

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%、平常の授業への取り組み：30%、小テスト：20%

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』

著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税入)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会) 等。

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

ビジネス英語I (群1年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、ビジネス上のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ビジネス英語 I	ENG131F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

ビジネス英語I (群 1 年) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語II (群 1 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 / Credits 1単位 / Semester 2学期 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、ビジネス上のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ビジネス英語 II	ENG132F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

ビジネス英語II (群 1 年) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語I (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 60% 小テスト・・ 20% 日常の授業への取り組み・・ 20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語I (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語II (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語II (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語Ⅳ(1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語Ⅳ(1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

中国語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関(本文) |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州(本文) |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡(本文) |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀(本文) |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎(本文) |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国(本文) |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道(本文) |
| 15回 | 総合練習 | |

中国語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
 (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

中国語Ⅶ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
 (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第九課	宮島と下関(会話)
2回	第九課	練習
3回	第十課	九州(会話)
4回	第十課	練習
5回	第十一課	福岡(会話)
6回	第十一課	練習
7回	第十二課	佐賀(会話)
8回	第十二課	練習
9回	第十三課	長崎(会話)
10回	第十三課	練習
11回	第十四課	四国(会話)
12回	第十四課	練習
13回	第十五課	仙台と北海道(会話)
14回	第十五課	練習
15回	総合練習	

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、韓国語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字の練習
- 2回 母音字のドリル、基本子音字の練習
- 3回 激音と濃音
- 4回 文字の復習、読み取りテスト
- 5回 複合母音
- 6回 ハングルの終声(パッチム)
- 7回 発音の変化
- 8回 ハングル表記法及び話してみよう。
- 9回 11課 大学生ですか。
- 10回 12課 会社員ではありません。
- 11回 13課 どこで習いますか。
- 12回 11～13課までの復習、小テスト
- 13回 14課 暑くありませんか。
- 14回 15課 誕生日はいつですか。
- 15回 14～15課までの復習、小テスト

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験 : 50%
- ・ 日常の授業への取り組み : 40% (小テスト4回)
- ・ レポート : 10%

※成績評価の対象としない場合 (評価不能) について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習 : 次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習 : 以下の①~③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行っただうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
 受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
 また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

『韓国語初歩(三訂版)』巖基珠・金三順ほか 白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『韓国語へ旅しよう』初級 李昌圭著 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習、小テスト
- 15回 総まとめ

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点 (小テスト4回)
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合 (評価不能 (-)) について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能 (-) とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。

・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。

・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。

・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・ 40% レポートや課題・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能（-）とします。

①出席が10回未満の場合

②定期試験を受験しなかった場合

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

- ①出席が10回未満の場合
- ②定期試験を受験しなかった場合

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 〇変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 〇変則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、～しに・～ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅴ【昼】

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄹ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

朝鮮語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄹ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

キーワード /Keywords

キャリア学概論【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	キャリアに関する各種理論を理解し、実習や演習にてその知識を実践する方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	フィールドワークで学んだことを簡潔にまとめ、他のメンバーにもわかりやすくプレゼンテーションする力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	困難な課題に主体的・積極的に挑み、多様な人々と共同しながらそれを乗り越える力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり常に自己を省察し、今何をすべきかに気づき、実践し、リフレクションを行うことができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

キャリア学概論	CAR100M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

< 目的 > 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、地域創生学群の活動を、自らのキャリア形成に繋がめます。特にコロナ禍など、不可避な様々な出来事に対し、それをプラスに、自分を変える好機と捉え、とりあえず行動し、振り返って学びを言語化し、それを手掛かりに仮説を立て、新たな機会に挑戦する・・・学群生らしい「経験学習モデル」をまるで息を吸うように自然に体得することで、周囲の人もひっくるめて豊かで幸せな社会を切り拓く人材になることを目指します。

< 進め方 > 形式はグループ課題は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。個人課題もグループで議論してまとめます。つまり全授業、グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】課題動画セッション

Moodleにアップした動画を授業前に視聴し、各自以下の2点をまとめて授業に参加してください。①動画から学んだこと、②その学びを学群の実習や演習にどう活かすか？ 当日、グループのメンバーに発表して頂きます。※第13回の映画「僕たちは世界を変えることができない。」は、図書館で借りるか、amazon prime video (300円) で観てください。

【グループ課題①】シナリオセッション

課題 (シナリオ) に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。役割は以下。①文献もしくは記事収集、②解決策を練る、③具体例を練る、④パワポ作成、⑤授業でプレゼンテーション。特に⑤は、グループ内で満遍なく担当してください (相互評価の点数が悪くなります)。なお、発表資料は授業日の前日24時までに、Moodleにアップしてください。

【グループ課題②】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。学びたいことを決めて、企業や団体 (NPO含む)、個人、コミュニティを対象に、アポイントを取って、取材し、取材したからこそ理解したことを、パワーポイントにまとめて、授業14・15回でプレゼンテーションします。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

キャリア学概論【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時に参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』世界思想社
- 山崎亮『コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- 葉田甲太『僕たちはヒーローになれなかった。』あさ出版
- 深作健太『僕たちは世界を変えることができない。but, we wanna build a school in Cambodia』※DVD
- 田中輝美『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』木楽舎
- 石山恒貴ほか『地域とゆるくつながろう-サードプレイスと関係人口の時代-』静岡新聞社
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン：AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-------------|-----------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | |
| 2回 | 動画セッション① | ニューノーマル時代の生き方 |
| 3回 | シナリオセッション① | 成人教育学(大人の学び) |
| 4回 | 動画セッション② | グリット(やり抜く力) |
| 5回 | シナリオセッション② | 計画された偶発性 |
| 6回 | 動画セッション③ | AIと人との協働 |
| 7回 | シナリオセッション③ | アイデアの作り方 |
| 8回 | 動画セッション④ | ワークシフト・ライフシフト |
| 9回 | シナリオセッション④ | 関係人口 |
| 10回 | 動画セッション⑤ | 大学生だからできる地域活性化 |
| 11回 | シナリオセッション⑤ | 海外に出ることで身に付く力 |
| 12回 | 動画セッション⑥ | 僕たちは世界を変えることができない。 |
| 13回 | シナリオセッション⑥ | 学群ならではの就職活動 |
| 14回 | 最終プレゼンテーション | フィールドワークで何を学んだのか?(前半) |
| 15回 | 最終プレゼンテーション | フィールドワークで何を学んだのか?(後半) |

成績評価の方法 /Assessment Method

- 動画セッションのリフレクション...30%
- シナリオセッションのプレゼンテーション...30%
- 最終プレゼンテーション...30%
- 最終レポート...10%
- なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、リフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げてください。
- 【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- 【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の1年生の皆さんは、実習がキャリア形成に繋がっているのかわからないなど、いろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、実習やその他授業への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げることを目的としています。奮ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

プロジェクトマネジメント 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● プロジェクトマネジメントに必要な知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	● プロジェクトマネジメントに必要な技術の基礎を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自分の身の回りにおけるプロジェクトを客観的に分析する力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● プロジェクトマネジメントの理論、技術を実生活に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プロジェクトマネジメント	BUS191M
--------------	---------

授業の概要 /Course Description

身の回りの生活や地域活動において、プロジェクトに分類されるものが数多く存在します。プロジェクトとは何かを理解した上で、プロジェクトを成功させるために何に気をつけ、どのように取り組めばいいのか、ワークを通して理論と実践の両面から学習します。また、プロジェクトの失敗事例を取り上げ、その原因の分析と解決策について学習します。最終的には、実際のプロジェクトで活用できる実践的スキルを身につけることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』(通勤大学 図解PMコース①) 第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』(通勤大学 図解PMコース②) 第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門：PMBOK 第6版対応版』 広兼修著、オーム社 ￥2200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクション、プロジェクトとは何か
- 2回 プロジェクトマネジメントとは何か
- 3回 何をマネジメントするのか
- 4回 プロジェクト・ライフサイクル
- 5回 プロジェクト目標
- 6回 WBSとは何か
- 7回 WBSの作成
- 8回 ネットワーク図
- 9回 クリティカル・パス
- 10回 スケジュールの作成
- 11回 リスクマネジメント
- 12回 進捗のコントロール
- 13回 事後の振り返り
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

プロジェクトマネジメント【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

課題の未提出数が4以上の場合は、評価不能(－)とします。
最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、授業計画・内容のタイトルの言葉の意味を中心に各自調べておいてください。
授業後は、各自が参加しているプロジェクトを授業で学んだ視点から捉え、活動に活かすようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

原則、毎回ワークを行う予定です(グループワーク、個人ワークともに行います)。
授業の途中から参加すると課題やワークを全く理解できない可能性が高いため、遅刻は厳禁です。
実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は興味がないと苦痛になるだけだと思います。
本授業で学ぶ内容は、知識やスキルの積み重ねの形を取ります。
授業を欠席すると、その後の授業内容をきちんと理解できず、苦しむことになります。
授業に毎回出席できるという意思の強い学生のみ履修してください。

キーワード /Keywords

プロジェクト、マネジメント、PMBOK

地域文化論 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域文化に関する多様な考え方を理解することができる。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域社会で意欲的に活動できるように、地域文化に対する関心を高める。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域文化について、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域文化論

RDE213M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのか、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つの目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般的と思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

< 到達目標 >

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域文化は必要か - 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 -
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法 -
- 第5回 地域資源を文化として利用する
- 第6回 川の文化と社会的弱者の排除①
- 第7回 川の文化と社会的弱者の排除②
- 第8回 川の文化と社会的弱者の排除③
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 世界基準と日本の固有性
- 第11回 地域文化の保全と社会的包摂
- 第12回 まちづくりと食文化
- 第13回 地域文化と国際化
- 第14回 地域文化と地域創生学群
- 第15回 おわりに

地域文化論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題への取り組み：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題や小レポート試験などへの取り組みのために、事前・事後学習を授業時間外で取り組んでもらうこととなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。

また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。

つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

キャリア形成論【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 自らのキャリアを形成していくための手法や技術を習得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の考えをまとめ、相手に伝わるように表現する方法を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● ディスカッションやコミュニケーションの技法について習得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● ものごとの本質をとらえるために、論理的思考、批判的思考を習得する。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

キャリア形成論

CAR200M

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事が求められています。その手順は以下ようになります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いのです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

加えて、これからの社会に求められる「創造的思考」や「デザイン思考」とは何かを理解し、実践できるようになってもらうことも目指していきたいと思います。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思います。即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと思います。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドゥハウ』野口吉昭編 PHP 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社
- 『直観と理論をつなぐ思考法』佐宗邦威著 ダイヤモンド社
- 『デザイン思考が世界を変える』ティム・ブラウン著 早川書房

キャリア形成論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【帰納法】
- 5回 ロジカルシンキング(4)【ロジックツリー】
- 6回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考概論】
- 7回 クリティカルシンキング(2)【複眼思考】
- 8回 中間まとめ
- 9回 デザインシンキング(1)【デザイン思考概論】
- 10回 デザインシンキング(2)【共感】
- 11回 デザインシンキング(3)【問題定義】
- 12回 デザインシンキング(4)【アイデア創造】
- 13回 デザインシンキング(5)【プロトタイプ】
- 14回 デザインシンキング(6)【演習】
- 15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%
 ※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、実習等の日常的なケースで活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになります。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、デザイン思考、クリエイティブ・シンキング

まちづくりマネジメント【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域経営に必要となる基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域が抱える課題を解決する経営的手法を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域が抱える根本的な課題を見極める視点を修得する。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

まちづくりマネジメント

RDE215M

授業の概要 /Course Description

この講義のテーマは「経営からまちづくりを考える」です。

まちづくりの活動を行う際に直面する5つの悩み（①何をしたらよいかわからない、②どう実行したら成果が出るのかわからない、③実行する人がいない、④手元に予算がない、⑤常に時期が遅れる）を解消するために、「まち=1つの会社」、「まちづくり=事業」として捉え、経営的視点からまちづくりについて考えることを狙いとしています。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

教科書としては指定していませんが、次の欄の参考書に掲載している本の内容を中心にして講義を進めています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 木下斉「まちづくりの「経営力」養成講座」※この本の内容を中心にして講義を進めるので、購入することが望ましい。
- 木下斉「凡人のための地域再生入門」※購入することが望ましい。

まちづくりマネジメント 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
→これからの地域創生について、講義の狙いと成績評価について、参考書の説明、受講上の注意 等
- 第2回：論理的思考の重要性
→論理性、因果関係、構造化
- 第3回：戦略なきまちづくりからの脱却
→戦略の必要性、戦略立案のための4ステップ
- 第4回：事業を取り巻く外的環境の分析
→まちづくりの顧客、競合の見極め、優位な供給、規制への対応、情報収集
- 第5回：事業を進める組織の内的環境の分析
→経営資源の見極め、事業システムの設計
- 第6回：まちづくりにおける目標設定
→目標の意味、目標設定の方法
- 第7回：まちづくりにおける戦略立案
→戦略の役割、戦略立案の方法、まちづくり事業の育成
- 第8回：前半の復習
- 第9回：まちづくり組織の設計
→事業に適した組織づくり、組織の責任と権限、様々な組織形態
- 第10回：まちづくり組織の運営
→人が生きる組織、社会的責任、パートナーシップ
- 第11回：まちづくりとお金①
→事業サイクルの法則、資金調達、事業への投資
- 第12回：まちづくりとお金②
→適正利益の確保、シミュレーション、予算管理
- 第13回：計画を着実に実行するために（留意点、まちづくりプロジェクト5カ条、プロジェクトデザインと評価）
- 第14回：外部講師による特別講義（予定）
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義に取り組む姿勢+事前事後課題（70%）※遅刻厳禁です
 期末レポート（30%）

なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習）
→参考図書該当箇所を事前に読み、その内容についての疑問点を明確にしておく。
→講義中等に示した課題に取り組む。
- 事後学習）
→講義で学んだ内容に関するミニレポートあり。
→講義で学んだことを日常生活や日頃の活動に取り入れる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群における学びのベースとなる必修科目の1つです。

日頃の実習活動等に活かすことのできる内容が散りばめられているので、事業と地域活動の違いや共通点について意識しながら受講してください。そして、実習活動等で実際に試してみてください。

キーワード /Keywords

まちづくり、事業、経営

地域経営実践論【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域での事業に必要となる基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実際の街で行う事業の企画・運営・実施に挑戦し、実践力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域課題解決に向けた事業の継続的実施の重要性を理解する。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経営実践論

RDE216M

授業の概要 /Course Description

この授業では、これからの地域創生を図るうえで必要となる、都市経営や公民連携に関する基礎的な知識やフレームワークを学びます。具体的には、(株)プロフェッショナルスクールからご提供いただくeラーニング動画や課題図書を用いた事前学習で、都市経営や公民連携事例をレビューし、その内容に関する自分なりの考えをレポートにまとめ、授業中のディスカッションを通して、自らの考えを深めます。そのうえで、ここで得た学びを実践活動に活かすことを目指しています。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

事前学習用の課題図書として、授業中に指示します。

(2021年度の例)

- ・「熱海の奇跡 - いかにして活気を取り戻したのか」市来広一郎 著
- ・「町の未来をこの手でつくる 紫波町オガールプロジェクト」猪谷千春 著
- ・「九州バカ 世界とつながる地元創生起業論」村岡浩司 著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

(2021年度の例)

- 「稼ぐまちが地方を変える」「凡人のための地域再生入門」「地方創生大全」
- 「未来をつくる図書館」「ファンベース」「PURPOSE」「破壊的イノベーションの起こし方」

地域経営実践論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス+外部講師によるレクチャー
 第2回 事前学習動画の受講準備等
 第3回 導入(都市経営基礎論)
 1)都市経営課題 2)都市経営資源 3)都市経営ビジョン
 第4回 都市経営・公民連携の基礎編①「都市を運営するのに必要な目線」
 1)何のために都市経営するのか? 2)お金の流れから考える 3)見えないものに着目した都市・地域経営
 4)お金の沿って考えるセンス
 第5回 都市経営・公民連携の基礎編②「公民連携の要、PPPエージェント」
 1)不動産の本質を知る 2)PPPエージェントとなるにあたって 3)プロセスを知る
 4)やってみなければ絶対にわからない
 第6回 都市経営・公民連携のまとめ、導入(ミクロ編)
 第7回 ミクロ編① ケーススタディ(熱海)1
 1)熱海におけるリノベーションまちづくり解説1(before)
 2)熱海におけるリノベーションまちづくり解説2(after)
 第8回 ミクロ編② ケーススタディ(熱海)2
 →事前課題図書「熱海の奇跡-いかにして活気を取り戻したのか」
 第9回 ミクロ編③ ケーススタディ(オガールプロジェクト)1
 1)PPPエージェントの仕事、オガールプロジェクトの構造 2)オガールプラザの事業スキーム、収支計画 等
 3)オガールベースの事業計画 4)オガールのこれから
 第10回 ミクロ編④ ケーススタディ(オガールプロジェクト)2
 →事前課題図書「町の未来をこの手でつくる」
 第11回 導入(マクロ編)
 1)福岡市の近現代から学ぶ都市経営(マクロ編) 2)福岡市の近現代から学ぶ都市経営(ミクロ編)
 3)都市圏と公民連携の重要な関係性
 第12回 マクロ編① ケーススタディ(北九州都市圏を考える)
 1)北九州市都市圏を考える 2)九州広域都市圏の中の北九州市を考える 3)都市圏思考の重要性について
 第13回 マクロ編② ケーススタディ(九州バンケーキ)
 1)九州経済という単位で物事をみなくてはならないという視点とその場合の規模感
 2)海外から戻って見えた九州の可能性 3)九州バンケーキなど可能性を具体的に変える視点
 4)これからの九州経済圏が目指す海外連携
 第14回 マクロ編③ ケーススタディ(九州アイランド)
 →事前課題図書「九州バカ 世界とつながる地元創生起業論」
 第15回 特別講師による講演 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前課題の取り組み状況：40%
 授業への参加状況：30%
 期末レポート：30%

なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、eラーニングを受講し、レポートを提出してもらいます。
 (そのレポートをもとに、授業当日にディスカッションを行うため、レポート未提出の場合、その回の授業には参加できません)
 授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるよう復習し、日常の活動等に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

事前学習が重要です。事前レポート課題未提出の場合、その回の授業には参加できないので、しっかり取り組んでください。
 授業時間中はディスカッションが中心となるので、遅刻することのないようにをつけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、外部のプロの方と連携しながら新しく開講する授業であり、みなさんとともに作り上げていこうと考えています。事前事後学習には時間を要すると思いますが、しっかりやりきる覚悟で受講してください。
 その代わりに、得るものも大きいと思います。
 また、ここで学んだことを実践することが重要なので、積極的に日頃の活動に取り入れるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

都市経営、公民連携、フレームワーク

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習I (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習I (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習I (学び支援) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習I (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習I (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携して、地域のつながりづくりを目的に高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習I (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

（到達目標）

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習I (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日スムーズに業務に入れるようにしてください。
また、実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】 他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自律的行動力】 地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
 全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習II (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習II (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習II (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習II (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) 」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先 (地域団体等) からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度 : 100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前 : 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後 : 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携して、地域のつながりづくりを目的に高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習II (小倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
 全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多岐にわたります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習Ⅲ（猪倉）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多岐にわたります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習Ⅲ（北スマ）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅲ (学び支援) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%

積極的な演習や地域活動への参加.....50%

全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習Ⅲ (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度:100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
【活動前】毎回の活動目標をしっかりと意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけつつ、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。
- ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。
- 地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100% 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

地域創生実習Ⅲ (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本実習は、地域共生教育センターで行います。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅳ（猪倉）【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100% 全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習Ⅳ（猪倉）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100% 全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ(キタプロ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅳ（北スマ）【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多岐にわたります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習Ⅳ（北スマ）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅳ (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ(学び支援) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度:100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
【活動前】毎回の活動目標をしっかりと意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけつつ、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。
- ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。
- 地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～11回 実習（実習期間中に中間振り返りを含む）
- 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100% 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習Ⅳ(広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100% 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習Ⅳ(小倉)【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本実習は地域共生教育センターで行います。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツの指導技術の基礎を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における障害者スポーツ活動に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 障害者スポーツに不可欠なコミュニケーション力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習 I

HSS282M

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

<到達目標>

- 【技能】 障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】 障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自律的行動力】 障がい者スポーツ指導員として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 学外授業への取り組み指導
- 3～4回 車椅子の基本操作
- 5～6回 車椅子で運動・スポーツ
- 7～8回 障がい者スポーツ大会実施種目の体験
- 9～12回 学外授業(実習)(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで資格に関する説明を行いますので第一回は必ず出席してください。

障害者スポーツ実習I【昼】

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅱ【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要なさまざまな技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● コミュニケーション力、チームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習Ⅱ	HSS283M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を体感する。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

<到達目標>

- 【技能】障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自律的行動力】障がい者スポーツ指導員として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 レクリエーションスポーツ
- 4～9回 学外授業（実習）（北九州市障害者スポーツセンター主催教室）
- 10～12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%
5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また1学期に行った実習も復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。また、本講義は、「障害者スポーツ実習I」から引き続き学外実習を継続していきます。したがって、「障害者スポーツ実習I」を履修した上で、受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（初級・中級）」資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から必ず出席してください。

障害者スポーツ実習II 【昼】

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要な技術を身につけ、向上させることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション力を高め、チームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習Ⅲ	HSS382M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

近年、障がい者スポーツでは「Adapted (適応・応用) 」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

< 到達目標 >

- 【技能】 障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】 障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自律的行動力】 障がい者スポーツへの関心を持ち続け、主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ボッチャ【重度障がい者】【脳性麻痺】
- 3回 ベタンク【重度障がい者】
- 4回 陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
- 5回 陸上競技②【投てき】【伴走】
- 6回 卓球【サウンドテーブルテニス】
- 7回 フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 8回 水泳①【障がい者に合わせた指導】
- 9回 水泳②【障がい者に合わせた指導】
- 10～12回 学外実習
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習（平常授業）への取り組み・・・50% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・30%
 5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次の実習活動を再度復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に取り組んでもらいます。実習6時間以上、水泳6時間を含む合計40時間以上の学外実習は必修です。障害者スポーツ実習I・IIを履修している方が望ましい。もし履修していない場合は、本講義を履修登録する前に相談に来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（中級）」の資格関連科目になります。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要な技術を身につけ、継続的に向上させることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 多様な他者とのコミュニケーション力を高め、チームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習Ⅳ	HSS383M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

近年、障がい者スポーツでは「Adapted (適応・ 応用) 」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障がいを理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、学外実習を主として活動する。

< 到達目標 >

- 【技能】障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自律的行動力】障がい者スポーツへの関心を持ち続け、主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学外実習に向けたガイダンス
- 2～3回 学外実習に関する講義【企画・立案】
- 4～12回 学外実習（水泳実習、障がい児スポーツ教室、各種障がい者スポーツイベント運営・参加）
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習（平常授業）への取り組み・・・30%、課題（レポートなど）・・・20%、その他の実習への積極的な参加・・・50%
 5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次、さらに3年次1学期に行った実習を復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に取り組んでもらいます。また、学外実習を主としますので、「障害者スポーツ指導論」「障害者スポーツ各論」「障害者スポーツ実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を履修し、障がい者スポーツに関して知識を有するものが望ましい。

障害者スポーツ実習Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、「障害者スポーツ指導員（中級）」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。また、学外実習を主としますので、これまでに障がい者スポーツに関する科目の履修がないもの、単に単位取得のために本実習を履修することはやめてください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

相談援助実習 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター, 深谷 裕 / 地域戦略研究所
坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 6単位 /Semester 集中 /Class Format 実習 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての総合的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 対象者に対して、多面的な視野から状況を判断し、対象者の抱える問題の本質を見抜くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 多様な対象者と関わられるようになる。
	社会的責任・倫理観	● 社会福祉士としての倫理綱領に基づいて、自らの実践を振り返ることができるようになる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 実践的な対人援助職としてのコミュニケーションができるようになる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習

SOW382M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている。

【自律的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間以上である。

社会福祉施設・機関において、23日間(1日8時間)以上の実習を行う。

実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。

実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。

詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価・・・50%、教員による実習評価・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかみの単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

実習中断になった場合には、評価不能(一)とします。

実習報告書を提出しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、これまで大学で学んできた内容をしっかりと振り返りましょう。事後学習としては、実習中に作成した実習ノートを元に、実習中に感じた疑問点などについて振り返り、自己学習を進めましょう。

相談援助実習【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなど是可以できるように自己学習に励んでいただきたい。本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習指導1」及び「相談援助実習指導2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域マネジメント実践論I (猪倉) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I	RDE210M
---------------	---------

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論I (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域マネジメント実践論I (キタプロ) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I	RDE210M
---------------	---------

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域マネジメント実践論I (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域マネジメント実践論I (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論I (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域マネジメント実践論I (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論I (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域マネジメント実践論I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) 」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論I (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域マネジメント実践論I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論I (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域マネジメント実践論I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論I (小倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域マネジメント実践論I (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状を正確に捉え、地域の抱える課題を抽出する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の内容を正確に他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論 I

RDE210M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域マネジメント実践論I (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域マネジメント実践論II (猪倉) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることができる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論II (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域マネジメント実践論II (キタプロ) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例: 成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域マネジメント実践論II (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域マネジメント実践論II (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出て下さい)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論II (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域マネジメント実践論II (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論II (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) 」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作って下さい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域マネジメント実践論II (広報) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論II (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域マネジメント実践論II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論II (小倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域マネジメント実践論II (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域活動を展開するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多角的な側面から地域の抱える課題を分析する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動の背景や目的を正確に理解し、他者に伝えるスキルを身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論II

RDE211M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域マネジメント実践論II (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域マネジメント実践論Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅲ

RDE310M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることができる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅲ (猪倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域マネジメント実践論III (キタプロ) 【昼】

担当者名 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論III

RDE310M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例: 成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域マネジメント実践論III (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域マネジメント実践論Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅲ

RDE310M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域マネジメント実践論III (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論III

RDE310M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域マネジメント実践論III (学び支援) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域課題解決に向けた基礎的実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論III

RDE310M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

2年次には、チームマネジメントを重視して実習に取り組みます。自分自身の活動の質の向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度:100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
【活動前】毎回の活動目標をしっかりと意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- ・ 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- ・ 実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけつつ、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。

ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。

キーワード /Keywords

持続可能な開発のための教育 (ESD)、持続可能な開発目標 (SDGs)、「北九州ESD協議会」、サブコーディネーター

地域マネジメント実践論Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅲ

RDE310M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅲ (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域マネジメント実践論Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅲ

RDE310M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅲ (小倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域マネジメント実践論Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた基礎的实践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を生み出す方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に他者を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅲ

RDE310M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域マネジメント実践論III (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、地域での活動も多くあります。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域マネジメント実践論Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅳ (猪倉) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域マネジメント実践論Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の3分の1程度欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例: 成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域マネジメント実践論Ⅳ(キタプロ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域マネジメント実践論Ⅳ (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む): 50%
積極的な演習や地域活動への参加: 50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域マネジメント実践論Ⅳ(北スマ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域マネジメント実践論Ⅳ (学び支援) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅳ (学び支援) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域マネジメント実践論Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅳ (広報) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域マネジメント実践論Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	● 自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%
 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域マネジメント実践論Ⅳ(小倉)【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域マネジメント実践論Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域課題解決に向けた実践理論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域が抱える課題の解決に向けた活動を継続する方法論を修得する。
	プレゼンテーション力	●	自らの活動に多様な主体を巻き込むようなプレゼンテーション力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域マネジメント実践論Ⅳ

RDE311M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域マネジメント実践論Ⅳ (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域福祉実践論I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉現場で必要とされる基本的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉現場で何が問題となっているのか理解する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 現場での知見を正確に他者に伝える能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉実践論 I

SOW212M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携して、地域のつながりづくりを目的に高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能(－)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域福祉実践論I (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域福祉実践論II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉現場で必要とされる基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉現場での問題の背景を総合的に分析する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 問題点を正確に指摘できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉実践論II

SOW213M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携して、地域のつながりづくりを目的に高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度……100%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域福祉実践論II (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作って下さい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域福祉実践論Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / Instructor
地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉現場で必要とされる専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉現場での問題点を分析した上で、解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 必要な改善点について説得力をもって説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉実践論Ⅲ

SOW310M

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%
全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域福祉実践論Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域福祉実践論Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉現場で必要とされる専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 問題への対応策を評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 相手の意向を尊重しながら、必要な改善点について説得力をもって説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉実践論Ⅳ

SOW311M

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携して、地域のつながりづくりを目的に高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....100%
 全体の1/3程度欠席した場合は、評価不能（－）とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域福祉実践論Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、地域活動をゲーミフィケーション、シリアスゲーム、デザインの観点から分析し、地域をよりよくする取り組みへの適用を目指します。また、ICTを活用した地域活性化についても検討を進めます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

課題を提出していない場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション、デザイン

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。教育や学校を取り巻く課題は、地域レベル、国家レベル、様々な問題を私たちに提示しています。2年次1学期の演習では、教育社会学に関係する理論的背景について資料を用いながら確認してきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。加えて、高等学校を中心にいくつかの学校の実際の課題を受け、学生たち自身で授業を構築し、実践していただく機会を設けます。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わること必要なまちの形態はどのようなものかについて理解を深めていきます。その準備段階として都市の現状課題を分析するための「都市の読み方」の手法について学び、その応用力を試すためのレポートを課します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第4回：「都市の読み方」基礎論、データ分析の手法
- 第5回～第8回：「都市の読み方」応用論、自分の出身地について都市分析を行い発表する
- 第9回～第14回：グループディスカッション
- 第15回：まとめ (次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前： 前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
- 事後： 講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

地域創生基礎演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題、地域解析

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。
また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践I））等への積極的な参加を期待する。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の希望を踏まえ決定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 輪読、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心を持ち、情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、前向きに自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

地域創生基礎演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・ 物事を分析するための基礎を学ぶ
→好きなもの研究、変なもの研究など
- ・ まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・ 実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営、黒崎の寿通りにおける各種活動などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

地域創生基礎演習C 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、2～4年生合同でAIRゼミ実施します。
(→Area Innovation reviewの記事を題材にしたディスカッション)
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ
①腹を決める
②思い切って挑戦する
③常に実践者であれ
④情熱と愛情を注ぐ
⑤謙虚な気持ちで動く
⑥自分の感覚を信じる
⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。具体的には、門司港地域を対象に魅力探し、議論の場づくりを検討し、地域をよりよくする取り組みを目指します。

(到達目標)

【コミュニケーション】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

前向きな参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港、商店街、観光地化

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学ぶ。
具体的には、以下の2つの事を柱に実施する。

① E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫の輪読を行う。
論理的思考力、読解力を鍛えるとともに、現代社会の在り方や見方について考えを深める。
「豊かさとは何か」「社会はどうあるべきか」など、現代社会の根本的な問いについて、自身の意見や価値観を構築するとともに、基礎的なアカデミックスキルの獲得を目指す。

② 日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化
履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な基礎的研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。
ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

（到達目標）

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

平松紘（2002）『ウォーキング大国イギリス - フットパスを歩きながら自然を楽しむ-』明石書店。

神谷由紀子他（2014）『フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く (文化とまちづくり叢書)』水曜社。

地域創生基礎演習C 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション
 第2回：テキストの輪読・フットパスに関するグループディスカッション①
 第3回：テキストの輪読②・フットパスに関するグループディスカッション②
 第4回：テキストの輪読③・フットパスに関するグループディスカッション③
 第5回：テキストの輪読④・フットパスに関するグループディスカッション④
 第6回：テキストの輪読⑤・フットパスに関するグループディスカッション⑤
 第7回：テキストの輪読⑥・フットパスに関するグループディスカッション⑥
 第8回：テキストの輪読⑦・フットパスに関するグループディスカッション⑦
 第9回：テキストの輪読⑧・フットパスに関するグループディスカッション⑧
 第10回：テキストの輪読⑨・フットパスに関するグループディスカッション⑨
 第11回：テキストの輪読⑩・フットパスに関するグループディスカッション⑩
 第12回：テキストの輪読⑪・フットパスに関するグループディスカッション⑪
 第13回：テキストの輪読⑫・フットパスに関するグループディスカッション⑫
 第14回：テキストの輪読⑬・フットパスに関するグループディスカッション⑬
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
 積極的な演習への参加 … 50%
 ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
 また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に必要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

地域創生、経験学習、学びの共有、学術的雑談

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。具体的には、実習で浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながらその解決方法について考えていく。本ゼミでは、チームワークやコミュニケーションを重視し、学習していく。また、各自順番に発表を行い、プレゼンテーション能力の向上も目指す。

< 到達目標 >

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 50%
- 積極的な演習への参加 50%
- 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。

具体的には、自らの問題関心にそってテーマを設定し、社会学の視点から社会の現状を分析し、地域を創っていく道筋について考えていきます。取り扱う社会問題としては、ホームレス、シングルマザー、不登校の子ども、引きこもりがちな若者や高齢者、「移民」、LGBTなどへの社会的排除を考えています。これは担当者の専門に関係する領域です。ただし、社会問題は、これらに限られるわけではありません。共通の分析視角や方法を共有した上で、分析の対象とする社会現象については、自らの問題関心にそって設定してください。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～5回 社会科学の方法論や認識論に関する文献を読み、社会現象を複眼的かつ社会的にとらえるための分析視角を身につけます。
- 6回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評（文献の内容紹介、論点や問題の提起など）」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します（学年末）。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%
- 正当な理由なく2回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に望んでください。
- 授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 ゲーム、ICT、デザインを活用した地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

課題を提出していない場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。

授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

地域創生基礎演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション、デザイン

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	●各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	●相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。昨今の教育改革の動きを確認しながら、教育実践事例や学校運営事例等について検討していきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、8月もしくは9月に集中的に実施する予定です。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ
- ※集中講義で実施する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加 ... 50%
- ※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	●各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	●相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事例や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わることで必要なまちの形態はどのようなものか、などについて既往文献や研究論文を輪読することで理解を深めていきます。さらに次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて各自が頭出しをし、受講生全員で議論します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤井聡他 (2015) 『モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略』
- 中村文彦 (2016) 『バスでまちづくり-都市交通の再生をめざして』
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第11回：参考文献の輪読・グループディスカッション
- 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
- 第15回：まとめ (次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
- 事後：講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、都市交通、モビリティマネジメント

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指す。都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践II））等への積極的な参加を期待する。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の意向を踏まえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 輪読、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%
3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心をもち情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

地域創生基礎演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。

2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。

ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・ まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営、黒崎の寿通りにおける各種活動などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

（到達目標）

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清水義次「リノベーションまちづくり」
木下斉「稼ぐまちが地方を変える」
嶋田洋平「ぼくらのリノベーションまちづくり」
岩崎博論「PURPOSE」

ほか、適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

地域創生基礎演習D 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、2～4年生合同でAIRゼミ実施します。
(→Area Innovation reviewの記事を題材にしたディスカッション)
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ
①腹を決める
②思い切って挑戦する
③常に実践者であれ
④情熱と愛情を注ぐ
⑤謙虚な気持ちで動く
⑥自分の感覚を信じる
⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

(到達目標)

【コミュニケーション】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 地域の魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街、観光地化

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

また、「地域創生基礎演習C」において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。はそのために、以下の2つの事を柱に実施する。

①各自テーマを設定し、「文章修業」を実施する。

つまり、自分で本を一冊選び、その本の内容の解説、それに対する自分の意見（特に批判的思考力の向上を目指す）をまとめる。文章作成能力と専門書の読解力の向上を目指す。

受講生が自らテーマを設定し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。

②日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を通じた「地域活性化モデルの仮説づくり」。

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な応用研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、各自の興味ある分野の書籍の読書、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）

第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論・フットパスに関するグループディスカッション

第15回：まとめ

地域創生基礎演習D 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や輪読するテキストに関連する書籍等を主体的にかつ積極的に行うことを強く推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

地域創生、探究学習、経験学習、互惠的学習、学術的雑談

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。

< 到達目標 >

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方
- 3回～7回 データの収集・分析
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 データの収集・分析
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 50%
- 演習への積極的な参加 50%
- 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいこう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。具体的には、地域創生演習Iで設定した問題について理論的、実証的に考えていきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評（文献の内容紹介、論点や問題の提起など）」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%
- 正当な理由なく2回以上欠席した場合、または期末レポート（ゼミ論文）の提出がない場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
- 授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、地域をよりよくする取り組みを、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用、デザインの観点から自ら提案できることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲーム、ICT、デザインを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

課題を提出していない場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション、デザイン

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。教育や学校を取り巻く課題は、地域レベル、国家レベル、様々な問題を私たちに提示しています。2年次1学期の演習では、教育社会学に関する理論的背景について資料を用いながら確認してきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。加えて、高等学校を中心にいくつかの学校の実際の課題を受け、学生たち自身で授業を構築し、実践していただく機会を設けます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現】 域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】 他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習 A 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には2年生の演習で学んだ都市計画や交通に関する基礎的な情報を元に、それをどのように実際の市町村においてまちづくりで実践していくのかを考えていきます。特定の地区をフィールドとして、地域の課題解決のための方策を検討します。また同時並行で各自の研究テーマについて絞り込みを行います。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第11回：課題解決のための方策検討
- 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
- 第15回：まとめ(次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

地域創生演習 A 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、公共交通

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。特に実習で培った知識、行動力を自主的に発揮できるような力を身につける。

< 到達目標 >

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ゼミ活動役割決め
- 3回～7回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への積極的な取り組み 70%
 演習中に取り組む課題の達成度 30%
 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に演習内容の確認を行うこと。また演習後は他人の発言も踏まえ、自分自身に取り込んでいこう復習すること。演習で出された課題にも文献等を調べ、取り組むこと。授業前後には必ずミーティングを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習 A 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習 A (通常枠) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

各自の興味関心のあるテーマについて、卒業論文の執筆に向けた報告、ディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第14回：報告およびディスカッション
- 第15回：まとめ、中間発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度（報告内容）：50%
- 積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備および、ディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 中間発表会での報告は必須。
- 少なくとも月1回は必ず進捗を報告すること。

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「reallocal北九州の記事作成」「地図あそびの企画運営」などを予定しています。
そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松本勝「破壊的イノベーションの起こし方」
- 岩寄博論「PURPOSE「意義化」する経済とその先」
- 三浦展「第四の消費」
- HOME'S総研「Sensuous City」
- 刈谷剛彦「知的複眼思考法」

ほか、適宜指示する、もしくは資料を配付します。

地域創生演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
 事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
 また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
 なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、AIRゼミを2～4年生合同で実施します。
 そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 大事にして欲しいこと7つ
- ①腹を決める
 - ②思い切って挑戦する
 - ③常に実践者であれ
 - ④情熱と愛情を注ぐ
 - ⑤謙虚な気持ちで動く
 - ⑥自分の感覚を信じる
 - ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、都市解析、リノベーション、経営からのまちづくり

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I・II、地域創生実践I・IIの取り組みを踏まえて、地域創生に関する実践的な考え方を深めていきます。具体的な地域調査や地域活動を通して、学生活動による地域への独自の「貢献」と学生「学び」の両立を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや発信、議論の場づくりを通じた地域活動の展開
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街 観光地化

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には本演習授業は、以下の2つの事を柱に実施する。

①卒論執筆に向けた、高度な学術的思考・アカデミックスキルの習得を目指す。

夏季休業中に他のゼミと共同でゼミ合宿を実施し、そのゼミ合宿で論文報告を実施する。そのための論文執筆のために各自の興味・関心に基づく「文章修行」を実施する。

②フットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を身に付け、フットパスづくりの教育的役割を担う

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的に研究しつつ、地域や後輩たちへ「フットパス」の普及・推進を行うこと。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践およびフットパスづくりにおける指導を行う。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

地域創生演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
 第2回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション①
 第3回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション②
 第4回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション③
 第5回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション④
 第6回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑤
 第7回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑥
 第8回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑦
 第9回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑧
 第10回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑨
 第11回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑩
 第12回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑪
 第13回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑫
 第14回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑬
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%
 ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
 授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、フットパス、協同学習、経験の言語化、経験学習

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、生活困窮者支援や自らが興味関心を持つ地域活動への参加を通して、テーマを設定し、問いをたて、先行研究を踏まえながら、実証的に分析していきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」や研究報告を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します(学年末)。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%
正当な理由なく2回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

地域創生演習 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習B 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、III、地域創生実践I、II、IIIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、地域をよりよくする取り組みを、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用、デザインの観点から自ら提案できることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

課題を提出していない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらおうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション、デザイン

地域創生演習B 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。昨今の教育改革の動きを確認しながら、教育実践事例や学校運営事例等について検討していきます。
また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。
※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、8月もしくは9月に集中的に実施する予定です。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現】 域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】 他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ
※集中講義で実施する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%
※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて、テーマ設定、社会的背景、などを概括し、その上で卒論としてまとめるために必要な目次構成、調査手法などを各自が提示し、受講生全員で議論します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（演習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第14回：卒論テーマについての各自の発表とグループディスカッション
- 第15回：まとめ（次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、公共交通

地域創生演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。特に実習で培った知識、行動力を自主的に発揮できるような力を身につける。

<到達目標>

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ゼミ活動役割決め
- 3回～7回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習への積極的な取り組み 70%
- 演習中に取り組む課題の達成度 30%
- 5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に演習内容の確認を行うこと。また演習後は他人の発言も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等を調べ、取り組むこと。授業前後には必ずミーティングを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習B 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習B (通常枠) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向け、各自の興味関心のあるテーマについて報告およびディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する報告とディスカッション
- 15回 : 論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度（報告内容）：50%
- 積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備とディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

欠席については事前連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2年間の演習の総仕上げとして、より専門的で、より高度な報告を期待する。
少なくとも月1回は進捗を報告すること。
論文報告会での報告は必須。

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、地域創生実践I、IIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。

3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「reallocal北九州の記事作成」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」などを予定しています。

そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

地域創生演習B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動等を実施することがあります。

なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、AIRゼミを2～4年生合同で実施します。
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ
①腹を決める
②思い切って挑戦する
③常に実践者であれ
④情熱と愛情を注ぐ
⑤謙虚な気持ちで動く
⑥自分の感覚を信じる
⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、都市解析、リノベーション、経営からのまちづくり

地域創生演習B 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I・II・III、地域創生実践I・II・IIIの取り組みを踏まえて、地域創生に関する実践的な考え方を深めていきます。具体的な地域調査や地域活動を通して、学生活動による地域への独自の「貢献」と学生「学び」の両立を達成します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや発信、議論の場づくりを通じた地域活動の展開
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。
ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街 観光地化

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B	SEM312M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、III、地域創生実践I、II、IIIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、文章修業において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。受講生が設定した課題に対し、その克服方法を模索する際、最も有用な分析手法（経済学・社会学・法学・政治学・倫理学・民俗学等）は何かを発見し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。これは地域創成学群が非常に学際的な分野であるために必要な作業である。
この作業は卒業論文執筆を見据えた、論文執筆のための知識とスキルの向上を目的としている。
また、各自、調査フィールドを設定したのにとっては、フィールドワークを学術的に実施し、高度な実証的研究を実施する。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組み課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加 ... 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。そのため、演習授業に参加するためには事前学習として、十分な報告資料の作成が必要となる。
また、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望まれることから、演習授業でうけた助言やアドバイスをもとに、自ら調査計画を立て、調査を実施するという事後学習も求められる

履修上の注意 /Remarks

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習B 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、フットパス、文章修行、協同学習、経験学習モデル、経験の言語化

地域創生演習B 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習I、II、III、地域創生実践I、II、IIIの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、生活困窮者支援や自らが興味関心を持つ地域活動への参加を通して、テーマを設定し、問いをたて、先行研究を踏まえながら、実証的に分析していきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評（文献の内容紹介、論点や問題の提起など）」や研究報告を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%
正当な理由なく2回以上欠席した場合、または期末レポート（ゼミ論文）の提出がない場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

地域創生演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習C 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 これまでの地域活動の振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度...50%
積極的な演習への参加...50%

課題を提出していない場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会があります。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、デザイン、モチベーション

地域創生演習C 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 実践や研究に関するディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

また、関連のイベントや現場に積極的に出かけて行って体験をしてください。

加えて、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。

地域創生演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、教育社会学

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行います。

具体的には2・3年生の演習及び実践で身につけた都市計画、交通計画、まちづくりに関する様々な知識を元に、各自の卒業論文執筆に向け、テーマに沿った情報を整理するとともに、各自が立てる仮説を実証するための調査・研究計画を組み立てていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

各自のテーマに沿って、適宜、参考文献・参考論文の紹介や資料の配布をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに沿って、適宜、参考文献・参考論文の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)

第2回～第14回：各自の発表と相互議論

第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%

積極的な演習への参加・・・50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、地域活性化

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、書く受講生が総括するための準備を行う。具体的には、自らの関心に応じたテーマを決定し、調査・研究方法を検討する。ゼミの中で報告、議論を繰り返しながら、論文の方向性を定めていく。

<到達目標>

- 【思考・判断・表現】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～14回 報告・ディスカッション・修正・添削
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%
- 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。発表の準備に関しては、教員との事前のやり取りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習C (通常枠) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の興味関心のあるテーマについて、卒業論文の執筆に向けた報告、ディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第15回：報告およびディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度（報告内容）：50%
- 積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備および、ディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 中間発表会での報告は必須。
- 少なくとも月1回は必ず進捗を報告すること。

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	●	卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

4年次のテーマは「実践経験等の言語化と概念化」です。
 卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析すること、もしくは、これまでの実践経験から得ることのできた知見を体系的にまとめあげることがこの演習の目的です。

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
 現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「reallocal北九州の記事作成」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」などを予定しています。
 そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 関連書籍等をしっかり読んでおいてください。
 事後) 毎回の指摘内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、AIRゼミを2～4年生合同で実施します。

地域創生演習C 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集大成のつもりで取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、経営、まちづくり、都市解析

地域創生演習C 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行います。具体的には、地域活動をソーシャルデザイン等の観点から振り返り、地域および地域活動をよりよくするための実践的な把握を目指します。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 これまでの地域活動の振り返りとソーシャルデザインから見た検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

地域創生演習C 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会があります。

キーワード /Keywords

地域創生、地域学、観光地と隣接した居住地域、ソーシャルデザイン

地域創生演習C 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行います。具体的には、これまで得てきた知見や活動の成果を振り返りながら、地域および地域活動をよりよくするための実践的な理解や分析を行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 これまでの地域活動の振り返りと地域開発援助や地域マネジメントの視点から見た検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
- 積極的な演習への参加 … 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。協同学習の仕方や意義について正しく理解した上で、「教え合い、学び合い」の精神で他者が協業しましょう。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会があります。また、ゼミ合宿や共同調査、研修など、ゼミ全体で取り組む活動が年に何回かありますので、積極的な参加を期待しています。

地域創生演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、協同学習、地域マネジメント、フットパス

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行います。具体的には、自らの設定した「テーマ」「問い」について、先行研究をふまえながら実証的に分析し、「卒業論文」につなげていきます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 これまでの調査・研究活動のまとめとさらなる分析。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
正当な理由なく2回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、参考文献等の熟読や調査データの分析を行い、それらをまとめて議論に臨んでください。授業後は、議論をふまえて、自分の理解を高めるよう復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会があります。「地域創生演習」の集大成です。これまでの調査・研究をさらに進めていきましょう。

地域創生演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習D 【昼】

担当者名 眞鍋 和博
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 実践や研究に関するディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%
※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、関連のイベントや現場に積極的に出かけて行って体験をしてください。
加えて、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。

キーワード /Keywords

地位創生、教育社会学

地域創生演習D 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 実践や研究に関するディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

課題を提出しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。

授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、デザイン、モチベーション

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

各自のテーマに沿って、適宜、参考文献・参考論文の紹介や資料の配布をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに沿って、適宜、参考文献・参考論文の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)

第2回～第5回：各自の発表と相互議論

第6回～第14回：必要に応じて個別指導

第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%

積極的な演習への参加・・・50%

理由なく5回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、地域活性化

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、これまでの地域創生演習および地域創生実践での取り組みを総合的な観点から考察し、各受講生が総括するための準備を行う。具体的には、卒業論文完成にむけてのディスカッションや個別指導を行う。

<到達目標>

- 【思考・判断・表現】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～5回 卒論指導
- 6～7回 中間報告会
- 8～11回 ディスカッション・総括
- 12～14回 最終報告会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。発表の準備に関しては、教員との事前のやり取りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習D (通常枠) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向け、各自の興味関心のあるテーマについて報告およびディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する報告とディスカッション
- 15回 : 論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度(報告内容) : 50%
- 積極的な演習への参加(ディスカッション) : 50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備とディスカッションを踏まえた事後学習(論文への反映)の実施。

履修上の注意 /Remarks

欠席については事前連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2年間の演習の総仕上げとして、より専門的で、より高度な報告を期待する。
少なくとも月1回は進捗を報告すること。
論文報告会での報告は必須。

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

4年次のテーマは「実践経験等の言語化と概念化」です。
 卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析すること、もしくは、これまでの実践経験から得ることのできた知見を体系的にまとめあげることがこの演習の目的です。

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
 現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」などを予定しています。
 そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

なお、欠席が全体の1/3以上ある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 関連書籍等をしっかり読んでおいてください。
 事後) 毎回の指摘内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、AIRゼミを2～4年生合同で実施します。

地域創生演習D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集大成のつもりで取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、経営、まちづくり、都市解析

地域創生演習D 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 実践や研究に関するディスカッション

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。

授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。

キーワード /Keywords

地域創生、地域学、観光地と隣接した居住地域、ソーシャルデザイン

地域創生演習D 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 実践や研究に関するディスカッション

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

・5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。

授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。協同学習を意識し、「教え合い、学び合い」の精神で学習に取り組んでください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。また、宿泊を伴うゼミ合宿や共同調査、研修などが年に数回ありますので、積極的に参加することを期待します。

キーワード /Keywords

地域創生、フットパスづくり、経験の言語化、協同学習

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を知見としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 これまでの調査・研究活動のまとめ、さらなる分析、議論。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

正当な理由なく2回以上欠席した場合、または論文の提出がない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、参考文献等の熟読や調査データの分析を行い、それらをまとめて議論に臨んでください。

授業後は、議論をふまえて、自分の理解を高めるよう復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。

地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会があります。「地域創生演習」の集大成です。これまでの調査・研究をさらに進めていきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

相談援助演習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	相談援助を行っていく上で必要とされる、基本的なコミュニケーション技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	相談援助に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断する力を獲得する。
	プレゼンテーション力	●	自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	地域社会の中で他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 1

SOW265M

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に、基本的な対象者理解のための視点、コミュニケーションスキルなど、対人援助職としての基礎を中心として学びます。

(到達目標)

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【カリキュラムにおけるこの科目の意味など】
- 2回 ソーシャルワーク実践：ソーシャルワーカーの使命と役割を理解する 【ソーシャルワーカーの使命と役割】
- 3回 専門職としての価値・倫理と自己覚知 【自己覚知】
- 4回 自分の生活史を作成し生活史把握の意義について学ぶ 【ライフヒストリー】
- 5回 自己理解、自己覚知について体験的に学ぶ 【自己覚知】
- 6回 他者を理解するということ 【他者理解】
- 7回 コミュニケーション① 【言語的コミュニケーション】
- 8回 コミュニケーション② 【非言語的コミュニケーション】
- 9回 ロールプレイ演習の概説 【ロールプレイ】
- 10回 基礎的技能：面接技法についての理解① 【観察】 【傾聴】
- 11回 基礎的技能：面接技法についての理解② 【原理・原則】 【ロールプレイ】
- 12回 基礎的技能：面接技法についての理解③ 【情報収集】
- 13回 基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解① 【エコマップ】 【ジェノグラム】
- 14回 基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解② 【ケース記録】
- 15回 まとめ

相談援助演習 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 50%、演習への取り組み... 25%、課題の提出... 25%
欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職1・2や、相談援助の理論と方法1等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

1年次の間に、現代社会と福祉1・2、相談援助の基盤と専門職1・2、をあらかじめ履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目では、対人援助職としての基礎を学びます。体験的に学ぶことが中心となりますので、積極的な参加を期待します。一緒に楽しみながら学びましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク

相談援助演習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Years クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助を行っていく上で必要とされる、具体的な面接技法等を実践的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会問題を多面的な視野から判断し、その問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	● 自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 地域社会の中で他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 2

SOW266M

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力の涵養をを目的としています。

(到達目標)

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業時に紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相談援助の実際と援助技術についてを事例を活用して学ぶ
- 2回 ソーシャルワーク実践の展開
- 3回 事例検討の目的・方法
- 4回 事例学習①【貧困問題】
- 5回 事例学習②【生活困窮者支援】
- 6回 事例学習③【児童虐待】
- 7回 事例学習④【児童虐待】
- 8回 事例学習⑤【高齢者虐待】
- 9回 事例学習⑥【高齢者虐待】
- 10回 事例学習⑦【DV】
- 11回 事例学習⑧【家庭内暴力】
- 12回 事例学習⑨【外国人問題】
- 13回 事例学習⑩【社会的排除】
- 14回 事例学習のまとめと振り返り
- 15回 演習全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート.....50%、演習課題への取り組み.....25%、課題の提出.....25%
欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能(-)とします。

相談援助演習 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職 1・2 や、相談援助の理論と方法 1・2・3 等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

相談援助演習 1 を先に履修していくこと。合わせて、相談援助の理論と方法 1 や、それ以外の福祉観系科目を先に履修しておくこと、本授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループディスカッションがメインになります。積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、福祉事例

相談援助演習 3 【昼】

担当者名
/Instructor

夜のみ開講科目

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 個別および集団における具体的な面接技法等を実践的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会問題を多面的な視野から判断し、問題解決に向けた取り組みを提案できるようにする。
	プレゼンテーション力	● 福祉的問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力や、ネットワーキング力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 3

SOW360M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。

（到達目標）

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 グループワーク① - 準備期
- 3回 グループワーク② - 開始期
- 4回 グループワーク③ - 作業期
- 5回 グループワーク④ - 終結期
- 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
- 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画①）
- 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画②）
- 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画③）
- 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワーキング）
- 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
- 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
- 13回 実践事例検討①
- 14回 実践事例検討②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能（-）とします。

相談援助演習3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企画の準備は、授業外の時間も積極的に活用し、話し合いながら進めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク

相談援助演習 4 【昼】

担当者名 /Instructor 夜のみ開講科目

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 具体的な面接技法や社会資源の開発等を実践的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会問題を多面的な視野から判断し、論理的かつ計画的な問題解決策を提案できるようにする。
	プレゼンテーション力	● 福祉的問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力や、ネットワーキング力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 4

SOW361M

授業の概要 /Course Description

実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

（到達目標）

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方および注意点の説明
- 2～14回 事例検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%
欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて、ディスカッションの中で発言できるよう、各自振り返り作業をきちんと行ってのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相談援助の理論と方法で学んだアプローチ論を活かして、事例検討を行っていきます。これまで座学で学んできたことを復習して授業に望んでください。

相談援助演習 4 【昼】

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

受講生が各自のテーマに従い、指導教員の指導にもとづいて卒業論文を作成します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：オリエンテーション

2回～29回：卒業論文の指導と作成

30回：最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の作成 ... 100%

卒業論文を提出していない場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

途中経過を適切に報告できるよう、授業前に準備して臨んでください。

授業後は、それをもとに内容を洗練させてください。

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。

随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期限は厳守すること。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

キーワード /Keywords

地域創生

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆を行います。卒業論文であっても卒業実践報告であっても、事象や自分が行って来たことを客観化、相対化しつつ、これまでの学習、実践の集大成としてください。

※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、オンライン等での指導を実施する予定です。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習や学習、ミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物(卒業論文等)...40%
※全く授業に出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、関連のイベントや現場に積極的に出かけて行って体験をしてください。
加えて、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

受講生が各自のテーマに従い、指導教員の指導にもとづいて卒業論文を作成します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

各自のテーマに応じて適宜、指示・指導をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて適宜、指示・指導をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の書き方、ルールの指導
- 第3回～6回 第1次卒業論文テーマ議論(1回あたり2人×4回)
- 第7回～10回 第2次卒業論文テーマ議論(1回あたり2人×4回)
- 第11回～14回 第3次卒業論文テーマ議論(1回あたり2人×4回)
- 第15回 1学期の振り返り
- 第16回～19回 第4次卒業論文テーマ議論(1回あたり2人×4回)
- 第20回～23回 第5次卒業論文テーマ議論(1回あたり2人×4回)
- 第24回 卒論中間報告会
- 第25回～29回 個別指導
- 第30回 最終報告会・講評会

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の作成: 100%

卒業論文を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の論文テーマに沿った議論を受講生同士で相互に行います。特に各回で割り当てられた発表者は事前の準備を丹念に行い、発表に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時間以外でも指導はします。教員と連絡を密に取り合い、指導日時のアポイントを取ることを。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

常日頃から論文テーマを意識した行動を取ることを。探求心を持って論文に取り掛かってください。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文を作成する。

< 到達目標 >

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している

【思考・判断・表現】 地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2~3回 論文の書き方指導
- 4~8回 研究途中成果報告①
- 9~13回 研究途中成果報告②
- 14~15回 中間報告会
- 16~20回 研究途中成果報告③
- 21~25回 研究途中成果報告④
- 26~27回 最終報告会
- 28~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・・・100%
全授業の3分の1以上欠席の場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文作成にあたっては、授業時間外に文献等を調べ、文章化し、授業に参加すること。教員から添削がある場合、再度、文献等で調べ、自主学習し、再度、提出に向けた準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分に行って望むこと。
また、時間外においても教員と連絡を取り、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文・卒業実践報告【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ社会学

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文100%

なお、提出期限内に論文を提出できなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 関連書籍や関連論文をしっかりと読みこんでおいてください。
- 事後) 毎回受けた指摘をもとに改善を行ってください。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

逃げることなく粘り強く取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、経営、まちづくり、都市解析

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

受講生が各自のテーマに従い、指導教員の指導にもとづいて卒業論文を作成します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回～29回：卒業論文の指導と作成
- 30回：最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の作成 ... 100%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

途中経過を適切に報告できるよう、授業前に準備して臨んでください。

授業後は、それをもとに内容を洗練させてください。

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。

随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、地域学

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文を作成する。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文100%

- ・5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・卒業論文を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。

随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受け、その指摘を事後学習としてしっかりと卒業論文として内容に盛り込むことなどを念頭に、事後学習にも丹念に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

受講生が各自のテーマに従い、指導教員の指導にもとづいて卒業論文を作成します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回～29回：卒業論文の指導と作成
- 30回：最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の作成...100%
期限までに卒業論文が提出されなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

途中経過を適切に報告できるように、授業前に準備して臨んでください。
授業後は、それをもとに内容を洗練させてください。

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってください。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの研究の集大成です。力作を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域コーディネート論【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域コーディネートに関する専門知識を、地域現場との関わりの中で理解できる。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域における課題を発見し、地域コーディネートの視点から解決を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域コーディネート論	RDE110M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

地域活動を行う上で必要な視座の一つとして「地域コーディネート」という発想や方法を学びます。まちづくりや地域づくりに取り組む様々な活動の中には、コーディネートという発想が欠かせません。ぎやくにコーディネートという視点から様々な地域活動を見ていくことで、それらの活動がどのような工夫によって成り立っているのかも分かります。コーディネート (coordinate) とは、一般的に「物事を調整すること」「色や材質などを調和させて組み合わせること」などを意味します。ですが、本講義ではこの「コーディネート」の意味をもう少し単純に、かつ広く考えたいと思っています。

今日、地域や社会の活性化を考えていく上で、一つのやり方で何でもうまくいく、あるいはこれまでと同じやり方ですべてがうまくいくという事はほとんどありません。むしろ、いろいろなやり方を組み合わせてみたり、古い発想と新しい発想を結び付けてみることで、はじめてうまくいくといったことが多くあります。その背景には、私たちが暮らす地域や社会のあり方が、近年、大きな曲がり角にきていることと関係があります。大きな曲がり角にきていることで、これまでは当たり前であったような私たちの考え方や方法が、そのままではだんだんと通用しなくなってきました。その中で試行錯誤しながら生まれているのが、異なる人と人、異なる人とモノを結び付けて、具体的な課題に対応していこうという発想です。従来ならば出会うことがなかったような人と人がつながったり、考えられなかったような人とモノとが組み合わせあって、一つの課題の解決のために力を合わせていくような活動の場面が増えています。本講義ではこうした活動場面を「地域コーディネート」という視点から検討することがねらいです。そのことによって、学生一人ひとりが自分たちの地域活動（実習活動）に活かせるようになることを目指しています。

以上の概要からこの講義での具体的な到達目標は次のとおりです。

- ① 北九州を一つの事例としながら、近年の地域・社会のあり方の曲がり角をマクロな視点から把握することができる
- ② 近年の地域・社会の現状を踏まえつつ、活性化の意味を自分なりに理解することができる。
- ③ その上で、コーディネートの視点から地域活動の工夫や成り立ちを検討することができる。
- ④ 地域と社会の課題を発見し、コーディネートの発想から解決方法を探ることができる
- ⑤ 対話やディスカッションを取り入れることにより、授業での主体性を高め、様々な意見を出し合いながら地域活動に取り組むという姿勢を培う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

地域コーディネート論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「地域」における「コーディネート」について（オリエンテーション）
- 第2回 北九州地域の「今」と「これから」：地域の活性化とは何か？
- 第3回 地域における「問題」と「課題」の区別
- 第4回 地域における「無駄なもの」と「貴重な資源」
- 第5回 地域活動での「コーディネート」の意味
- 第6回 コーディネートの事例を検討する①（人と人を結び付ける）
- 第7回 コーディネートの事例を検討する②（人とモノを結び付ける）
- 第8回 コーディネートの事例を検討する③（課題と課題を結び付ける）
- 第9回 コーディネートの事例を検討する④（再度・課題と課題を結び付ける）
- 第10回 地域と社会の課題発見①
- 第11回 地域と社会の課題発見②
- 第12回 課題の中の資源の発見
- 第13回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる①
- 第14回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる②
- 第15回 地域活動におけるコーディネートの重要性（まとめ）

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 最終レポート...50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席すること。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの 関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. ボランティア活動など身近な地域活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域調査に関する幅広い知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 職場や地域で必要とされる調査技法と分析能力などの技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 総合的、多面的な視点で地域課題の析出に努め、論理的に解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域調査の知識を実践的場面で応用する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域調査論

INF242M

授業の概要 /Course Description

まちづくりや地域の課題解決のために必要とされる地域調査について、フィールドワークや実践を通してその基礎知識や技術を習得する。3つのグループワークを行う予定。グループワーク①は大学内をフィールドとして地域調査の基本中の基本を学ぶ。グループワーク②は、ビッグデータ（RESAS（地域経済分析システム））を利用して地域の課題や特徴を把握する方法を習得する。グループワーク③は、近年まちづくりの分野で話題になっている公共空間の利活用やパブリックライフに着目し、具体的なパブリックライフの調査およびそれをもとにしたまちづくりの方策を検討する。さらに、実際のまちづくりの現場でいかに地域調査が行われ、どのように実際のまちづくりに反映されているのか、民間の実務担当者からお話を伺い、地域調査についての理解を深める。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 今和次郎（1987）「考現学入門」ちくま文庫
 - 西村幸夫・野澤康編（2010）「まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門」朝倉書店
 - 日経ビッグデータ編集（2016）「RESASの教科書 リーサス・ガイドブック」日経BP社
 - ヤングール（2016）「パブリックライフ学入門」鹿島出版会
 - パトリック・ゲデス（2015）「進化する都市：都市計画運動と市政学への入門」鹿島出版会
- その他、必要に応じて、適宜紹介する。

地域調査論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・・・オリエンテーション
- 第2回・・・グループワーク1-① グループ分け、テーマ決め、調査方法検討
- 第3回・・・グループワーク1-② 調査
- 第4回・・・グループワーク1-③ 作業 まとめ
- 第5回・・・グループワーク1-④ 発表
- 第6回・・・グループワーク2-① RESASについて、RESASの実践
- 第7回・・・グループワーク2-②
- 第8回・・・地域調査とは、地域調査の必要性、パブリックライフとは
- 第9回・・・外部講師による講義(予定)
- 第10回・・・グループワーク3-① 調査方針の検討
- 第11回・・・グループワーク3-② 調査
- 第12回・・・グループワーク3-③ 調査のまとめ、課題抽出
- 第13回・・・グループワーク3-④ 解決策の検討
- 第14回・・・グループワーク3-⑤ 解決策の検討、まとめ
- 第15回・・・グループワーク3-⑥ 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの成果物・・・70%、積極性・・・20%、プレゼンテーション・・・10%
 グループワークの成果物が未提出の場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域の特徴、まちの小さな変化などを感じ取れるような観察力を身に着ける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コロナウイルスの感染状況、グループワークの進捗、受講者の希望等により、授業計画、内容を変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域調査、まちづくり、政策立案、RESAS (地域経済分析システム)、パブリックライフ、考現学

ものづくりマネジメント論【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生産活動の環境変化や基本事項を理解するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 生産活動を取り巻く諸課題を多面的な視野から分析する力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ものづくりマネジメント論

BUS317M

授業の概要 /Course Description

工業国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行っているのか。またどういった問題を抱え、どういった課題に取り組んでいるのか、ものづくりの基本を学びます。

授業は、大きく2つに分かれます。

- (1) 生産マネジメントを理解する
- (2) ものづくりを取り巻く環境を理解する。

なぜ「ものづくりマネジメント論」を学ぶのか、3つの目的があります。

- (1) メーカーに就職して、ものづくりを実践するため
- (2) メーカーまたはメーカー以外の会社（例：流通関連企業）に就職して、メーカーと取引を行うため
- (3) 公的機関（例：市役所・県庁、商工会議所）に就職して、メーカーの成長を支援するため

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメやプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：学習の意義と内容
- 2回 製造業とは 一製造業で働きませんか？
- 3回 生産マネジメント①：生産活動の基本
- 4回 生産マネジメント②：生産管理
- 5回 生産マネジメント③：品質管理
- 6回 生産マネジメント④：原価管理
- 7回 生産マネジメント⑤：5S・在庫管理
- 8回 海外活動事例①：カンボジアにおける人材育成
- 9回 海外活動事例②：ベトナムにおける中小企業振興
- 10回 地域産業政策①：ものづくり都市の再生
- 11回 地域産業政策②：起業（スタートアップ）
- 12回 地域産業政策③：女性と製造業
- 13回 中小企業①：新事業展開
- 14回 中小企業②：人材の確保と育成
- 15回 まとめ

ものづくりマネジメント論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則、毎回レポートを課します・・・60%
(期末テストは行いません)
(レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能 (-) とします)
日常の授業への取り組みを評価します・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃からものづくりに関心を持つようにして下さい。例えば、身近な製品がどうやって作られているのか。新聞・雑誌・TV・Youtubeなどのメディアを通じて、ものづくり企業に関する情報を収集して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術立国「日本」の繁栄を牽引してきたものづくりの現場が大きく変わろうとしています。ものづくりの現場が海外へ移転しつつあります。このことは雇用を喪失させ、ひいては技術・技能を弱体化させます。この機会にもものづくりについて考えてみませんか？

キーワード /Keywords

福祉環境デザイン論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	移動困難者の生活を円滑にするためのまちづくりに必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	バリアフリー・ユニバーサルデザイン実現のための考え方や技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域に存在するバリアフリー等の課題を発見し、解決策を考えるプロセスを理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実際の地域活動でバリアフリー等の概念を取り入れた取り組みに対処できる力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉環境デザイン論

ARC235M

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし (適宜、レジュメや参考資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (福祉環境デザインとは) 【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI (道路、歩道、広場等) 【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII (公共施設、商業施設等) 【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 公共交通のデザインI (交通施設) 【交通バリアフリー法】、【駅】
- 9回 公共交通のデザインII (車両) 【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【L R T】
- 10回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【カーシェアリング】
- 11回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 12回 自転車まちづくり【サイクルシェアリング】、【自転車分担率】
- 13回 ユニバーサルデザインのトピックス【カラーユニバーサルデザイン】、【UDフード】
- 14回 レポート発表会(1)
- 15回 レポート発表会(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% 期末レポート... 60%

主に期末レポートで評価します。提出したレポートを全員の前で発表をしてもらいます。相互のディスカッションを期待します。

- ・ 10回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

福祉環境デザイン論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉のまちづくりに関する情報は皆さんが生活している市街地の中に溢れています。講義で習得した情報を常に意識しながらまちを観察してください。課題がありそうな箇所を見つけた場合は、自らで解決方を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。期末レポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市計画の基礎【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市や地域を理解するための専門的基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域の課題解決に向けた都市計画的手法の基礎を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	● 地域活動への関わり方をはじめとした実践手法の基礎を修得する。
	生涯学習力	● 都市や地域の捉え方を身につけ、抱えている諸課題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市計画の基礎

ARC234M

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、都市計画やまちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。これまでの社会状況とは根本から異なる今後の社会において、現在の都市計画の体系やまちづくりの手法とはどうあるべきか、皆でディスカッションを交えながら考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【都市について考える】
- 2回 マインドセット【従来の都市計画の概念】【問題提起】
- 3回 近代都市計画の歴史【都市計画史】
- 4回 提出した宿題の内容についてのディスカッション【都市計画マスタープラン】
- 5回 土地利用計画【土地利用】
- 6回 区画整理と再開発【都市施設】【土地区画整理事業】【市街地再開発事業】
- 7回 都市計画の支援ツール【調査】【解析】
- 8回 提出した宿題の内容についてのディスカッション【再開発事例】
- 9回 前半の復習
- 10回 まちづくりの失敗事例【都市経営】
- 11回 これからの地域創生について【地域創生】
- 12回 小倉のまちのリノベーションまちづくり【リノベーション】
- 13回 エリアビジネスを生むための都市解析【都市解析】
- 14回 予備日
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り込む課題の達成度 ... 50%
期末試験 ... 50%

なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

都市計画の基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 参考図書に目を通しておいください。
事後) 毎回の内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市計画、まちづくり

地域創生特講I (観光事業概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域創生に必要なとなる基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域創生に必要なとなる基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の現状と課題を多面的な視野から把握するスキルを身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生特講 I

RDE290M

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

地域創生のアプローチの一つとして、観光事業の基本を学ぶ。具体的には、地域と協働し、多彩な地域資源を活かしながら、近年の観光事業の動向、特にイノベーションで地域課題を解決する各種知見を理解し、学生が現在および将来、北九州市や地元の発展と繁栄、ひいては新たな国際社会の形成に資する本学における学びの方向性を模索する。その成果として、自らがフォーカスする地域の資源を生かした、新しい観光ビジネスプランを提案する。

< 進め方 >

【個人課題】観光関連記事を集めて議論するセッション

授業で提示した課題に即した記事を探して読み込み、各自以下の2点を個人課題用ワークシートにまとめて、授業に参加してください。この用紙を当日提出することで、出席及び採点されます。①記事から学んだこと、②その学びを学群の実習や演習、もしくは将来のキャリアプランにどう活かすか？ 当日、グループのメンバーに発表して頂きます。

【グループ課題①】教壇で解説するセッション

第9～14回は、グループで与えられたテーマの最新の観光事例のニュースや記事を集め、パワーポイントにまとめ、プレゼンをしてください。授業日当日12時までに、Moodleでパワポファイルを提出してください。

【グループ課題②】最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションの課題です。コロナの影響を受けて、観光産業はどこも窮地に陥っています。そんな中、すばらしい取り組みをしている事例を探し出し取材先を決め、実際に行けたら行く、遠方であれば電話やweb会議ツールを用いて取材し、取材したからこそ理解したことを、パワポにまとめてください。そして、授業日当日12時までに、Moodleでパワポファイルを提出してください。

< 目標 >

様々な観光事業をトリガーにした地域創生のアプローチを理解し、地域創生における自らの活動のアクションプランを策定し、ゼミや卒論、ひいては個人の地域活動への実践へとつなげる。

(到達目標) 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて随時お知らせします。

地域創生特講I (観光事業概論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 観光とは (歴史と、学ぶ意味)
- 2回 定義・歴史・日本の現状
- 3回 観光対象 (資源と施設) ・観光地・観光振興
- 4回 運輸機関・宿泊施設・旅行業
- 5回 観光政策と観光行政 (日本及び北九州、その他)
- 6回 国際社会 (インバウンド、LCC、外国人労働者)
- 7回 地域振興 (DMO、地域おこし協力隊)
- 8回 観光資源の保護 (世界遺産・観光公害)
- 9回 アルベルゴ・ディフーズ / 分散型ホテル
- 10回 体験型旅行 (フットバス、フォトロゲイニング、縁側カフェなど)
- 11回 コンテンツツーリズム (アニメや映画ロケ地など)
- 12回 関係人口をつくる (上勝町、神山町、海士町、東川町など)
- 13回 MaaS / モビリティ・アズ・ア・サービス
- 14回 コロナ禍で生まれた旅 (オンラインツアー、ワーケーション、プレジャー)
- 15回 最終プレゼンテーション「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか？」

成績評価の方法 /Assessment Method

個人課題 (第2～8回) ...28点
 グループ課題① (第9～14回) ...36点
 グループ課題② (第15回) ...24点
 最終レポート...12点
 なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、個人課題を一度も提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習 (予習) を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り (復習) を提出すること。最終プレゼンテーションの課題は「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか？」です。我が街は故郷でなくても構いません。

履修上の注意 /Remarks

第1回目の授業に出席をして、授業全体を把握してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群での実習・演習において、観光学や観光事業に関する知識はどうしても必要になります。また、私は大学教員になる前に、旅行会社で7年半働き、ソニーグループでも旅行サイトの企画運営に携わり、総合旅行業務取扱管理者の資格も持っています。そこで本授業を立ち上げました。地域を活性化するアプローチとして、こういった対象に対し、こういった観光事業を立ち上げ、我が街を活性化させるのか。最新事例と一緒に学びながら、最後にユニークなプレゼンテーションをして頂くことを希望しています。

キーワード /Keywords

観光学、観光政策、ツーリズム、旅行、ホテル、インバウンド、クリエイティブシンキング、創造性、交渉力、企画提案力、地域活性化、地域活動
 SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生特講II (海外スタディツアー) 【昼】

担当者名 見館・内田
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域創生に必要なとなる基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域創生に必要なとなる基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を解決するための基本的な方法論を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生特講II

RDE291M

授業の概要 /Course Description

<目的> 地域創生学群2年生の選抜者を対象に、東南アジアの新興国における課題解決型学習を体験することで、従来の先入観を払拭しグローバルな視野を獲得し、多様な視点で試行できる異文化理解力や、不確実な世界に対応できるマインドセットを身に付け、ひいては今後の大学生活、特に日本国内の地域活動への学習意欲を高め、将来のキャリアを描く手掛かりを得ることを目指す。なお、コロナ禍において海外渡航が難しい場合は、国内の素晴らしい地域活性化の取り組みを行っている山村や漁村にて行います。【2021年度】コロナ禍のため、奈良県川上村で実施（オンライン）、【2020年度】コロナ禍で中止、【2019年度】カンボジアのオーチュン村で実施（リアル）。

<進め方>

形式は課題解決型学習（Project-based-Learning）。グループ単位で、現地で用意された課題に取り組みます。

【フィールドワーク】原則4日間、現地にて班ごとに活動します。課題によっては、参考となる施設などをフィールドワーク開始前に視察します。【2021年度】緊急事態宣言のため、川上村職員のみなさまにご協力いただき、地域の人々のインタビューをしていただきました。【2019年度】S21（トゥール・スレン）博物館、キリングフィールドなど（いずれもプノンペン）、オーチュン村は学生がグループで地域をリサーチ（織物工場、バナナ畑、寺院、ハンモックカフェなど）。

【最終プレゼンテーション】約2時間

課題提供団体に向けて、最終プレゼンテーションを行い、講評をいただきます。【2021年度】課題：①地域内循環問題（地域の人々が地域外で買い物をしてしまう問題）、②バーベキューゴミ問題（施設がなく自然の河川敷を使うため、多発しているゴミ放棄問題）。課題提供団体：川上村。最終プレゼンテーションはZoomで村長に対し行いました。【2019年度】課題：オーチュン村の日常生活を題材としたオプションツアー企画。課題提供団体：H.I.S. (Cambodia) Travel Co.,Ltd. (H.I.S.プノンペン支店)

【帰国後のリフレクション】

学内において成果発表会を実施します（海外の場合）。報告書の作成は国内外問わず行います。

<目標> 異文化理解力やマインドセットを獲得し、学習意欲をさらに高め、今後の地域創生学群の学習活動を、主体的・対話的に深く学び、自らが輝ける豊かな将来のつながるようにデザインできるようにする。（到達目標）【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。課題によって各自探してください。

地域創生特講II (海外スタディツアー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事前学習①イントロダクション
- 2回 事前学習②受入団体の理解
- 3回 事前学習③フィールドワーク先の基礎知識
- 4回 事前学習④フィールドワークプランの中間発表
- 5回 事前学習⑤フィールドワークプランの最終発表
- 6回 フィールドワーク1日目①
- 7回 フィールドワーク1日目②
- 8回 フィールドワーク2日目①
- 9回 フィールドワーク2日目②
- 10回 フィールドワーク3日目①
- 11回 フィールドワーク3日目②
- 12回 フィールドワーク4日目①
- 13回 フィールドワーク4日目②
- 14回 最終プレゼンテーション
- 15回 帰国後のリフレクション (学内成果発表会・報告書作成)

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習...30% フィールドワーク...30%、最終プレゼンテーション...30% 学内成果発表会と報告書...10%

フィールドワークに参加しなかった場合は評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習1：イントロダクション】講義1.5時間

海外渡航の準備、出発までに準備すること、課題解決の流れ、危機管理などを学びます。班分けも行います。

※課題解決の流れ

①課題を整理し構造化して「真の課題」を明確にする、②仮説 (イシュー) を立てて「解決策」を分析する、③仮説を検証する、④実行する

【事前学習2：受入団体の理解】講義1.5時間

フィールドワーク先である受入団体の歴史や現状の課題などを理解します。

【事前学習3：フィールドワーク先の基礎知識】講義1.5時間

班ごとに課せられた課題について小冊子にまとめ、共有します。

※2021年度例：川上村が大事にしていること、川上村が抱える3つの課題の解説 (地域内経済循環、BBQゴミ、高齢者の孤立)。2019年度例：①カンボジアの歴史 (特に大虐殺について)、②カンボジアの教育や雇用 (小・中・高・大学の進学率、若年者の就業率など)、③カンボジアの一次産業 (農産物や魚介類など。収穫時期も)、④カンボジアの文化や習慣、伝統工芸、料理など、⑤旅行会社の研究 (現地のオプションツアー)

【事前学習4：フィールドワークプランの中間発表】講義1.5時間

課題解決のための現地でのフィールドワークプランを発表し、教員および受入団体からフィードバックを頂き、そのプランを改善します。

【事前学習5：フィールドワークプランの最終発表】講義1.5時間

課題解決のための現地でのフィールドワークプランを発表し、教員および受入団体からフィードバックを頂き、そのプランを確定し、現地到着後すぐに着手できるようにします。

履修上の注意 /Remarks

※参加者限定のため、参加希望者が多い場合は、エントリーシートによる書類選考があります。

※カンボジアでの実施を目指していますが、2022年1月現在、コロナ禍が収まらず、2022年度も奈良県川上村での実施になる可能性が高いでしょう。さらにオンラインでの実施になる可能性も否めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の皆さんは、地域活動に注力するがゆえに、地域の課題についてグローバルな視点で観る、言わばメタ認知が少し足りません。だからこそ、海外の日常生活の現場に約1週間滞在することで得られる「心が震える体験」は、皆さんの先入観をリセットして視野を広げ、今後の大学生活を豊かにする手掛かりを得るでしょう。本授業に参加して是非「マインドセット」や「異文化理解力」を身に付け、その後の地域創生学群における活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げてください。なお、コロナ禍で国内になっても、いつものフィールド以外での活動は、新しい視点を得ることになるでしょう。

キーワード /Keywords

異文化理解、マインドセット、地域活動、プレゼンテーション、フィールドワーク、課題解決型学習、経験学習
SDGs 4.質の高い教育を SDGs 11.まちづくり

法学総論【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それら貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

- 【知識】法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

法学総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら？…【国家＝権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公／私】の区別
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法／私法】、【実体法／手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか / 反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に関連した小課題のできばえ…………… 30%
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法（学）には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

日本国憲法原論【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。
とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】 憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身に付ける。

【技能】 憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身に付ける。

【思考・判断・表現力】 憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

片桐直人＝井上武史＝大林啓吾『一步先への憲法入門』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡『憲法I・II（第2版）』（日本評論社、2021年）
- 上田健介＝尾形健＝片桐直人『憲法判例50！〔第2版〕』（有斐閣、2020年）
- 長谷部恭男ほか『憲法判例百選I・II（第7版）』（有斐閣、2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

日本国憲法原論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構

憲法人権論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的な理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

〈到達目標〉

【知識】 憲法学の人権論に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 憲法学の人権論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学の人権論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

憲法学の中の、人権論といわれる分野を学ぶ。

本科目ではまず、憲法（特に立憲主義憲法）でさまざまな「人権」が保障されている理由を、人権という概念をめぐる思想史、憲法史、権利の体系論などの総論的内容を通じて学ぶ。次に、「自由権」「社会権」など類型化された憲法上の権利の検討へと進む。その際には、「なぜ表現の自由は特に手厚い保障が必要とされるのか」「なぜ現代国家は社会権の保障を必要とするのか」といった原理的考察を重視する（判例の詳細な検討は「憲法訴訟論」に譲る）。

以上の内容を学ぶことで、人権が「憲法上の権利」として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法 第2版』（弘文堂、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新井誠ほか『憲法II 人権 第2版』（日本評論社、2021年）
- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 安藤高行ほか『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権とは何か①-近代国家と人権
- 第2回 人権とは何か②-人権思想の歴史
- 第3回 人権（憲法上の権利）の類型
- 第4回 権利の制約原理：公共の福祉
- 第5回 包括的基本権（幸福追求権）
- 第6回 平等権①-憲法の求める平等
- 第7回 平等権②-具体的事例
- 第8回 思想・良心の自由
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由①-優越的地位
- 第11回 表現の自由②-さまざまな制限と違憲審査
- 第12回 経済的自由
- 第13回 社会権
- 第14回 参政権
- 第15回 国家賠償請求権と損失補償請求権

憲法人権論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる定期試験による（100％）。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画やレジュメを参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分をあらかじめ読んでおくこと。

授業で使ったパワーポイントは動画にして一定期間公開する予定なので、事後学習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

民法総則【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く(1050条!)、それゆえに5つの大きなまとまり(「編」という)に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定められています。この「総則」(1条~169条)がこの講義で扱う範囲となります。

この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

なお、この講義は、原則としてオンライン(動画を各自で視聴する方式)で実施します。各動画に簡単なクイズを付けて、それへの解答を以て出席確認とします。

(到達目標)

【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則(第2版補訂版)』(有斐閣リーガルクエスト、2020年)2600円+税
適宜レジュムも配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)3100円+税
- 潮見佳男=道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)2200円+税
- 大村敦志=道垣内弘人編『解説民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山本敬三『民法講義I総則(第3版)』(有斐閣、2011年)4500円+税

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス、民法の意義
 第2回民法の基本原則、民法総則とは
 第3回人①（権利能力、意思能力）
 第4回人②（行為能力、未成年者）
 第5回人③（成年後見制度、任意後見）
 第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
 第7回法人①（法人総論）
 第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
 第9回物
 第10回法律行為①（定義、意義）
 第11回法律行為②（成立、解釈）
 第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
 第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
 第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
 第15回意思表示③（錯誤）
 第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
 第17回代理①（代理総論、成立要件）
 第18回代理②（無権代理）
 第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
 第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
 第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
 第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
 第23回無効・取消し
 第24回条件・期限、期間
 第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
 第26回時効②（取得時効）
 第27回時効③（消滅時効）
 第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
 第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
 第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢引下げ）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
 各レポートの配点は50点ずつです。
 2回のレポート提出が必須であり、いずれか一方又は双方のレポートが未提出の場合は、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
 事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

講義を視聴する際には、手元に六法と教科書をご用意ください。
 スライドに条文を載せることは、原則として行いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いために、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

民法概論I【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 民法に関する基礎的な専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 民法が関係する社会現象に関心を持ち、民法が人々の生活関係をいかに規定しているか分析する力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法概論 I

LAW181M

授業の概要 /Course Description

この授業は、民法の全体像について概説します。

民法は、①家族関係、②財産、③契約に関係します。要するに、民法は、日常生活に関わる法律です。このように規律対象が広いことから、民法典は、1050条もあり、5つの大きなまとまり（「編」という）に分けられています。すなわち、第1編「総則」、第2編「物権」、第3編「債権」、第4編「親族」及び第5編「相続」です。

この授業で扱う範囲は、第1編～第5編までの全てです！僅か15回で民法典の全てを取り上げるのですから、授業内容は各編における基礎的な事項に限られます。つまり、この授業では、民法学における基礎的な知識を身に付けつつ、民法学の全体像を理解し、延いては、1年次の2学期以降に行われる民法に関する講義がより理解しやすくなることを目的とします。

なお、この講義は、オンライン（動画を指定した期限までに各自で視聴する方法）で行います。各動画には簡単なクイズが付いており、それへの解答を以て出席確認とします。

（到達目標）

【知識】民法学の全体像に関する基礎的な知識を身につけている

【技能】民法学を学ぶための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

河上正二『鳥瞰 民法（全）』（信山社、2021年）1700円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男『民法(全) 第2版』（有斐閣、2019年）4600円＋税

新井誠＝岡伸浩『民法講義録〔改訂版〕』（日本評論社、2019年）5800円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス、民法と民法典、日本民法典の編纂
- 第2回日本民法典の編纂（続き）、民法総則（民法の構成）
- 第3回民法総則（民法の構成、民法総則編の内容概観）
- 第4回民法総則（民法総則編の内容概観〔完〕）
- 第5回物権法（物権とは、物権編の内容概観）
- 第6回物権法（物権編の内容概観〔完〕）
- 第7回債権法（債権とは、債権総則編の内容概観、債権の保全・実現）
- 第8回債権法（債権の保全・実現〔続き〕、契約法）
- 第9回債権法（契約法〔続き〕）
- 第10回債権法（契約法〔続き〕）
- 第11回債権法（契約法〔完〕、事務管理、不当利得）
- 第12回債権法（不法行為）、家族の法（家族関係と身分法）
- 第13回家族の法（家族関係と身分法〔続き〕、婚姻）
- 第14回家族の法（親子、扶養）、相続の法（相続、法定相続）
- 第15回相続の法（法手相続〔続き〕、遺言相続）

民法概論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
各レポートは、50点満点です。
なお、1回以上レポートを提出しなかったときは、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
事後に、各動画のクイズに回答してください。クイズが難しい又は自信を以て解答ができない場合は、動画を見直して復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

動画視聴の際には、手元に六法と教科書をご用意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動画を溜めないように、計画的に視聴してください。質問などは、各回のクイズに記入欄がありますので、そちらにご記入ください。翌週以降の動画内でできる限り回答するように心掛けます。

キーワード /Keywords

民法総則、物権法、債権法、家族法、相続法、民法の全体像

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関する諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法典第四編親族編について学習する。民法総則と同時期の開講となっているため、民法総則の内容にも留意しながら、学習してゆく。近時、民法の改正が続いており、親族法分野については大きな変動はないものの、改正内容に留意しながら、すべての者が関わるであろう親族分野の法的問題の理解を深めることを目指す。

注意事項：この科目は、教室での対面方式ではなく、オンデマンド方式で実施することが決定しています。

到達目標

- 【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の書を一いわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。近時、民法の改正が続いており、開講時までに改訂版が発売される可能性もあり、現時点では、特定の書籍の指摘ができない。初回の説明をよく聞くこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ 民法7 親族・相続 第6版』、有斐閣、2020年3月、本体価2,400円(上記の事情により、この書籍も開講時までに改訂版が発売される可能性があるため、もしも購入するのであれば、購入時期に注意して下さい。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、民法典全体の内容確認と親族法の位置づけ
- 第2回 民法総則と親族法、親族法の変遷
- 第3回 家事事件の処理手続、氏名と戸籍、親族の範囲
- 第4回 婚姻の成立、婚約
- 第5回 内縁、婚姻の無効及び取消し
- 第6回 婚姻の効力
- 第7回 離婚の成立
- 第8回 離婚の効力(1) - - 離婚給付
- 第9回 離婚の効力(2) - - 子の看護と養育費
- 第10回 実子(1) - - 嫡出子
- 第11回 実子(2) - - 嫡出でない子
- 第12回 養子
- 第13回 親権
- 第14回 後見、扶養
- 第15回 まとめ、他分野への展望

親族法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない現時点では未定であるが、レポートになると思います。開講後の決定時に、Moodleに載せるという方法で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

「-」（バー）については、指定された成績評価方法に参加しなかった場合に、「-」（バー）となる。例えば、レポートが成績評価方法として指定された場合に、そのレポートを指定の方法で提出しなかったときに、「-」（バー）となる。指定の方法で提出したが、その内容が不合格と判定される場合に、「D」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（親族法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

履修上の注意 /Remarks

民法が大きく改正されているので、必ず、2022年版以降の六法を用意して下さい。

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しない。

この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

親族、相続、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

（到達目標）

【知識】民法学の物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II－物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか，Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%
期末レポートを提出しなかった場合は，評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

物権法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

民法入門・民法総則を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず、メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権

社会法総論 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。
講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。
(到達目標)
【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び社会保障法に関する基礎的知識を身につけている
【技能】社会法（特に労働法及び社会保障法）を学ぶための基礎的スキルを身につけている
【思考・判断・表現力】社会法学（特に労働法及び社会保障法）に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特に指定しません。適宜、レジユメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

- 第1回 インTRODクシヨン～社会法とは？
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の締結過程と成立
- 第4回 労働条件決定システム
- 第5回 賃金に関する規制
- 第6回 労働時間に関する規制
- 第7回 年次有給休暇・休業に関する規制
- 第8回 労働契約の終了
- 第9回 労災保険①【労災補償制度の意義・沿革、労災保険の仕組み】
- 第10回 労災保険②【業務災害】
- 第11回 労災保険③【通勤災害、保険給付の内容】
- 第12回 労災民訴
- 第13回 雇用保険①【雇用保険制度の意義・沿革、適用関係、求職者給付】
- 第14回 雇用保険②【その他の給付、雇用保険二事業、求職者支援】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・100%
期末レポートを提出しなかった場合、評価不能（－）とします。

社会法総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。

事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

行政法総論【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

(到達目標)

【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 中間レポート
- 第17回 行政契約
- 第18回 行政指導
- 第19回 行政計画
- 第20回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第21回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第22回 行政調査
- 第23回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第24回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第25回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第26回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第27回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第28回 行政情報(3)【公文書管理制度、個人情報保護制度】
- 第29回 公法と私法
- 第30回 期末レポート

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート80%、中間レポート20%
 ※期末レポートおよび中間レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 富川 雅満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 4単位
 学期 /Semester 2学期 (ペア)
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

刑法は、犯罪と刑罰に関する学問領域である。中でも、刑法総論は、各犯罪に共通する論点を扱う領域で、個別の犯罪類型に関する固有の論点を扱う刑法各論とは、網目の縦系と横系のような関係にある。とりわけ、刑法総論は、犯罪の体系に関わる学問領域であるから、刑法総論を通して学修することで、刑法の全体像を把握することになる。

(到達目標)

【知識】 刑法総論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】 刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】 刑法総論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

教科書は、各自、自分にとって理解しやすいもの、使いやすいものを選ぶと良い。

参考として、以下の2冊を推奨するほか、その他の教科書についても初回授業で紹介を行う予定である。

大塚裕史 = 十河太郎 = 塩谷毅 = 豊田兼彦 『基本刑法I総論 (第3版)』 (日本評論社、2019年)

只木誠 『コンパクト刑法総論』 (新世社、2018年)

後者の方が初学者向けであり、講義予習に一読するには適しているが、講義後の復習や発展的な問題について学ぶには少し物足りない。

なお、レジュメはMoodleを通じて配布する予定である。各自DLした上で、受講してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

判例学習用参考書

○十河太郎 = 豊田兼彦 = 松尾誠紀 = 森永真綱 『刑法総論判例50!』 (有斐閣、2016年)

○佐伯仁志 = 橋爪隆 『刑法判例百選I総論 [第8版]』 (有斐閣、2020年)

前者が初学者向けであり、極めて平易である。後者の難易度は高いが、発展的な問題に触れるには適している。

そのほかの判例学習用参考書、事例検討学習用参考書については、講義初回で紹介する。

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法の基本体系
- 第2回 因果関係の基礎
- 第3回 不作為犯の基礎
- 第4回 故意、錯誤の基礎(1)：故意論、具体的事実の錯誤
- 第5回 故意、錯誤の基礎(2)：抽象的事実の錯誤、その他の錯誤
- 第6回 過失の基礎
- 第7回 違法論・違法性阻却事由の概要
- 第8回 正当防衛の基礎
- 第9回 緊急避難の基礎
- 第10回 未遂犯の基礎(1)：実行の着手論
- 第11回 未遂犯の基礎(2)：不能犯論、中止犯論
- 第12回 共犯の基礎(1)：共犯の概要、間接正犯
- 第13回 共犯の基礎(2)：共同正犯
- 第14回 共犯の基礎(3)：狭義の共犯
- 第15回 責任能力の理論と実情
- 第16回 ケーススタディ「刑法総論の基礎篇」
- 第17回 因果関係の発展問題
- 第18回 故意の発展問題
- 第19回 錯誤の発展問題
- 第20回 過失の発展問題
- 第21回 正当防衛の発展問題
- 第22回 責任論の発展問題
- 第23回 実行の着手論の発展問題
- 第24回 中止犯論の発展問題
- 第25回 共犯の発展問題(1)
- 第26回 共犯の発展問題(2)
- 第27回 共犯の発展問題(3)
- 第28回 罪数論
- 第29回 刑罰論
- 第30回 罪刑法定主義

ただし、履修者の理解度等の理由により、講義の順番を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
 定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とする。
 なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、定期試験をレポート等に代替することがある。
 詳細は、初回講義にて説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
 内容：講義で扱うテーマについて、教科書等を一読。
 目的意識：テーマの概要を把握。理解できない点を事前に把握。
- ・事後学習
 内容：講義中に取ったノートをまとめ直すほか、内容について教科書等と照らし合わせる。
 目的意識：知識の定着化。理解できている点と理解できていない点の整理。
 予習・講義・復習を通じて、理解できなかった点については、担当教員に相談してもらえれば、さらなる理解へのアドバイスを行う。

履修上の注意 /Remarks

講義形式で行うが、担当教員が提示した質問に対して、受講者に回答してもらうことがよくある。
 講義では条文を参照することが多いため、六法を持ってくるなど、条文をその場で確認できるようにしておくこと。その他の資料については、レジュメを配布する予定であるが、レジュメを事後的に読むだけでは、講義内容を十分に理解することは難しい。受講者自身が効果的に復習するためにも、受講者は担当教員による解説をノートにまとめていくことが必要である。したがって、ノートテイキングができる準備をして、受講することが求められる。なお、やむを得ない事情によりノートテイキングに困難がある者については、担当教員に個別に相談してもらえれば、対応の方法を協議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法総論は抽象的な議論が多いことに加え、各テーマの関連性が強いいため、理解に難しいところがある。まずは、刑法総論の全体像を把握しておくことが良いであろう(講義も、同一テーマを基礎編と応用編に分けて、全体像の把握ができるように計画している)。わからないポイントも、そのほかのテーマを学修することでわかることがある。まずは、刑法の全体像を把握するように努めてほしい。
 質問については随時受け付けている。遠慮なく、担当教員を学修に「使って」ほしい。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開(1)」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論においては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。
この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。
(到達目標)
【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
①六法(2022年版・令和4年版)
『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない。)
②刑法総論のテキスト(基本書)
講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。選択は受講者に委ねます。
推奨...大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法II各論』2版(日本評論社・2018.04)ISBN: 9784535522404、4,290円(税込)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 入門書
井田良『入門刑法学・各論』2版(有斐閣・2018.03)ISBN: 9784641139343、2,200円(税込)。
2. 判例を学ぶための判例評釈集
○十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『START UP刑法各論判例50!』(有斐閣・2017.12)ISBN: 9784641139268、1,980円(税込)。
○山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト)』8版(有斐閣・2020.11)ISBN: 9784641115514、2,750円(税込)。
3. 学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論』2版(有斐閣・2020.12)ISBN: 9784641139473、4,840円(税込)。
○西田典之/橋爪隆(補訂)『(法律学講座双書)刑法各論』7版(弘文堂・2018.03)ISBN: 9784335304798、4,400円(税込)。
4. 事例の解法を学ぶための参考書
○島伸一(編著)『たのしい刑法II各論』2版(弘文堂・2017.10)ISBN: 9784335357107、3,630円(税込)。
伊藤真(監修)/伊藤塾『予備試験論文5刑法』2版(弘文堂・2021.08)ISBN: 9784335304286、3,080円(税込)。

刑法犯罪各論Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪・囑託同意殺人罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の種類)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強制わいせつ罪・強制性交等罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...20%、期末試験...80%
 各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。
 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
 講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
 講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。
 ※「論理」:思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」を受講していることを推奨します。また、この科目を承継し、刑法各論の中核的問題を扱う「刑法各論Ⅱ」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」、「犯罪学」および「刑事司法政策Ⅰ・Ⅱ」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
 余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（2）」

この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論IIにおいては、刑法各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪（刑法各論の中核的問題）と社会的法益に対する罪を取り上げます。

具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。

この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。

（到達目標）

【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない）。

②刑法総論のテキスト（基本書）

講義の予習・復習、および自習のため、テキスト（基本書）を必携してください。選択は受講者に委ねます。

推奨...大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』2版（日本評論社・2018.04）ISBN: 9784535522404、4,290円（税込）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 入門書

井田良『入門刑法学・各論』2版（有斐閣・2018.03）ISBN: 9784641139343、2,200円（税込）。

2. 判例を学ぶための判例評釈集

○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）ISBN: 9784641139268、1,980円（税込）。

○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト）』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

3. 学説を理解するための基本書

○井田良『講義刑法学・各論』2版（有斐閣・2020.12）ISBN: 9784641139473、4,840円（税込）。

○西田典之 / 橋爪隆（補訂）『（法律学講座双書）刑法各論』7版（弘文堂・2018.03）ISBN: 9784335304798、4,400円（税込）。

4. 事例の解法を学ぶための参考書

○島伸一（編著）『たのしい刑法II各論』2版（弘文堂・2017.10）ISBN: 9784335357107、3,630円（税込）。

伊藤真（監修） / 伊藤塾『予備試験論文5 刑法』2版（弘文堂・2021.08）ISBN: 9784335304286、3,080円（税込）。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3) 毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4) 強盗罪
 - 5回 財産罪(5) 強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6) 詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7) 詐欺罪の諸問題
 - 8回 財産罪(8) 横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9) 盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1) 騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2) 放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3) 放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1) 文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2) 通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...20%、期末試験...80%
 各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。
 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
 講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
 講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。
 ※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」「刑法各論I」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」と「刑法各論I」を受講していることを推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
 余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

(到達目標)

- ・ 保険法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 保険法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている 保険法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです(毎回、必ず持参してください)。

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の関心・理解の度合い等により、進度や順番が変わる可能性があることにつき、ご了承ください。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約成立までの法的問題(1)告知義務制度の背景 告知者とその相手方
- 第6回 保険契約成立までの法的問題(2)告知義務の内容 【告知事項】
- 第7回 保険契約成立までの法的問題(3)告知義務違反の効果 【因果関係の不存在】
- 第8回 保険契約成立までの法的問題(4)告知義務のまとめ
- 第9回 保険契約成立までの法的問題 被保険利益をめぐる問題
- 第10回 保険契約成立後の事情変更・失効に関わる諸問題(リスクの著しい増加や減少など)
- 第11回 保険事故が発生した場合の法的問題 通知義務、保険会社の免責事項(損保の場合)
- 第12回 保険事故が発生した場合の法的問題 約款における免責条項の有効性
- 第13回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第14回 損害保険契約に特有の問題 【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第15回 総まとめ

企業取引法I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

①事後学習課題30%、②中間テストもしくは中間レポート40%、③学期末レポート30%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。
一評価不能：上記の必須課題①②③のすべてが未提出だった場合
D評価：1つ以上の必須課題が提出されたが、最低合格点60点に満たなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
2, また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるが並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法II

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいだけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

（到達目標）

【知識】支払決済法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】支払決済法を解釈・運用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断】支払決済法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手〔第5版〕」（有斐閣Sシリーズ・2018年）2,400円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第4版〕」（新世社・2018年）、早川徹「手形・小切手法〔第2版〕」（新世社・2018年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法律研究会・2003年）。

②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

企業取引法II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。
 なお、新型コロナ・ウイルス問題の状況によって、定期試験の実施に困難がある場合は、大学の方針の下で、評価方法につき変更を生じる場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前にMoodleに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。予習時間60分。
 講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習すること。復習時間60分。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。
 講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 小川 明子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

知的財産に係る権利について学ぶ。まず、知的財産法全体を概観し、その後特許法と著作権法を中心に講義する。適宜重要判例についても解説する。

(到達目標)

【知識】 知的財産法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 知的財産に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 知的財産法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『たのしい著作権法2019』小川明子 ISBN 978-4-9903935-5-7 楽しい著作権法2021

『標準特許法第7版』高林龍 ISBN 978-4641243453

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション、知的財産とは
- 2 知的財産の特色
- 3 発明とは
- 4 特許要件
- 5 権利主体
- 6 特許取得
- 7 特許権と著作権
- 8 著作権の客体
- 9 作者の権利
- 10 作者の権利
- 11 作者人格権
- 12 著作権の主体
- 13 保護期間
- 14 著作隣接権
- 15 テスト、解答解説

知的財産法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での小レポート 30%
筆記テスト（遠隔講義の場合、レポートとします） 50%
平常の学習状況 20%
筆記テストを受験あるいはレポートを提出しなかった場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産に係るニュースに興味を持つこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知的財産が如何に日々の生活に係ることかを認識し、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保されます。

行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、どのようにして私人が違法な行政活動から救済されるかについて理解してもらいます。

(到達目標)

【1 知識】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する知識を体系的に身につけている。

【2 技能】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【3 思考・判断・表現力】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

村上裕章『スタンダード行政法』（有斐閣、2021）2,970円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※いずれも授業開始までに新版が出ていればそちらを用いること。

予習復習用に

中原茂樹『基本行政法[第三版]』（日本評論社、2018）3,740円

板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書』（法律文化社、2019）2,750円

判例集として

宇賀克也ほか『行政判例百選II [7版] 』（有斐閣、2017）2,530円

行政争訟法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスー行政法総論と行政争訟
- 第2回 行政上の不服申立て
- 第3回 処分性(1)——処分性の概念
- 第4回 処分性(2)——近時の判例における処分性
- 第5回 原告適格(1)——原告適格の判断基準
- 第6回 原告適格(2)——近時の判例
- 第7回 訴えの利益
- 第8回 その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
- 第9回 取消訴訟の判決 小テスト(予定)
- 第10回 執行停止制度
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟
- 第13回 差止訴訟
- 第14回 当事者訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%
 期末試験を受験しなかった場合、成績評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。事前にレジュメのアップロードを行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
 また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行うこと。

※この授業はSDGs目標10,11に関連しています。

キーワード /Keywords

処分性、原告適格、訴えの利益 当事者訴訟、実効的権利救済

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①3人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（8回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）

【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。

坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入及びNPOの基礎知識(1)ー講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(2)
- 3回 第1回NPO講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回NPO講演会
- 6回 福祉NPO(2)ー社会福祉法人
- 7回 第3回NPO講演会
- 8回 NPOを考える視点(1)
- 9回 第4回NPO講演会
- 10回 第5回NPO講演会
- 11回 NPOを考える視点(2)
- 12回 第6回NPO講演会
- 13回 NPOを考える視点(3)
- 14回 第7回NPO講演会
- 15回 第8回NPO講演会

NPO論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

期末レポートを提出しなかった場合には「評価不能(－)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご視聴ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
本年はやむを得ない理由から、授業のスケジュールを変更せざるを得ない可能性があります。こうした事情をご了承のうえご参加下さいますようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			政治過程論	PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、“市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う”、といったような政治が機能する過程を、理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身につけ、民主主義体制における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身につけていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】社会保障制度を総合的に理解している。

【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

福祉国家論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「生活保護」 原理・原則
- 第13回「生活保護」 扶助の種類
- 第14回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活
- 第15回「福祉国家の種類」 3つの福祉国家

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
 新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
 欠席による減点ははありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
 13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
 大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合（もしくはレポート課題を提出しなかった場合）は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

9時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』有斐閣。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法—(増補版)』東京大学出版会。

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳(2012)『政策立案の技法—問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ—東洋経済新報社。

阿部彩(2008)『子どもの貧—日本の不平等を考える—』岩波書店。

阿部彩(2014)『子どもの貧困II—解決策を考える—』岩波書店。

公共政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ベリール就学前プロジェクト）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバーデモクラシーと若者政策～

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

期末レポートを提出していない場合には「評価不能（－）」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

地方自治論 【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活の切っても切り離せない地方自治ですが、その全体像を把握し今後のあり方を展望するためには、一定の知識が必要となります。本講義では、受講生が地方自治の基本的な制度や運用を理解したうえで、現実社会における地方自治や自治体のあり方について、自らの意見を持てるよう多角的な観点から講義を行います。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

幸田雅治編（2018）『地方自治論 変化と未来』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大森彌・大杉覚（2019）『これからの地方自治の教科書』第一法規
今川晃・牛山久仁彦編著（2020）『自治・分権と地方行政』芦書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 地方自治制度の基礎
- 3回 地方自治の歴史①【戦前の地方自治】
- 4回 地方自治の歴史②【地方制度の戦後改革】
- 5回 地方自治の歴史③【戦後地方自治のあゆみ】
- 6回 自治体の種類と権能
- 7回 自治体の長と議会（二元的代表制）
- 8回 住民と自治体行政の関係（住民との協働）
- 9回 地方分権改革の意義と到達点
- 10回 「平成の大合併」と自治体
- 11回 国・都道府県・市町村の関係（政府間関係）
- 12回 広域連携と大都市制度
- 13回 自治体職員の制度と運用
- 14回 自治体行政と公共サービスの多様性
- 15回 「危機」と自治体

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。）
※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能（-）」となります。

地方自治論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治に関するニュースに触れ、今日の社会における地方自治の論点を探す。
事後学習：参考書等の関連箇所を読み、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

政治学関連科目、行政学関連科目も合わせて履修することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方自治論は、政治家や地方公務員をめざす人だけの学問ではありません。多様な自治体の全体像を学び、自らの地域のことを考える契機となるような授業運営を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係])について理解してもらう。

(到達目標)

- 【知識】政策問題をめぐる政治・政策過程の知識を修得している。
- 【技能】政策分析に関するスキルを身につけている。
- 【思考・判断】政策過程に関する知識を深め、政策事例を分析し、説明する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』(早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』(秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』(中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』(伊藤光利・真淵勝・田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』(中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』(草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 SDGsのエネルギー・ 食べ物・ 水問題・ 気候危機政策など政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30%、 期末試験 40%
 (本のレポート発表・ ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能(-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、社会的ジレンマ、政策の決定、実施、政策調整、終了、利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、ネットワーク。

福祉政策論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）

【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。

【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の民間組織
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 保育所改革（幼保一体化）
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「児童福祉」 少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
- 第12回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第13回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第14回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第15回 まとめ

福祉政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。

本講義は、都市の経済的問題を軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見えていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
 - 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。
- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に付けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子 『甘いバナナの苦い現実』 2020, コモンズ.
- 鶴見良行 『バナナと日本人』 1982, 岩波新書.
- 長田華子 『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』 2016, 合同出版.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容が変更されることがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			公共経営論	PAD212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

（到達目標）

- 【知識】公共サービスの民営化・民間委託について基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】公共サービスの課題を理解するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】公共サービスの課題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

公共経営論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 N P M (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 P F I
- 第6回 「教育編④図書館」 P F I の問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「公共事業編①」 道路のしくみ
- 第10回 「公共事業編②」 道路公団民営化
- 第11回 「公共事業編③」 道路の必要性
- 第12回 「公共事業編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 非正規職員
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合 (もしくはレポート課題を提出しなかった場合) は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上で公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

都市経営論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が深刻化する中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップ、地域課題へのビジネス手法の活用、地域資源の活用による地域創造など、今後の都市マネジメントの方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

(到達目標)

【知識】

都市マネジメントに関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市マネジメントに関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市マネジメントの状況を説明するとともに、ガバナンスやパートナーシップを駆使した政策展開や地域創造の意義を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 吉田民雄(2003)『都市政府のマネジメント』中央経済社
- 宮脇淳(2012)『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- ・ 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市経営論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市マネジメント
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. 公共施設・空間のマネジメント
11. ガバナンスとパートナーシップ
12. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13. 企業と社会の関わりと市民事業への支援
14. 地域資源の活用による地域創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。
- ・ 当科目は、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。

（到達目標）

【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。

【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション（マクロ経済学とは何か？・講義の進め方についての説明）
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
- 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト（20%）+全3回の課題（30%）+期末試験もしくは期末課題（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

経済学入門B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

経済学入門B 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。

（到達目標）

【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。

【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション（マクロ経済学とは何か？ 講義の進め方についての説明）
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
- 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト（20%）+ 全3回の課題（30%）+ 期末試験 もしくは 期末課題（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

経済学入門B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門A

ECN150M

授業の概要 /Course Description

毎回、テキストの該当箇所を出席者にレポートしていただき、それをもとにディスカッションする形式とする。

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に理解していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後も役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

(到達目標)

【知識】 現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。

【技能】 現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。

【自律的行動力】 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。

教科書 /Textbooks

○橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 日本経済のトレンド(1) 戦後復興 【経済改革】 【労働改革】 【傾斜生産方式】
- 3回 日本経済のトレンド(2) 高度成長 【重厚長大産業】 【エネルギー革命】
- 4回 日本経済のトレンド(3) 高度成長から安定成長へ 【二クソソシヨク】 【オイルシヨク】
【バブル経済】
- 5回 日本経済のトレンド(4) バブル経済の発生と崩壊 【構造改革】 【IT革命】 【グローバルイゼーション】
- 6回 まとめと課題
- 7回 日本経済のトレンド(5) 構造改革とリーマンシヨク 【アジア展開】 【リーマンシヨク】
【中国市場】
- 8回 日本産業の国際展開 【東アジア市場】 【電機産業】 【産業空洞化】
- 9回 日本企業の国際競争力(1) 鉄鋼産業 【寡占間競争】 【合併】 【高炉メーカー】
- 10回 日本企業の国際競争力(2) 自動車産業 【クラスター】 【トヨタイズム】 【ジャストイソタイム】
- 11回 流通革命と情報化のイソパクト 【IT革命】 【サプライチェーン】 【大規模小売店】
- 12回 まとめと課題
- 13回 規制緩和と企業制度改革 【日本型企業システム】 【構造改革】 【持ち株会社】
- 14回 日本企業の組織改革と日本経済のシステム転換 【世界最適調達】 【カンパニー制】 【ICT】
【フラット化】
- 15回 全体のまとめと課題

現代日本経済入門 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび課題を重視して評価する。
レポート・・・ 30% 課題 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、参考図書、新聞や経済雑誌等で授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる箇所をよく読んでおくこと。事後学習については、学習したテーマに関連する事柄について参考図書や他の経済関連図書などで知識の補足をし、次の講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバル化、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本経済を横断的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	現代日本経済の諸問題を横断的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門B

ECN151M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。関連するニュース報道や解説書を理解できるようになることが、目標である。また、日本経済と日本産業が、これまでどのような展開と変遷を辿ったかを説明し、今後の日本経済を見通すうえで必要な専門知識を教える。なお、授業の末尾に練習問題を提示して解答・提出を求める場合がある。

(到達目標)

【知識】現代日本の経済に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。現代日本が直面する経済問題を理解するために必要な情報を収集分析することができる。

【思考・判断】現代日本の経済問題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし (プリントをmoodle等にアップロードするので、それを利用すること。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

1回	日本経済の概要	【高度成長期からの変遷】
2回	日本経済の概要	【少子高齢化・人口減少と財政赤字】
3回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【メインバンク・システム】【系列】
4回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【安定株主】
5回	少子高齢化に立ち向かう日本	【平均寿命】
6回	少子高齢化に立ち向かう日本	【年金・医療制度】
7回	財政赤字と政府債務	【基礎的財政収支】
8回	財政赤字と政府債務	【デフォルト】【マネタイゼーション】
9回	新たなグローバル化の波	【WTO】【FTA】
10回	新たなグローバル化の波	【直接投資】【TPP】
11回	エネルギーの経済学	【固定価格買取り制度】
12回	エネルギーの経済学	【発送電分離】
13回	量的・質的緩和とデフレ克服	【インフレーション・ターゲティング】
14回	量的・質的緩和とデフレ克服	【出口戦略】
15回	現代におけるデータの取扱い方の解説、および、総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末のレポート：100%

現代日本経済入門B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の講義内容にかかわるプリントの各章を事前に関連して予習するとともに、専門用語などを自分で調べる。授業の後では、授業で学んだ内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習・復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論Ⅰ ECN260M

授業の概要 /Course Description

本講義では、さまざまな金融取引とそのメカニズムについて、重要な内容を解説する。金融の基本機能と直接金融・間接金融の分類から始まり、それぞれ具体的な金融取引・証券、金融機関の機能を紹介する。後半では、近年日本でも重要性を増している投資信託、資産証券化やESG等について解説し、最後に為替レート、金融政策について近年のトピックを中心に説明する。

(到達目標)

- 【知識】金融に関する専門的な知識を身につけている。
- 【技能】経済データやモデル分析から、金融に関する問題点や解決策を考察できる。
- 【思考・判断・表現力】専門的な知識を用いた論理的な考察により、金融・経済の動向を分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。オンデマンドのビデオ教材を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡村秀夫・田中敦・野間敏克・藤原賢哉『金融システム論』有斐閣。
- 池尾和人『現代の金融入門』ちくま新書。
- 岩田規久男『金融入門』岩波新書。
- 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンスと金融の基本機能【資金余剰主体・資金不足主体】
2. 間接金融：銀行の役割【決済システム・信用創造】
3. 直接金融：証券と証券市場(1)【発行市場・流通市場・債券】
4. 直接金融：証券と証券市場(2)【株式・IPO・証券会社・機関投資家】
5. 金融規制【BIS規制・早期是正措置】
6. 日本の金融制度と不良債権問題【メインバンク・不良債権問題・銀行破綻・公的資金注入】
7. 前半まとめ
8. 中間試験
9. 投資信託【投資信託・パッシブ・アクティブ】
10. ESG投資【社会的責任投資・ESGファンド】
11. 資産証券化【資産証券化・SPV】
12. シンジケート・ローン【シンジケート・ローン】
13. 為替レート【購買力平価仮説】【金利平価仮説】
14. 金融政策と中央銀行【公開市場操作・量的緩和政策】
15. 後半まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%
 教場試験 50%
 いずれも Moodle で実施する。

金融論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

オンデマンド・ビデオと合わせて、空白の入ったパワーポイント・ファイルも提供するので、ビデオを見る前に、関連する内容をインターネットなどで調べることを勧める。またビデオ視聴後には、空白に入る用語を確認することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融機関、証券、金融市場、不良債権問題・投資信託、資産証券化・ESG・為替レート、金融政策

金融論II 【昼】

担当者名 万 軍民 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

1980年代後半では日本経済に激しい資産（土地や株）バブルが起こり、1990年代初頭にバブルが崩壊し、平成不況は30年ほど続いて、「失われた30年」と言われるようになった。バブルという問題は、金融面からどのようにとらえるのか、そして、金融が実体経済にどのように影響を及ぼすのかを理解する。

本講義では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、金融の役割と日本の金融制度の特徴を理解する。金融市場、家計貯蓄行動、資産選択理論、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融の役割を理解する。
- ②日本の金融に関する基礎知識を習得し、その制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

福田慎一著、金融論、有斐閣、2013、ISBN 978-4-461--16406-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹著、コーポレート・ファイナンス、改訂版、創成社、2009.04、ISBN 9784794423122

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 教科書第1章 【金融の役割】市場と金融取引
- 2回 教科書第1章 【金融の役割】直接金融、間接金融
- 3回 教科書第1章 【金融の役割】資産変換、情報生産、取引費用の節約
- 4回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】家計の貯蓄行動
- 5回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】利子率変化と貯蓄
- 6回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】期待効用仮説、危険回避度、客観的確率、主観的確率
- 7回 教科書第3章 【最適な資産選択】平均分散アプローチ
- 8回 教科書第3章 【最適な資産選択】最適なポートフォリオ
- 9回 教科書第3章 【最適な資産選択】分離定理、CAPM、貯蓄から投資へ
- 10回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】効率的市場仮説と裁定、債券市場
- 11回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】金利の期間構造、株式市場
- 12回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】バブル、投機、資産価格のボラティリティ
- 13回 教科書第5章 【企業の資金調達】設備投資、資金需要
- 14回 教科書第5章 【企業の資金調達】生産の不確実性、有限責任、資金貸付市場
- 15回 教科書第5章 【企業の資金調達】情報の非対称性、不完備契約、信用割当

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題...40%、期末試験 ... 60%

金融論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 教科書を必ず事前に入手し、予定講義内容を予習しておく。
- 2 講義後には、ノートと教科書を用いて、講義内容について復習し、理解を深めておく。
- 3 宿題を解いて、期限まで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- 1 資料などは、MOODLEから入手しておくこと。
- 2 毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日々起こっている重大な経済社会問題に対して、受講生諸君は、「なぜ」という探求心を持っているだろうと思います。それらの問題の発生メカニズム及び対策に対して、世界各地の学者が日々に「知」を創り上げています。大学での授業は、これら最新の「知」まで触れる機会を提供しており、受講生諸君はきっと「知」に刺激され、「知」の楽しさを味わうことで、自ら「知」の創成を試みるでしょう。受講生諸君は私と一緒に楽しく頑張りましょう。

キーワード /Keywords

資産変換、情報生産、銀行、債券

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。なお、各講義の最後に、練習問題を解答・提出し、次の回でその解説をして理解を深めることがある。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題を理解するために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』(法律文化社)、2400円+税(価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
- 3回 国際収支表 【フロー統計】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
- 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
- 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
- 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
- 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
- 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
- 15回 まとめと総復習 【24時間ダイーリング】

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

国際金融論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。授業の後には、講義内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習、復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることがを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

(到達目標)

【知識】国際金融に関する専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】国際金融の諸問題について、自分の見解を導き出すために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】国際金融の諸問題について、総合的かつ論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を適切な方法で発信することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』法律文化社、2400円 + 税 (価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
- 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
- 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
- 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
- 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
- 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
- 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
- 9回 国際的な金融危機の類型 【資本収支型の危機】
- 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
- 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
- 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティ】
- 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
- 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
- 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。(予習、復習、それぞれ60分程度)

国際金融論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

(到達目標)

【知識】立地論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業の立地法則について、論理的に思考して立地行動を探索、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】企業立地への関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

経済地理学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学特講や地域経済、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

なお、今年度は受講者が多くなり、コロナ感染対策からメディア授業となる可能性があります。その際は、Moodleに動画をアップし、オンデマンドで視聴していただくこととなります。

(到達目標)

【知識】都市論および地域論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】都市の立地法則や地域構造の成り立ちについて、論理的に思考して法則性を探求、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】都市の立地や地域の成り立ちへの関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

経済地理学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【ブレット】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験(オンデマンドの場合は最終課題になります。) ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

環境経済学 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

環境経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自律的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネツツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
また、3回程度、外部講師による講演も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

(到達目標)

【知識】

経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【組織】【管理】【伝統的管理論】
- 第7回 組織とは何か2【人間観の転換】
- 第8回 組織とは何か3【近代的な管理】
- 第9回 組織とは何か4【組織社会と企業】
- 第10回 事例研究
- 第11回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第12回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第13回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第14回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によって評価します。
なお、学期末試験を未受験の場合、（-）評価となります。

マネジメント論基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

この講義では、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、企業評価論I、企業評価論IIなど）を受講するうえで必要となるファイナンスに関する基礎知識について勉強します。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深く関わっています。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛丸元『スタンダード企業論(改定版)』同文館出版，2015年。(○)

鈴木基史・羽岡秀晃『実務から学ぶコーポレート・ファイナンス』中央経済社，2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業形態【合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
- 第3回 財務分析①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 第4回 財務分析②【安全性分析、収益性分析、効率性分析】
- 第5回 評価の基本原理解【単利、複利、将来価値、現在価値、割引率】
- 第6回 債券の価値評価【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 ポートフォリオ理論①【期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数】
- 第9回 ポートフォリオ理論②【リスク、リターン、効率的フロンティア】
- 第10回 ポートフォリオ理論③【CAPM、資本市場線、証券市場線】
- 第11回 M&A①【M&Aの意義と経済効果、敵対的買収】
- 第12回 M&A②【LBO、MBO、買収防衛策】
- 第13回 行動ファイナンス①【アノマリー、市場の効率性を阻害する要因】
- 第14回 行動ファイナンス②【現実の意思決定、プロスペクト理論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

企業論基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと（目安時間：60分）。
講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと（目安時間：60分）。

履修上の注意 /Remarks

学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

企業形態、財務分析、価値評価、ポートフォリオ理論、M&A、行動ファイナンス

簿記論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論Ⅰ

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説します。簿記論Ⅰでは、「簿記の基礎」を中心に講義します。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問であります。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してください。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにあります。

(到達目標)

【知識】複式簿記に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】複式簿記に基づき財務諸表を作成するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】複式簿記に基づく財務諸表の作成について、論理的に思考して作成方法を検討し、迅速かつ正確に財務諸表を作成することができる。

教科書 /Textbooks

岡部勝成編著『初級簿記のセミナー』中央経済社、2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記のルール【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記のルール【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】【転記】
- 7回 商品売買【分記法】【三分法】
- 8回 商品売買【値引き】【返品】
- 9回 商品売買【当座取引】【手形】【送料】
- 10回 仕訳帳と元帳
- 11回 決算【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金取引【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金取引【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・小テスト...20%、定期試験...80%
- ・6回以上欠席した場合は、評価不能とします。
- ・定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

簿記論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の講義範囲を告げ予修の励行と今回の講義範囲の復修プリントにより復修を励行させ理解を充実できるようにしていきます。(予修時間60分、復修時間60分)

履修上の注意 /Remarks

欠席すると分からなくなりますので出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定テキストと電卓を持参してください。

キーワード /Keywords

商業簿記、株式会社、簿記の5要素、貸借対照表、損益計算書

数学【昼】

担当者名 /Instructor 村原 英樹 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済・経営に関する数理的理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 村原 英樹 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済・経営に関する統計的理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営統計

MTH150M

授業の概要 /Course Description

経済学や経営学では、与えられたデータをもとに、それを図で表したり、統計的手法を用いてそれを分析したりすることがよく行われる。またそれとは別に、関心のある対象の全体（母集団）から一部（標本）を取り出し、それを調べることで全体の特性（平均値や分散など）について推論することも行われる。

本講義では、こうした統計的な手法を用いたデータの分析および統計的推論について、それらの考え方と実践について考察する。それらを行うのに必要な確率分布に関する知識を習得し、統計的推論の考え方を理解するとともに、母集団の平均に関する点推定、区間推定および検定ができるようになることを目標とする。

（到達目標）

【知識】統計に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】統計に関する基本的な問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現】統計に関連する基本的問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

塩出 省吾・今野 勤（共著）『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』（共立出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション・確率分布（1）離散型確率分布の基礎
- 第2回：確率分布（2）様々な離散型確率分布について（1）
- 第3回：確率分布（3）様々な離散型確率分布について（2）・連続型確率分布について（1）
- 第4回：確率分布（4）連続型確率分布について（2）
- 第5回：確率分布（5）正規分布の再生性と標準正規分布について
- 第6回：確率分布（6）正規近似について（1）
- 第7回：確率分布（7）正規近似について（2）・偏差値について
- 第8回：統計的推論（1）母平均の区間推定について（1）
- 第9回：統計的推論（2）母平均の区間推定について（2）
- 第10回：統計的推論（3）母平均の検定（1）
- 第11回：統計的推論（4）母平均の検定（2）
- 第12回：統計的推論（5）母平均の検定（3）
- 第13回：統計的推論（6）2つの母集団の比較（1）
- 第14回：統計的推論（7）2つの母集団の比較（2）
- 第15回：統計的推論（8）2つの母集団の比較（3）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40％，レポート課題・・・60％

ただし、授業中に提示した事柄や出席などによって、期末試験の得点に加点・減点する場合がある。

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

経営統計【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回，授業内容の予習と復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

(到達目標)

- 【知識・理解】Java言語のプログラムを読み書きできる
- 【技能】プログラミングの基本構造、変数（配列、引数、戻り値）、条件分岐、繰返し構文を理解する
- 【思考・判断・表現】自分で考えたアプリケーションのプログラミングができる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 結城 浩 著『Java言語プログラミングレッスン 第3版(上)』ソフトバンククリエイティブ
- 結城 浩 著『Java言語プログラミングレッスン 第3版(下)』ソフトバンククリエイティブ
- 高橋 麻奈 著『やさしいJava 第6版』ソフトバンククリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(クラスにより内容が違っているので、おおよその内容です。受講者の理解度により内容は変更することがあります。【 】はキーワード。)

- 1回 情報科学入門の復習【Scratch】【フローチャートの書き方】
- 2回 フローチャート演習
- 3回 基本操作【Java】【Eclipse】
- 4回 変数の利用とデータ型【変数宣言】【算術演算】
- 5回 配列の利用【配列宣言】
- 6回 繰返し【forループ】
- 7回 繰返し【2重ループ】
- 8回 ここまでのまとめと問題演習1
- 9回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
- 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
- 13回 演習1【確認問題】
- 14回 演習2【応用問題】
- 15回 まとめと総合問題演習【模擬テスト】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%
3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

プログラミングI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後に演習問題に取り組み、授業開始前までに疑問点(わからない点)を明確にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦勞するとは思いますが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。

自分のパソコンにJAVA開発環境をインストールする必要があります。あらかじめMoodleに準備されているeclipseをダウンロードするか「eclipse インストール」のキーワードで開発環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語(Java)について学習すること(プログラム言語のルールの習得)は多くありません。

ルールの1つずつは簡単です。与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせで作成します。慣れるまでは、この組み合わせ(処理の手順)を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。

また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

また、本年度より、実際の財務諸表を見慣れるためにかんたんな財務分析の時間を可能な限り設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

財務会計論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末試験または期末レポート... 60%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために財務会計論Iに続けて様々な会社の財務諸表を読む練習の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する専門的な知識を見つけている。

技能：会計学の専門的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

財務会計論II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表分析【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む)...20% 期末試験または期末レポート...80%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト(簿記2級程度の仕訳)や、財務会計論の入門書及びわかりやすい教科書(例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光&川村義則の最新の書籍)を読むことをすすめる。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみるのが重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)

網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)

他、参考となる文献を適宜紹介します。

経営戦略論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】【戦略経営論】【プロセス戦略論】【R B V】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】【シナジー効果】【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】【M&A】【戦略提携】
- 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【P L C】【経験曲線】【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォーセス】【PEST】【戦略グループ】【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】【差別化】【集中化】【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダ】【チャレンジャー】【ニッチャー】【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】【ビジネスモデル】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】【組織文化】【組織インフラ】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】【組織学習】【知識創造】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によります。
 なお、学期末試験を未受験の場合、（－）評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
 授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
 また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
 前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
 授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
 授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

（到達目標）

【知識】 データ構造とアルゴリズムに関する基礎的な知識を身につけている

【技能】 コンピュータを用いた処理を行うためのスキルを身につけている

【思考・判断・表現力】 データ構造とアルゴリズムについて、論理的に思考して解決策を探索し、目的とするアルゴリズムを論理的に表現することができる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木（ツリー）の構造 1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木（ツリー）の構造 2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索 1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索 2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索 3【二分探索木】
- 10回 ソート法 1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法 2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例 1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例 2【動的計画法】
- 14回 応用例 3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 80% 日常の授業への取り組み・・ 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

データ構造【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、資格試験にも対応できるよう基礎をしっかりと勉強するため、「難易度は高めです」。

（到達目標）

【知識】

データベースシステムに関する専門的な知識を身につけている。

【技能】

データベースシステム操作のスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】

データベースの構造を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
 その他、講義中に指示

データベース【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%
 特段の事情なく、授業実施回数の2/3以上の出席がない場合、および、期末試験の未受験の場合は、評価不能(一)となります。
 詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高め、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

難易度は高めです

USBフラッシュメモリがネットワークドライブに演習ファイルを保存してもらいます。USBフラッシュメモリを使う人は準備しておいてください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが、資格試験に対応できるように、「難易度は高めです」。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。難易度が高いので、他に履修するものがない、友達が履修するなどの理由では選択しない方がよいと思います。

キーワード /Keywords

Webプログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なWebプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのWebプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてWebプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Webプログラミング

INF212M

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミングを中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのPHP言語の習得を目的とします。PHPの難易度としては初歩から中級レベルです。

PHPとは、Webページ上での処理を目的とした言語で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をするプログラムなどが作成可能です。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他、アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどにも応用可能です。

(到達目標)

【知識】

プログラミング言語、およびそのネットワークでの応用方法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

インタラクティブなWebページの作成スキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】

入力フォームを用いて、データの入力Webページを適切に表現ができる。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。まとめ資料も配布しますが、最低限の内容しか記載していません。(しっかりとした理解のためには参考書を各自参照してください。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷藤賢一著、『いきなり はじめる PHP』、リックテレコム
 小川雄大他『パーフェクトPHP』、技術評論社
 山田祥寛『独習PHP 第2版』、翔泳社

Webプログラミング【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、PHPとは【PHP】
- 第2回：PHPに必要なソフトのインストール
- 第3回：PHPの仕組み、HTML作成方法
- 第4回：HTMLによるフォームの作成方法
- 第5回：PHP言語入門：変数【PHP言語】【変数、配列】
- 第6回：HTMLとPHPによるデータの受け渡し方法【データ受け渡し】
- 第7回：PHP言語入門：条件分岐1【条件分岐】
- 第8回：PHP言語入門：条件分岐2【複雑な条件分岐】
- 第9回：PHP言語入門：繰り返し1【繰り返しfor】
- 第10回：PHP言語入門：繰り返し2【繰り返しwhile】
- 第11回：PHPによるファイル操作1【ファイル操作】
- 第12回：PHPによるファイル操作2【データの入れ替え】
- 第13回：乱数の利用【乱数】
- 第14回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
- 第15回：PHP技術の応用【PHP応用】

(進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 課題・小テスト...25% 期末試験...60%
 特段の事情なく、授業実施回数の2/3以上の出席がない場合、あるいは期末試験を未受験の場合、評価不能(一)となります。
 詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回内容を復習し、理解できていない場合にはテキスト、参考資料、Web検索などでしっかりと勉強し、次回までには理解しておくこと。定期的な課題にもしっかりと時間をかけて取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPHP言語というプログラミング言語によるWeb上で動作するプログラミングをします。PHPはJAVAに似ていますので、JAVA経験者はJAVAの文法を復習しておくとう理解しやすいと思います。

PHPについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

基礎から勉強しますが、プログラミング未経験者は、各自予習復習をしっかりする必要がありますと思います。

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

必要なソフトをUSBフラッシュメモリにコピーして毎回の演習を実施するため、USBメモリを持っていない人は準備してください。one driveなど、ネットワークドライブでは実行不可です。この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き生きと働けるようにするか、人事制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布資料をテキストとします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平野光俊・江夏幾多郎 (2018) 『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア○

人的資源管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。

第2回 人事制度を学ぶとはどういうことか

経営の中での人事制度の役割について学びます。

第3回 雇用管理

日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。

第4回 能力開発

企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。

第5回 ジョブディスクリプションにまつわる課題

人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。

第6回 人事等級制度

人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。

第7回 考課制度

企業内の労働者をどう評価するか，人事考課制度に着目しながら学びます。

第8回 賃金制度

日本企業における賃金を決定するためのルールについて，歴史的変遷に着目しながら学びます。

第9回 ジョブ型・メンバーシップ型の議論

日本の人的資源管理論および人事労務管理論の分野ではこの10年「ジョブ型・メンバーシップ型」の議論が活発になっています。第9回ではこの議論について少し見ていくこととします。

第10回 日本の労務管理研究は“働き方”をどのように捉えてきたのか

“働き方”といってもいろいろな捉え方があります。第10回では，学術の現場では“働き方”がどのように捉えられてきたのか，またその捉え方についてのどのような問題があるのかを考えていきます。

第11回 多様な働き方① - キャリア論から -

近年ダイバーシティ（多様性）という言葉が世界的にも浸透してきています。働き方についても多様性はもちろんあります。第11回ではキャリア論（場合によっては雇用区分の観点から）の視点から様々な働き方について見ていきます。

第12回 多様な働き方② - 女性労働者の議論から -

日本の人事制度は性別役割分業を前提として制度設計がなされているということが多々あります。近年ではこの問題は徐々に解消されてきていますが，問題はまだ残っています。したがって，ジェンダーに対する理解が深まっている昨今ですが，敢えて「女性」という言葉を用いて働き方の議論について見ていきます。

第13回 多様な働き方実現に向けての課題 - 人事制度の本質的課題から -

11回・12回では多様な働き方について見ていきました。多様な働き方を実現するには様々な障害があります。実のところ，人事制度もその障害のうちの一つです。人事制度にまつわる障害をどのように克服するべきなのか「人事プラクティス」という概念に着目しながら学びます。

第14回 人的資源管理論をより高度に理解する

第14回の内容は少し高度です。人的資源管理論を専門とする研究者が今何を大きな課題として捉えているかを把握します。

第15回 まとめ

全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。

60点以上の者に単位を与える。

レポートを提出しなかった者，定期試験を受験しなかった者はいずれも評価不能（－）とする。

※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。

事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9% (以上、経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自律的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
- 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
- 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
- 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
- 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(卸売業、小売業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 人材の確保と育成
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 海外展開
 - 第10回 スタートアップ
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則、毎回レポートを課します…60%
 (期末テストは行いません)
 (レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能(-)とします)
 日常の授業への取り組みも評価の対象にします…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
 例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府はどういった対策を講じようとしていますか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

企業データ分析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	データ解析法の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのデータ解析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業データ分析

INF341M

授業の概要 /Course Description

近年、情報科学や統計学、データ分析といった分野は非常に注目されています。経営情報学科においても、そういった流れを踏まえ、1年時に必修科目として「情報科学入門」や「経営統計I」を設置し、こういった学問分野への入り口としています。

本講義では、「経営統計I」で学んだ知識を「情報科学入門」で学んだプログラミングの技術を用いて確認し、また、卒業論文などの研究、また就職後の実務場面においてデータ分析を行うことができるようになるための知識と技術を身につけることを目的としています。

「経営統計I」で学んだ理論について、シミュレーションデータを用いてその通りにデータが振る舞うことを確認する。平均値や分散といった指標をMicrosoft ExcelやPythonで算出する方法を学び、実際に求めてみる。実データを用い、Pythonで統計的仮説検定や回帰分析などを行い、結果を解釈する。といった内容になります。

到達目標

知識

経営統計に関する基礎的な知識体系的かつ総合的に身につけている。

技能

経営統計に関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

経営統計について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷合廣紀(著)「Pythonで理解する統計解析の基礎」技術評論社

企業データ分析【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, Excelの使い方【Microsoft Excel】
- 2回 Pythonの使い方とパッケージ【Python】, 【numpy】, 【Google Colaboratory】
- 3回 データの作成と読み込み, グラフ作成【csv】, 【pandas】, 【matplotlib】
- 4回 1変量データの要約【変数】, 【尺度】, 【度数分布表】, 【ヒストグラム】
- 5回 変数の代表値について【平均】, 【分散】, 【標準偏差】
- 6回 離散的な分布の扱い方【確率】, 【2項分布】, 【シミュレーション】
- 7回 母集団と標本【母数】, 【標本】, 【推定値】
- 8回 連続的な分布の扱い方【正規分布】, 【確率密度関数】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】, 【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】, 【標準誤差】, 【信頼区間】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】【仮説検定】【検定力】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】, 【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】, 【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%

尚, 欠席は減点の対象となります。

6回以上欠席の場合と期末試験を欠席の場合, 成績評価の対象とならず評価不能(-)として扱います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので, ダウンロード, 読んでおいてください。

講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは, 練習問題を解いて理解度を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて, Python, Microsoft Excelを用いた実習を行いますので, コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。

Google Colaboratoryというサービスを用いて分析を行います。そのため, Googleアカウントを準備しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さらに高度な分析を学びたい人向けに, 3年時開講科目として「マーケティング・サイエンス」があります。本講義には, そのための準備という位置づけもあります。興味を持った方は, ぜひより高いレベルの分析にチャレンジしてみてください。

キーワード /Keywords

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。
この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

到達目標

知識

オペレーションズ・リサーチに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

技能

オペレーションズ・リサーチに関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

オペレーションズ・リサーチについて、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齊藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ、工程管理とは
- 3回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ、PERT図の作成
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅲ、所要時間の評価
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 7回 【線形計画法】の実習
- 8回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ、待ち行列の定義
- 9回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ、待ち行列に関する指標の導出
- 10回 【待ち行列理論】の実習
- 11回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ、金利を踏まえた意思決定のあり方
- 12回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ、金利を踏まえた変換式の導出
- 13回 【経済性工学】の実習
- 14回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 15回 質問受付・まとめ

オペレーションズ・マネジメント【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%

ただし，欠席を減点対象とします．

6回以上欠席の場合と期末試験を欠席の場合，成績評価の対象とならず評価不能(-)として扱います．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので，教科書の該当章をあらかじめ読み，どのような内容になるのか，どういった点が重要と考えられるかなど，考えておくことで講義での理解が深まります．

講義のあとは，練習問題を解いてみることで，講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります．

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて，Microsoft Excelを用いた実習を行いますので，コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください．また，1GB以上のUSBメモリを持参してください．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は 以下のとおりである。

【知識】 コンピュータネットワークに関する基礎的な知識 を身につけている。

【技能】 コンピュータネットワークの構築・設定・利用を行うために必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】 コンピュータネットワークについて、総合的に思考して解決策を探索し、適切な方法でネットワークを構築・設定・利用することができる。

教科書 /Textbooks

資料をMoodleで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 理解度確認テスト
- 15回 総合的なまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度確認テスト... 70%、課題... 30%
 6回以上欠席した場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料をMoodleで配布するので、授業開始前までに内容を確認してください。
 授業終了後は、授業の内容を反復してください。

情報ネットワーク【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してください。

キーワード /Keywords

IPアドレス、ドメインネーム、プロトコル

情報経営【昼】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報経営に関わる諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報経営	BUS316M
------	---------

授業の概要 /Course Description

経営や管理や作業に役立つ情報とは何かを企業目的達成の立場から考察する。役立つ情報（経営・管理・作業）をつくるための制作手順と利用するための活用技術を学習する、特に利用するための意思決定支援システムについては経営階層別に具体例を上げて検討する。経営情報を通じて企業収益を高めるための方策、企業や組織の壁を越えて連携する態様をいくつかの例を上げて考察する。大企業を中心としたグローバル情報戦略を考えてみる。授業ごとにポイントを把握できるようにまとめの時間を設定する。授業はスライド（パワーポイント）を使い講義する。講義のポイントを用紙に記録できるように学生には事前に配布する。

（到達目標）

【知識】経営学及び情報論の専門的知識を身につけている

【技能】経営データを使いプレゼンテーション資料をつくる技術を身につけている

【思考・判断】情報経営データ（例えば財務諸表）から、何が問題（例えば固定費が高い）かを思考・判断できる

教科書 /Textbooks

教科書は使わない。
 講義のポイントを記録する用紙を配布する。
 用紙には6個ほど重要なキーワードを予告しておく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮川公男編著：「経営情報システム」、中央経済社（1994）3000円
 泉英明著：「わかりやすい生産管理 基礎が身に付く15講義」、日刊工業新聞社（2015）2000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目	情報経営と情報経営の意義	【経営と管理】 【情報経営】 【情報の価値】
第2回目	情報の特徴と情報生産	【情報化社会】 【産業の情報化】 【情報の産業化】
第3回目	経営・管理・作業情報	【経営階層】 【経営情報・管理情報・作業情報】
第4回目	情報システムの機能	【情報システム】 【意思決定】 【コロナ感染ステージと意思決定】
第5回目	情報・知識の形	【暗黙知と形式知】 【ナレッジマネジメント】 【知のピラミッド】
第6回目	情報システム制作と活用	【情報システム制作】 【見込み・受注・カスタマイズ制作】
第7回目	情報システム普及の背景	【コンピュータの普及背景】 【ハード・ソフトシステム】
第8回目	ユビキタス社会とAI・IOT経営戦略	【AI】 【IOT】 【インターネット】
第9回目	意思決定支援システム	【製品ライフサイクル】 【市場ライフサイクル】 【DSS】
第10回目	電子商取引	【電子商取引】 【EDI】 【eコマース】
第11回目	SCM,VCM	【企業間連携】 【全体最適】 【組織の壁】
第12回目	顧客管理のデータベース	【顧客管理】 【CRM】 【SFA】
第13回目	モノづくりの効率化	【CAD/CAM】 【NCデータ】 【ロボットの特徴】
第14回目	国際化・グローバル化時代の情報経営	【多国籍企業】 【グローバル経営】
第15回目	情報経営の総括	【情報経営の成果と課題】

情報経営【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%、小テスト20%、授業態度(積極的発言)10%
(評価不能の条件)

1. 8回以上欠席した場合は評価不能とする
2. 定期試験を受験しなかった場合は評価不能にする
3. 小テスト(4回実施予定)の提出が半分未満の場合は評価不能とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1. 次回行う授業内容をファイルにて事前に知らせる。概要を把握しておくこと。
2. 実施した授業内容のポイント(A3サイズの用紙)を基に復讐すること。

3. 授業の理解度を確認するため小テスト3~4回実施する。

履修上の注意 /Remarks

授業には、特別な事情がない限り「遅れず」「休まず」「早引きせず」を原則に、授業に集中すること。
授業中は「他の勉強」、「スマホに夢中」、「居眠り」などはせずに授業に集中するように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常のテレビ、新聞、雑誌、専門誌などの情報(内容)に関心を持ち、この情報内容では①経営者が意思決定できない ②管理者が意思決定できない③実務担当者は行動できない(対応できない)などを批判(評価)する意気込みを心がけてほしい。

キーワード /Keywords

情報の役立ち、経営情報、管理情報、作業情報、情報コスト、提供タイミング、情報価値、情報生産、情報利用、情報のリスク

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

知識の到達目標としてはシステムに関する専門的な知識を身につけていることです。また、技能の到達目標としてはシステムを理解する上で必要な情報を収集、分析することができることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステムの観点からの論理的な分析をもとに、代替案を立案し、その効果を評価できる力を身につけていることです。

(到達目標)

【知識】 企業システムを構築する際には、予めどのような業務を行っているか？どのような業務をシステムするか？を分析する必要があります。その手法について理解し自ら分析できる

【技能】 組織の経営問題を理解し、分析手法を適用できる

【思考・判断・表現力】 自ら専門的知識を調査し、各種分析手法を体現しながら表現力を身に着ける

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートはMoodleに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○

大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

システム分析 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%
3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報システム設計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム設計に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム設計の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム設計

INF420M

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

知識の到達目標としてはシステムを構築する上で体系的かつ総合的に理解していることです。また、技能の到達目標としてはシステム構築を行うスキルを身につけていることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステム設計について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができることです。

(到達目標)

【知識】アプリケーション開発に必要なクラスやメソッドの機能や使い方を理解する

【技能】アプリケーション開発に必要なオブジェクト指向を理解し、プログラミングできる

【思考・判断・表現力】自ら専門的知識を調査し、各種設計手法を体現しながら表現力を身に着ける

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノート Moodle にアップする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング

山田 祥寛著『TECHNICAL MASTER はじめてのAndroidアプリ開発 第3版Android Studio 3 対応』2019年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【AndroidStudio】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...60%

3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

システム設計 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。講義ノートはMoodleにアップしておくので、予め予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1

SOW100M

授業の概要 /Course Description

- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
 - ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
 - ・福祉政策の課題について理解する。
- (到達目標)
【知識】福祉の原理、福祉制度の意義や理念、福祉政策の課題についての知識を修得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会の変化と福祉①【市民権、福祉国家】
- 3回 社会の変化と福祉②【新自由主義、グローバル化】
- 4回 福祉と福祉政策①【価値、規範】
- 5回 福祉と福祉政策②【福祉施策、社会福祉士】
- 6回 福祉の思想と哲学①【市場の論理、ロールズ】
- 7回 福祉の思想と哲学②【効率性、公平性】
- 8回 社会政策と福祉政策①【雇用、教育、住宅】
- 9回 社会政策と福祉政策②【高齢者、障害者、児童、施設】
- 10回 福祉政策の発展過程①【近代化、経済成長】
- 11回 福祉政策の発展過程②【リスク社会、ポスト産業社会】
- 12回 少子高齢化時代の福祉政策①【福祉元年、地域福祉】
- 13回 少子高齢化時代の福祉政策②【家族機能、人権擁護、虐待問題】
- 14回 ゲストスピーカー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(9回)90% 期末課題10%
小テストを3回以上受験しなかった場合、または期末課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 一各授業で内容に関わる小テストを行います。未提出や内容が不十分な場合は減点になります。
- 一授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 /カワシマシズヨ /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ②福祉政策のニーズと資源について理解する。
- ③福祉政策の課題について理解する。
- ④福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
- ⑤福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

(到達目標)

【知識】社会福祉の理念と基礎理論の知識について総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

レジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新社会福祉士養成講座 現代社会と福祉』中央法規出版

現代社会と福祉 2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	社会政策の概要	【社会政策】【社会福祉政策】【福祉政策】
2回	福祉の理念と思想		【ノーマライゼーション】【生存権保障】【エンパワメント】
3回	社会福祉サービスと援助活動 1		【生活問題】【ソーシャルワーク】
4回	社会福祉サービスと援助活動 2		【ケースワークの原則】
5回	福祉サービスと援助活動 3		【ケースワーカーとの対話】【ケースワークの原則の事例】
6回	福祉政策の関係領域 1		【社会保障】【社会保険】【社会手当】
7回	福祉政策の関連領域 2		【貧困問題】【生活問題】【格差社会】
8回	福祉政策の関連領域 3		【住宅と福祉政策】【ネットカフェ難民】
9回	福祉政策の関連領域 4		【雇用と福祉政策】
10回	福祉政策の関連領域 5		【人権擁護と福祉政策】【高齢者虐待防止法】【障害者虐待防止法】
11回	福祉政策の関連領域 6		【人権擁護と福祉政策】【児童虐待防止法】【DV防止法】
12回	福祉資源の分配システム		【日本における福祉の多元化】
13回	福祉政策の国際比較 1		【北欧】【福祉国家レジーム】
14回	福祉政策の国際比較 2		【台湾の福祉】
15回	これまでの振り返り		

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
 6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。
 授業への参加状況+課題提出(30点)、テスト(70点)など、総合的に判断する。
 遠隔授業になる場合には成績評価の方法や割合が変更になる可能性もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：シラバスで記した毎回ごとのキーワードを調べておくこと。
 事後学習：①授業中に実施したワークシートの復習、②配布した資料を順番にファイル等に整理し閉じておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「現代社会と福祉1」を履修済みであることが望ましい。受講していない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を事前に学習しておくようにしてください。
 社会福祉士養成課程の指定科目として開講されるため社会福祉士受験資格取得を前提とした内容であるが、その他の学生にも理解できるように配慮しているので、教養としても学んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「今日の社会福祉問題」について、課題の提出と発表を考えています。日頃から社会福祉について関心を持ち、新聞やニュースなどで情報を得るようにしておいてください。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉に関する理論と現場理解を基盤に、地域と対象者の抱える問題の本質を分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 1

SOW260M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

(到達目標)

【知識】 ソーシャルワークの基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】 ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの基礎と専門職』中央法規出版、2,900円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

（到達目標）

【知識】社会調査に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】基礎的な社会調査の公準を身につけている。

【思考・判断・表現力】社会調査の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な視点を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-理論と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・100%

出席が3分の2に満たない場合は評価不能（-）とする。

社会調査の基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ね教科書に則して進めるので、該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。
初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士の業務に必要な社会調査についての基本的な考え方と技法を習得する。
 社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」（「どうすればいいのか」）を、データに基づいて解釈することにある。
 この授業では、社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。具体的には、（1）意味のある「問い」をたてること、（2）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（3）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（4）データを統計的に処理すること、（5）データを解釈すること、について学ぶ。

到達目標

【知識】社会調査の基礎に関する知識を総合的に身につけている。
 【技術】社会調査の基礎に関する技術を総合的に身につけている。
 【思考・判断・表現力】社会調査に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132
- 『社会調査の基礎』、宮本和彦・梶原隆之他編、弘文堂、2019、¥2750
- 『社会調査の基礎』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2013、¥2420
- 『社会調査の基礎』潮谷有二・杉澤秀博・武田文編著、ミネルヴァ書房、2010、¥2860
- 『調査データ分析の基礎』岩井紀子・保田時男、2003、¥3080

社会調査の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文をつくる】
- 第6回 ワーディング2【選択肢の設定と調査票の構成】
- 第7回 サンプルング1【サンプルングとは何か】
- 第8回 サンプルング2【サンプルングの方法】
- 第9回 調査の準備と実査
- 第10回 データファイルの作成
- 第11回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第12回 2変数間の関係1【クロス表】
- 第13回 2変数間の関係2【相関係数】
- 第13回 公開されている社会調査データの2次分析
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・60%、課題（小テスト）・・・40%
 （総合的に判断する。シラバスの到達目標をどの程度達成しているか等も考慮する。）
 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
 課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

エクセル、ワードの基本的な操作については習熟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んでください。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプルング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 40% 期末試験... 60%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

福祉行財政と福祉計画【昼】

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関する現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

更生保護制度 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 更生保護制度に関する専門知識に加え、刑事司法、少年司法と福祉との連携について、総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 更生保護活動を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 更生保護制度に関する専門知識を基盤に、問題に対する解決策を提案できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

更生保護制度

SOW244M

授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

(到達目標)

【知識】 罪を犯した人々への福祉的関わりに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 罪を犯した人々の生活支援に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編 (2017) 「新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第4版」(中央法規)
日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 (2021) 「刑事司法と福祉(最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座)」(中央法規)
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 成人の刑事司法制度①(基礎)
- 第3回 成人の刑事司法制度②(行刑改革)
- 第4回 子どもの非行①(制度)
- 第5回 子どもの非行②(実践)
- 第6回 更生保護制度①
- 第7回 更生保護制度②
- 第8回 触法知的障害者
- 第9回 触法高齢者と地域生活定着支援センター
- 第10回 触法高齢者の社会復帰
- 第11回 精神障害者による触法行為
- 第12回 薬物依存問題への対応①(現状と仕組み)
- 第13回 薬物依存問題への対応②(当事者の声)
- 第14回 被害者支援
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。また、定期的に出される課題が未提出の場合は減点になります。

更生保護制度 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業終了後に内容を復習しておくこと。また、定期的に課題を出すので、期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 山下 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について心理学的視点から主体的に学習できる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学概論

PSY100M

授業の概要 /Course Description

対人援助職が必要とする「人の理解と支援」を心理学を通して学ぶ。援助場面でどのように心理学の知見が活用されているかについても紹介する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、心理学の視点
- 2回 心の生物学的基盤—脳と心—
- 3回 感情・動機づけ・欲求
- 4回 感覚・知覚
- 5回 学習・行動
- 6回 認知—注意・記憶・思考—
- 7回 個人差—知能とパーソナリティ—
- 8回 人と環境—自己と社会—
- 9回 生涯発達—ライフサイクルへの理解と支援—
- 10回 心の発達の基盤—アタッチメントと発達障害—
- 11回 心の不適応—ストレスと精神疾患—
- 12回 健康生成論—ストレスとレジリエンス—
- 13回 心理アセスメント—アセスメントの活かし方—
- 14回 心理的支援の基本的技法—ソーシャルワークと心理的支援—
- 15回 心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点の学習状況(小テスト含む) 50%、レポート 50%
 3回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学習後に振り返りワークシートへの記入で知識と実践の定着を図る。

履修上の注意 /Remarks

必要に応じてペアワーク、グループワークを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理学をより身近に感じ、日常生活に活かす心理学の考え方や支援法をワークを通して学びます。

心理学概論 【昼】

キーワード /Keywords

心理学

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
 その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
 6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

発達心理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方と心理学の中核的テーマである認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、今日問題とされている認知症についての話も加えている。これは老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する心理学的・社会学的視点からの理論
- 第4回 老年期の認知機能の変化 - 認知機能を見る際の枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【知能とは、結晶性能力と動作性能力】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【測定方法と測定時の留意点】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【記憶の種類】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【記憶機能の変化の要因、病気の影響】
- 第11回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 4【老年期の記憶の病的変化】
- 第12回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 5【アルツハイマー型認知症について】
- 第13回 老年期のパーソナリティ 1【社会通念：時代背景・社会環境、人の気持ちは分かるか】
- 第14回 老年期のパーソナリティ 2【成熟したパーソナリティ、OldestOldと社会関係】
- 第15回 老年期のさまざまな心理的問題

成績評価の方法 /Assessment Method

全回数の3分の2以上の出席を最終試験受験資格とし、これを超えて欠席した場合と、出席が足りていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

試験 60% 授業への参加・課題提出 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

老年心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40％
最終試験・・・60％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

(到達目標)

DP1 知識

対人心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%
評価材料となる小テストを1回も受けなかった場合は原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

対人心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズムや発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

到達目標

【知識】臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か【発達課題】
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編【発達障害】
- 第4回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第6回 児童期の発達課題と不適応：理論編【箱庭療法】【勤勉性】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】
- 第8回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：事例編【同一性拡散】
- 第10回 中年期の発達課題と不適応：理論編【世代性】【中年期心性】
- 第11回 中年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第12回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：事例編【回想法】
- 第14回 まとめ（その1）：発達課題から見た不適応について
- 第15回 まとめ（その2）：発達課題から見た不適応の援助について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（5回）... 50% まとめ課題 ... 50%

6回以上欠席した場合や、レポートやまとめ課題を未提出の場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、事例の概要をまとめて提出する。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことが望ましい。

臨床心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	カウンセリングについての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	カウンセリングに関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

カウンセリング論

PSY232M

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理カウンセリングに関する基礎的知識の習得を目指す。カウンセラーとクライアントとの二者関係で成立する心理カウンセリングにおいて、カウンセラーとクライアントはそれぞれどのような役割を担いながら、カウンセリングを進めていくのかについて、カウンセリングの事例や逐語録等を手掛かりとして分析的に解明し、その実態を明らかにする。なお、教員が提示するテーマや質問について小集団で討論を行い、討論された内容を全体に返して論点の整理を行いながら最適解を導き出すアクティブ・ラーニングの手法によって授業を進めていく予定である。

到達目標

【知識】カウンセリングに関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理カウンセリングとは何か
- 第2回 カウンセラーの役割について(1)【ラポール】【受容的態度】
- 第3回 カウンセラーの役割について(2)【感情の反射】【傾聴】
- 第4回 カウンセラーの役割について(3)【感情の明確化】【共感的理解】
- 第5回 クライアントの役割について【自己内省】【自己受容】
- 第6回 カウンセリングの実際【援助的技法】【ノンバーバル・コミュニケーション】
- 第7回 カウンセリングのプロセス【主訴】【中断・終結】
- 第8回 心理カウンセリングの流派(1)【精神分析】【洞察】
- 第9回 心理カウンセリングの流派(2)【行動療法】【系統的脱感作法】
- 第10回 心理カウンセリングの流派(3)【認知療法】【認知の歪み】
- 第11回 心理カウンセリングの流派(4)【マインドフルネス】【うつ】
- 第12回 心理カウンセリングの流派(5)【回想法】【進路選択】
- 第13回 心理アセスメント【受理面接】【治療契約】
- 第14回 カウンセリングの実際：心理臨床家による講演
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回) ... 80% 平素の成績 ... 20%

レポートすべてを未提出の場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布した資料等をもとに授業内容を振り返り、整理しておくこと。

カウンセリング論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霜山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国、日本の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。東洋の人間観に立脚する独創的な学説にふれることにより他文化の心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルス(心の健康)にも興味を持つことを期待したい。また個人の心理の健康は個人だけでは達成できない、ソーシャルヘルス(社会的健康)やSDGs(持続可能な開発目標)にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康(SDGs 3)や平和と暴力(SDGs 16)にも触れたい。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書
 「神経質の本態と療法」 森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【エリクソンの発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト・ユング・アドラー・森田正馬】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, 森田の心理学【東洋的人間観】
- 5回 アドラー心理学について1 【ライフスタイル】【共同体感覚】
- 6回 アドラー心理学について2 【劣等感】【感情道具論】
- 7回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 8回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】【精神交互作用】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】【セルフヘルプグループ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。
 (注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理的な負荷を感じて追い詰められている人が増えている。特にここ2・3年はコロナ禍のもとさまざまな精神疾患を発症した人が増えている。その原因はいろいろと考えられるが「心理的な負荷が極度に高い出来事」が最多である。日頃から自分の周りに観られる心理的な負荷に関する事案を意識して生活してほしい。さらに学習した内容や心構えを生活の中で実践して方法や考え方を体得するよう望みたい。

心理療法論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」「アドラー心理学」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理療法における「感情」に関する認識を深めるようにしてもらいたい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。
森田療法、アドラー心理学、に強い関連がある。

リハビリテーション論【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● リハビリテーションに関する理念や定義などの基礎的概念を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● リハビリテーションに関わる多様な主体の関係性や役割を踏まえた包括的なリハビリテーションの実践法を身につける。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

リハビリテーション論

HSS330M

授業の概要 /Course Description

リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史や理念を理解した上で、障がい者や高齢者、スポーツ選手の怪我など、さまざまな場面における実践方法を身につけることを目的とする。講義の流れとしては、各種障がいに関する知識習得、障がい者のリハビリテーション、高齢者のリハビリテーション、さらにアスリートのリハビリテーションに関して実践（実技）を取り入れながら学んでいく。

<到達目標>

【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している

【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リハビリテーションの基本理念
- 3回 リハビリテーションの歴史の変遷
- 4回 疾病と障害①身体障害
- 5回 疾病と障害②知的障害
- 6回 疾病と障害③精神障害
- 7回 障がい者のリハビリテーションの概要
- 8回 障がい者のリハビリテーションの実践
- 9回 高齢者のリハビリテーションの概要
- 10回 高齢者のリハビリテーションの実践
- 11回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 12回 アスレティックリハビリテーションの実践①
- 13回 アスレティックリハビリテーションの実践②
- 14回 地域リハビリテーションの実際と課題
- 15回 まとめ（期末テスト）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常授業への取り組み（レポート・ミニレポートを含む）・70%、 期末テスト・30%
5回以上欠席かつ最終の期末テストを受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

リハビリテーション論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明しますので、第一回目から出席してください。また、基本的には講義形式で行いますが、実践法を身につける際には、実技形式で行うこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 /Instructor 井上 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論

ANT212M

授業の概要 /Course Description

この授業では、さまざまなフィールドワークの報告を紹介しながら、フィールドワークのエッセンスを学びます。フィールドワークとは、他者の生活の場で、他者とふれあい、他者について知り、それを伝えることをです。

インターネットなどのメディアを通じて多くの情報が氾濫し、検索エンジンを使えば、世界中のどんなことでも手のひらの中で調べられる現在の生活の中で、フィールドに出向いて自分の身体で体験する意義は何なのか、そしてその体験を自分の言葉で、あるいは映像で表現する意義は何なのか。フィールドワークの理論と実践、楽しさについて、受講者と一緒に考えていきます。

《到達目標》

知識：フィールドワークに関する基礎的な知識を身につけている。

コミュニケーション力：フィールドワークに関する多くの事例を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』2015 篠原徹○
- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝○
- 『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地○
- 『ヤシガラ椀の外へ』2009 ベネディクト・アンダーソン○
- 『驚きの介護民俗学』2012 六車由実○
- 『飯場へ: 暮らしと仕事を記録する』2017 渡辺 拓也○
- 『なぜふつうに食べられないのか』2015 磯野真穂○
- DVD『祝の島』2011 瀬野あや○

その他講義中に適宜紹介します。

フィールドワーク論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：フィールドワークとは
- 第2回 なぜフィールドワークをするのか
- 第3回 どうフィールドワークをするのか
- 第4回 フィールドとであう
- 第5回 フィールドの中で生活する
- 第6回 さまざまなフィールド：自然
- 第7回 さまざまなフィールド：異文化
- 第8回 さまざまなフィールド：身近な生活
- 第9回 フィールドワークの計画を立てる
- 第10回 他者を知ること-調査・参与観察
- 第11回 他者を知ること-身体活動・技法の習得
- 第12回 他者を知ること-分析・比較
- 第13回 理解したことを伝える：論文
- 第14回 理解したことを伝える：作品
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中のディスカッションに参加：30%
 講義で紹介した「活動」に参加、「書籍」を読む、「ドキュメンタリー映画」を観るといような体験をして講義内容をふまえたレポートを書く：70%
 授業の中で課されたレポートの提出がない場合は、評価対象外とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
 授業中に紹介する本を読むことを推奨します。
 「北方シネマ」で上映されるドキュメンタリー映画を活用します。
 生活の中で、ふと興味をもったことについて立ち止まってそれを知ろうとする姿勢を歓迎します。
 web掲示板等を活用して議論を進めます。

履修上の注意 /Remarks

授業の時間外でのさまざまな活動への参加を推奨し、それについてのレポートが課題となることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で自分の考えや疑問を発信してください。一方的に講義をするのではなく、みなさんの好奇心に沿いながら授業が進んでいくことを期待しています。

キーワード /Keywords

フィールドワーク 他者理解 共感 ドキュメンタリー映画

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ボランティア活動に関する専門知識を、地域現場との関わりの中で理解できる。
技能	専門分野のスキル	●	ボランティア活動を行う上で必要な地域での実践方法について理解できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ボランティア活動に関する理論を基盤に、活動の課題について考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域において積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を養うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ボランティア活動論	RDE111M
-----------	---------

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進方策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組む姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。①.ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。②.ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。③.地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。④.人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。⑤.新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。⑥.対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

ボランティア活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・ NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

最終レポート(50%)、宿題(50%)で評価します。

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域に関する様々な専門知識に加え、スポーツ指導に関する理論を総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域に関する理論やスポーツ指導の現場理解を基盤に地域のスポーツが抱える問題や本質を見抜くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 性差や年齢に関係なくスポーツをととして地域活動に積極的に参加する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ指導論

HSS110M

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)カナダのフェアプレー委員会とは
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは(ジョン・ウッデンに学ぶ)
- 3回 スポーツ指導の心構え(法的知見を含む)
- 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者(指導の行き過ぎから起こる問題点)
- 14回 日本武道の必要性(抑制の美とは)
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 50%

まとめ... 50%

5回以上(3分の1以上)の欠席の場合評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後はさらに文献等で復習すること

スポーツ指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

オリンピックを国民あげて支えていくうえで、スポーツの理解は大変重要です。スポーツの正しい理解を学びましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツは世界共通のルールで繋がっている。
日本で活躍する外国人アスリートや世界で活躍する日本人アスリートの活躍などを盛り込みながら授業を進めていきます。

キーワード /Keywords

SDGs 3 「すべての人に健康と福祉を」と強い関連がある。
オリンピックオリンピックオリンピック・パラリンピック・フェアプレー・

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害者スポーツ指導の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域活動において必要な障害者スポーツ指導技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を考察し、障害者スポーツ指導の視点から解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害者スポーツ指導に常に挑戦する姿勢をもち、粘り強く取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ指導論	HSS120M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツは、最近ようやく社会に認められハンディキャップを持つ人々の意識も高まりスポーツやレクリエーションを通して社会参加することができるようになってきたが、反面それらを支える支援者の数が不足しているのも事実である。本講義では「障害とは何か」、「様々な障害状況に対しどのようにアプローチすればいいのか」などを考えその意義や指導論を学習していく。さらにこの講義では、障害者スポーツの現場で活用できる内容を重点的に取り入れ自分の考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

(到達目標)

【知識】 障がい者スポーツに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 障がい者スポーツの技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】 障がい者スポーツについて試行して解決策を探求し、専門的な見地から、意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 障害者スポーツセンターの役割
- 3 障害者スポーツの意義と理念
- 4 障害者スポーツの発展の歴史
- 5 障害者福祉施策の具体的恩恵
- 6 障害者スポーツ指導者制度
- 7 障害状況に応じた車いすの種類
- 8 常用車いすの介助・体験
- 9 肢体障害とスポーツ 脊髄損傷・頸椎損傷
- 10 肢体障害とスポーツ 脳血管障害
- 11 肢体障害とスポーツ 脳性麻痺・切断
- 12 視覚・聴覚障害とスポーツ
- 13 知的障害とスポーツ
- 14 知的・精神障害とスポーツ
- 15 まとめ

障害者スポーツ指導論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%
出席数が3分の2以下の場合評価不能とします。ただし、公欠は除きます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒にいる行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報を知れたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域に関する様々な専門知識とスポーツ・ボランティア指導に関する理論を、実践をとおして総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	高齢者や子供がスポーツ実践活動を円滑に行うための指導技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し創造的に考える。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域のスポーツや社会活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア指導論

HSS101M

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(実技を含む)
- 10回 中高年者とスポーツ(実技を含む)
- 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
- 12回 小学生のスポーツ活動(実技を含む)1
- 13回 小学生のスポーツ実践(実技を含む)2
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(実技を含む)2

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...50%
まとめ ...50%
5回以上(3分の1以上)の欠席の場合評価不能(一)とします。

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は各グループにてディスカッションを行います、自分の理解を深めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と議論し実際に新しいスポーツを考えます。
子どもや、年長者、障害を持つ人たちのためにユニークな発想で作り上げましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 3 「すべての人に健康と福祉を」と強い関連がある。
子ども・年長者・障がい者・スポーツ指導

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツ心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	スポーツの諸問題を心理学の観点から主体的に学習ができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ心理学

HSS221M

授業の概要 /Course Description

スポーツ心理学とは、運動やスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とします。本講義の到達目標は、受講生が運動やスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることです。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

スポーツ心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 講義計画 >

1. オリエンテーション

本科目の目的、背景、授業の進め方、約束事について説明します。

2. スポーツ心理学とは

スポーツ心理学の歴史について学習を行います。

3. スポーツと動機づけ

やる気や意欲と呼ばれる動機づけのメカニズムについて学習を行います。

4. スポーツにおける目標設定

スポーツにおける目標設定を行うための原理・原則について学習を行います。

5. スポーツとパーソナリティ

パーソナリティを理解しスポーツとパフォーマンスとの関係について学習を行います。

6. 注意と集中

注意様式からみた集中力の理論ならびに注意集中を高める技法について学習を行います。

7. 運動のメカニズム

運動の学習について心理学的な理論について学習を行います。

8. コーチの心理

社会的勢力の視点からスポーツ指導のあり方について学習を行います。

9. スポーツメンタルトレーニング (基礎)

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

10. スポーツメンタルトレーニング (応用)

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

11. スポーツと発達

生涯発達の視点から学びを深めスポーツのあり方や関わり方について学習を行います。

12. 健康スポーツの心理 1

ライフスキル、運動・スポーツの心理的効果について学習を行います。

13. 健康スポーツの心理 2

ストレスへの対処方略やストレスマネジメントについて学習を行います。

14. まとめ

授業の振り返りを行います。

15. 授業内期末テスト

授業内期末テストを行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施します。
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施します。
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%，受講態度20%，小レポート30%で評価します。
- 4) 4回以上欠席した場合もしくは、評価不能(-)とします。
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

準備学習として、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えて下さい。(各回15分)

事後学習として、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めるようにして下さい。(各回15分)

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業やスポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域で行うスポーツ活動についての基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	地域で行うスポーツ活動を通じて専門分野の基礎的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ活動においての諸問題を的確に捉え、運営や企画がスムーズに行えるよう導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域のスポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティスポーツ論

HSS220M

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

<到達目標>

【知識】コミュニティスポーツ（地域スポーツ）に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 11回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 12回 スポーツ指導に必要なコミュニケーションスキル
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会
- 15回 まとめ(期末テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（レポート・中間テストを含む）・・・70%、期末テスト・・・30%
 5回以上欠席かつ最終の期末テストを受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

コミュニティスポーツ論【昼】

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害者スポーツの理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域活動において必要な障害者スポーツ実践の技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を考察し、障害者スポーツの視点から解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害者スポーツに対して常に挑戦する姿勢をもち、粘り強く取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ各論

HSS224M

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が身体を鍛えたり、スポーツやレクリエーションを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をすることができる専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に全国障害者スポーツ大会の概要や競技規則、競技種目や障害状況によって判定される障害区分、競技に使用される用具と基礎知識など幅広く学習する。

(到達目標)

【知識】 障がい者スポーツに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 障がい者スポーツの技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】 障がい者スポーツについて試行して解決策を探求し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

「全国障害者スポーツ大会 競技規則集」 発行所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 1000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1ガイダンス
- 2肢体不自由
- 3視覚障害・聴覚障害
- 4内部障害
- 5知的・発達障害
- 6知的障害
- 7精神障害
- 8障害者スポーツ特有の用器具
- 9補装具の理解 構造とメンテナンス
- 10全国障害者スポーツ大会の概要 歴史と目的
- 11全国障害者スポーツ大会 選手団とコーチのあり方
- 12全国障害者スポーツ大会 競技内容と障害区分
- 13トップアスリートの大会パラリンピックとは
- 14世界の動向と日本の立場 今後の国際大会
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 試験・・・30% レポート・・・10%

出席数が3分の2以下の場合評価不能とします。ただし、公欠を除きます。

障害者スポーツ各論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。

応用的内容が多いため、基礎的内容を扱う「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒に実施している行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。

国際大会などの情報など知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツと社会の関連について基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を社会学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ産業論

HSS222M

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

(到達目標)

【知識】スポーツと社会の関連について、基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】社会学の観点からスポーツの諸課題を分析するスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子著「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)

川西正己著「事業計画書の作り方」(明日香出版社 2004)

細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

スポーツ産業論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

(到達目標)

【知識】身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を身につけている。

【技能】運動・スポーツに必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発育・発達
- 3回 運動と加齢
- 4回 運動と神経系
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と肥満
- 7回 運動とエネルギー代謝
- 8回 バイオメカニクス
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と疲労
- 12回 疲労と休養
- 13回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 14回 運動への行動変容【メリット、デメリットについて考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど)・・・40% 期末試験・・・60%

6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

身体適応論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を到達目標としている。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 パーバルコミュニケーション①【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第4回 パーバルコミュニケーション②【PREP法・ホールパート法の実践】
- 第5回 ノンパーバルコミュニケーション①【ノンパーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 ノンパーバルコミュニケーション②【ノンパーバルコミュニケーションの実践】
- 第7回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル
- 第8回 チームでのコミュニケーション
- 第9回 コミュニケーションワーク①
- 第10回 コミュニケーションワーク②
- 第11回 自己とのコミュニケーション①【マインドフルネス】
- 第12回 自己とのコミュニケーション②【認知行動療法】
- 第13回 自己とのコミュニケーション③【アンガーマネジメント】
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%
- 4) 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

身体スポーツ論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康科学【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

(到達目標)

【知識】自分自身の健康管理に関して、専門的な知識を身につけている。

【技能】自分自身の健康管理を行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど)・・・40% 期末試験・・・60%
6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

健康科学【昼】

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

トレーニング論【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的なトレーニング計画の作成ができる知識を身に付ける。

<到達目標>

- 【知識】身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につけている。
- 【技能】自分に必要なトレーニングを行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価① 身体組成(レポート①)
- 12回 トレーニング効果の測定・評価② 体力の測定①
- 13回 トレーニング効果の測定・評価③ 体力の測定②(レポート②)
- 14回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 15回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%
授業回数の1/3回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

トレーニング論【昼】

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自身の日常生活に活用できることを期待します。

キーワード /Keywords

トレーニング、体力、体力測定・評価、身体組成測定・評価、SDGs 3. 健康と福祉を

スクール(学校)ソーシャルワーク論 【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年(2017年度以降入学生対象)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 学校におけるソーシャルワークについての専門知識を身につける
技能	専門分野のスキル	● 学校におけるソーシャルワークについての基礎的な技法を習得する
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 子どもを取り巻く諸問題を多角的な視点からアセスメントし、課題を発見することができる
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 子どもを取り巻く諸問題をソーシャルワークの視点から考察し、課題解決の方法を多角的に検討することができる
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M

授業の概要 /Course Description

わが国において子どもたちが直面している問題は多様であり、これらを支援するためには彼らが生活している家庭や学校、地域社会を含め包括的な援助システムを構築することが求められています。この科目では、①子どもたちを取り巻く情勢や今日的課題を理解する、②日本において学校教育現場に学校ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する、③学校ソーシャルワークの発展過程を理解する、④学校ソーシャルワークの実践モデルについて理解する、ことを目的とします。

(到達目標)

- 【知識】スクール(学校)ソーシャルワークの理論に関する基礎的な知識を総合的に身につけている
- 【技能】学校教育現場において福祉的課題を抱える児童・生徒への支援に関する基礎的な技術を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】学校教育現場の福祉的課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本学校ソーシャルワーク学会編「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」中央法規出版2008年
- ハンドブック 学校ソーシャルワーク演習-実践のための手引き [単行本] 門田 光司、鈴木 庸裕(編著)ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

オリエンテーション
 学校ソーシャルワークの歴史①(諸外国)
 学校ソーシャルワークの歴史②(日本)
 教育現場の現状(教育制度・学校組織・相談支援体制)
 学校教育現場で子どもたちが直面している問題①(いじめ・不登校・非行)
 学校教育現場で子どもたちが直面している問題②(児童虐待・貧困・発達障害)
 学校ソーシャルワークの価値と倫理
 学校ソーシャルワークの実践過程と実践モデル①
 学校ソーシャルワークの実践過程と実践モデル②
 学校ソーシャルワークの支援の実践例①(不登校)
 学校ソーシャルワークの支援の実践例②(非行)
 学校ソーシャルワークの支援の実践例③(児童虐待)
 学校ソーシャルワークの支援の実践例④(特別支援教育)
 我が国のスクールソーシャルワーカーの活動とその課題
 まとめと振り返り

スクール(学校)ソーシャルワーク論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50%
日頃の授業への取り組み 50%

5回以上出席しなかった場合には、評価不能(－)とします。
小テストを受験しなかった場合には、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会状況、生活課題について常に敏感であるように、新聞、ニュース、インターネットなどを駆使して情報収集をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程の履修を希望する学生は必ず受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スクール(学校)ソーシャルワーク演習【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年(2017年度以降入学生対象)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 学校におけるソーシャルワークについての実践的な技法を習得する
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 子どもを取り巻く諸問題を多角的な視点からアセスメントし、具体的な支援の方法を考案することができる
	プレゼンテーション力	● 自分の考えを明確に発信することができる
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 子どもを取り巻く諸問題をソーシャルワークの視点から考察し、課題解決の方法を多角的に検討することができる
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 対人支援に必要な実践的なコミュニケーション力を習得する

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M

授業の概要 /Course Description

演習では、①子どもの抱える問題(課題)を把握するための情報収集及び状況分析(アセスメント)方法、②アセスメントから個別教育支援計画の立案(プランニング)及び評価・査定(モニタリング)方法、③学校内での支援ケース会議の方法、④事例を通して学校ソーシャルワーク実践の展開方法、以上①から④を中心に学びを深めていく。

(到達目標)

【技能】学校教育現場において福祉の課題を抱える児童・生徒への支援に関する基礎的な技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】児童生徒の抱える福祉の課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】学校教育現場において協働してソーシャルワーク支援を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている。

【自律的行動力】児童生徒を取り巻く福祉の課題への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規2009年
 その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. スクールソーシャルワーカーに求められる価値・倫理
3. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解①
4. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解②
5. ケースマネジメント①
6. ケースマネジメント②
7. 面接技法①
8. 面接技法②
9. アウトリーチ
10. ケース会議を中心としたチームアプローチ①
11. 学校(教職員)と連携したチームアプローチ①
12. 他機関(専門職種)・地域(住民等)と連携したチームアプローチ②
13. コンサルテーション
14. 記録法
15. まとめ

スクール(学校)ソーシャルワーク演習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の課題の達成度 50%
授業への積極的な参加 50%

5回以上出席しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として相談援助の基盤と専門職や、相談援助の理論と方法等の相談援助スキルに関する科目の内容を復習してください。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程認定修了資格資格取得希望者は、必修の授業となります。
履修要件として、以下両方を満たすことを課しています。

①3年次終了時点で、社会福祉士指定科目のうち25科目以上を修得していること。(ただし、「就労支援サービス」「権利擁護と成年後見制度」「更生保護制度」についてはいずれか1科目のみ修得科目として換算する)

②3年次終了時点で「スクール(学校)ソーシャルワーク論」の単位を履修していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程

スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年(2017年度以降入学生対象)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 学校教育現場の実態およびスクールソーシャルワーカーの専門性と役割を理解する
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 実習における目標と課題を明確化し、積極的に課題解決に挑むことができる
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 子どもを取り巻く諸問題を多角的視点からアセスメントし、ソーシャルワーク実践に必要な自身の課題解決に挑むことができる
	社会的責任・倫理観	● 実習生の立場や振る舞い、ソーシャルワーカーの価値・倫理を理解する
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M

授業の概要 /Course Description

本科目は、①スクール(学校)ソーシャルワーク実習の意義を学ぶ、②学校におけるソーシャルワーク実践にかかる知識と実践的技術の体得、③スクールソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理を学ぶ、④実習先の社会資源について学ぶ、以上4点を習得することを目的とします。

(到達目標)

【技能】スクール(学校)ソーシャルワーク実習に必要な技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】児童生徒の抱える福祉的課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】学校教育現場においてスクール(学校)ソーシャルワーク実習を行うための必要なコミュニケーション力を身につけている。

【自律的行動力】児童生徒を取り巻く福祉的課題への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

「実習の手引き」を開講期間中に配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション	
第2回 学校現場での実習に際する心構えを学ぶ①	
第3回 学校現場での実習に際する心構えを学ぶ②	
第4回 実習先やスクールソーシャルワーカーの実践について学ぶ①	第4回 実習先やスクールソ
第5回 実習先やスクールソーシャルワーカーの実践について学ぶ②	
第6回 実習先以外のスクールソーシャルワーカーの実践について学ぶ①	
第7回 実習先以外のスクールソーシャルワーカーの実践について学ぶ②	
第8回 スクールソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理を理解する①	
第9回 スクールソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理を理解する②	
第10回 実習目標および実習計画を立てる①	
第11回 実習目標および実習計画を立てる②	
第12回 実習先の社会資源とその連携について学ぶ①	
第13回 実習先の社会資源とその連携について学ぶ②	
第14回 実習先の社会資源とその連携について学ぶ③	
第15回 まとめ	第15回 まとめ

スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 50%
積極的な演習への参加 50%

5回以上出席しなかった場合には、評価不能(一)とします。
実習計画書・報告書を提出しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教育機関に関する福祉領域について、文献を読んだり、施設見学したりする等の自主的な学習をしましょう。事後学習としては、実習に臨むにあたってどのような準備が必要なのかを考え、復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

「スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程認定修了資格資格」取得希望者は、必修の授業となります。
履修要件として、以下両方を満たすことを課しています。
①3年次終了時点で、社会福祉士指定科目のうち25科目以上を修得していること。(ただし、「就労支援サービス」「権利擁護と成年後見制度」「更生保護制度」についてはいずれか1科目のみ修得科目として換算する)
②3年次終了時点で「スクール(学校)ソーシャルワーク論」の単位を履修していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スクール(学校)ソーシャルワーク実習【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 3単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 4年(2017年度以降入学生対象)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● スクールソーシャルワーカーの専門性と役割を理解し、ソーシャルワーク実践が出来る
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● スクールソーシャルワーカーの資質と照らし合わせ自身の課題を発見し、積極的に課題解決に挑むことが出来る
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 子どもを取り巻く諸問題を多角的視点からアセスメントし、ソーシャルワーク実践に必要な自身の課題解決に挑むことができる
	社会的責任・倫理観	● 実習生の立場を自覚し、ソーシャルワーカーの価値・倫理に沿った行動ができる
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 対人支援に必要な実践的なコミュニケーション力を習得する

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M

授業の概要 /Course Description

本科目は学校教育現場におけるソーシャルワーク実習を通し、①学校教育現場を知り、学校組織を体系的に学ぶ、②学校におけるソーシャルワーカーの資質・技能・倫理を養う、③教職員等との連携のあり方や具体的実践を学ぶ、④総合的に対応できる力を養う、以上4点を習得することを目的とします。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】児童生徒の抱える福祉的課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】学校教育現場においてスクール(学校)ソーシャルワーク実習を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている。

【自律的行動力】児童生徒を取り巻く福祉的課題への関心を持ち続け、実習生としてスクール(学校)ソーシャルワーク実習に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

必要に応じ紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スクール(学校)ソーシャルワーク実習では、90時間の実習を行う。主な内容は以下の通りである。

- ①スクール(学校)ソーシャルワーカーが配置されている小中学校および教育委員会での実習を90時間行う。
- ②実習報告会を学内で実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習の取り組み 70% 報告会での発表 15% 実習報告書 15%

実習中断になった場合には、評価不能(一)とします。

実習報告書を提出しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学校教育現場ふさわしい態度を考え、実習に望むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

「スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程認定修了資格資格」取得希望者は、必修の授業となります。

履修要件として、以下両方を満たすことを課しています。

①3年次終了時点で、社会福祉士指定科目のうち25科目以上を修得していること。(ただし、「就労支援サービス」「権利擁護と成年後見制度」「更生保護制度」についてはいずれか1科目のみ修得科目として換算する)

②3年次終了時点で「スクール(学校)ソーシャルワーク論」の単位を履修していること。

スクール(学校)ソーシャルワーク実習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年(2017年度以降入学生対象)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育制度論

EDU227M

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

精神保健の課題と支援【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 浩介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年(2017年以降入学生対象)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
							○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 精神保健の課題と支援に関する専門的知識を身につける
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 精神保健の課題を福祉的視点から考察し、具体的な支援方法を導くことが出来る
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 精神保健の課題と支援について、福祉的視点から主体的に学習できる
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

精神保健の課題と支援	SOW330M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

精神保健について、以下の視点から総合的に学習する。

- 1 精神保健の基礎知識について
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について
- 3 精神の健康と疾患について
- 4 精神保健の現状と課題について
- 5 諸外国の精神保健活動の現状と対策について

精神保健の課題と支援に関する専門的な知識を習得すると共に、人々の精神的な課題に関心を寄せ、福祉的な視点から支援や対策を考える。

(到達目標)

【知識】精神障害のある人々への福祉的関わりに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】精神障害のある人々へ支援を行うために必要な技術を身につけている。

【思考・判断・表現力】精神障害者の抱える福祉的課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新・精神保健福祉士養成講座 現代の精神保健の課題と支援』中央法規 ￥3,300

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜レジュメを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 精神保健に関する基本的理解
- 第2回 ライフサイクルにおける精神保健(1) 幼児期・学童期・思春期
- 第3回 ライフサイクルにおける精神保健(2) 青年期・成人期・老年期
- 第4回 精神疾患に由来する障害
- 第5回 精神保健の課題と現状(1) 発達障害
- 第6回 精神保健の課題と現状(2) アルコールやギャンブルなどの依存に関する問題
- 第7回 精神保健の課題と現状(3) うつ病と過労自殺
- 第8回 精神保健の課題と現状(4) 認知症
- 第9回 精神保健の課題と現状(5) 社会的ひきこもり
- 第10回 家族における精神保健対策
- 第11回 学校における精神保健対策
- 第12回 職場における精神保健対策
- 第13回 地域精神保健活動に関する諸活動
- 第14回 諸外国の精神保健活動の現状および対策
- 第15回 まとめ

精神保健の課題と支援【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験・・・ 80%
 - ・ 日常の授業への取り組み・・・ 10%
 - ・ 課題レポート・・・ 10%
 - ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。
- ※ 定期試験及び授業の実施形態については、新型コロナウイルス感染症の状況及び北九州市立大学の方針に則り、レポートの代替、遠隔授業の実施形態の変更などを適宜検討する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)。

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスの問題に関心のある学生はぜひ履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

精神保健に関する知識やその課題に対する支援の在り方などを、授業を通して勉強していきます。少々難易度の高い授業になるので集中して授業に望んでください。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス、メンタルヘルスソーシャルワーカー

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高(生物担当)および中尾(物理担当)による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論:心理学とは:さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1:ものが見えるとは?
- 3: 知覚2:色はなぜ見える?
- 4: 知覚3:形はなぜ見える?
- 5: 知覚4:先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1:目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2:まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1:どうして騒がしい中でも会話ができるのか?
- 9: 注意2:意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1:数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2:昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1:「こころ」どのように芽生えてくる?
- 13: 発達2:「こころ」はどのようにして人とやりとりできる?
- 14: 発達3:発達に苦手さを抱えるのはなぜ?
- 15: まとめ:いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回):30点
レポート(1回):30点
期末試験:40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前:Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後:授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート:指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書けてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
 遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

【到達目標】

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道德思想史【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道德思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道德思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道德思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道德思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるインタロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力] 自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】【複合グラフ】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題への取り組み ... 50%
積極的な授業への参加 (タイピング、振り返りレポートなどを含む) ... 50%
課題やタイピング、振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能 (ー) です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフトExcelなどのコンピュータ操作については、自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

地域創生演習 A (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

地域創生に関する文献の輪読と、最近の地域創生に関するさまざまな話題、ニュースから課題を探ることにより、卒業論文のテーマ設定に向けた基礎的知識の習得、整理を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記書籍を輪読のテキストとして使用予定。
○ジェイン・ジェイコブズ(2010)「アメリカ大都市の死と生」鹿島出版会

その他の参考書については適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回・・・オリエンテーション
第2回～第14回・・・発表とディスカッション
第15回・・・まとめ

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

取り組む姿勢(積極性)・・・40%
プレゼン・成果物・・・40%
ディスカッション・・・20%
3回以上無断で欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

常に、地域創生に関連する話題、ニュースに着目し、演習に活かすこと。
演習で学んだこと、習得したことをより深く学び、また関連する周辺領域に興味関心の幅を広げること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席する際は事前に教員に連絡してください。
輪読の分担等は学生間で連絡を密にとり、調整してください。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、都市・地域の再生

地域創生演習 B (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けた準備として、論文作成の作法を習得する。そのうえで、各自の興味関心のあるテーマについて、発表する。関連する資料、文献や既存研究の収集、整理、読み込みなどが中心となる。

教科書 /Textbooks

講義内で指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の興味、関心に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回・・・オリエンテーション
第2回～第14回・・・発表
第15回・・・まとめ

本演習では、各自発表してもらい、その内容について議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

取り組む姿勢（積極性）・・・50%、
プレゼン・成果物・・・40%
ディスカッション・・・10%
3回以上無断で欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こういったテーマについて取り組んで行きたいか、各自が事前にある程度考えておく。そのためには、日頃から各自の興味関心のある分野についての情報収集を積極的に行うことが大事。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画、内容については演習を進めていく中で、変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり

地域創生演習C (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の興味関心のあるテーマについて、卒業論文の執筆に向けた報告、ディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第15回：報告およびディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度(報告内容)：50%
- 積極的な演習への参加(ディスカッション)：50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備および、ディスカッションを踏まえた事後学習(論文への反映)の実施。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 中間発表会での報告は必須。
- 少なくとも月1回は必ず進捗を報告すること。

キーワード /Keywords

地域創生演習D (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向け、各自の興味関心のあるテーマについて報告およびディスカッションを繰り返す。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する報告とディスカッション
- 15回 : 論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度(報告内容) : 50%
- 積極的な演習への参加(ディスカッション) : 50%
- 3回以上無断で欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備とディスカッションを踏まえた事後学習(論文への反映)の実施。

履修上の注意 /Remarks

欠席については事前連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 2年間の演習の総仕上げとして、より専門的で、より高度な報告を期待する。
- 少なくとも月1回は進捗を報告すること。
- 論文報告会での報告は必須。

キーワード /Keywords

地域創生演習D (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各受講生が取り組んでいる実践や研究を見聞としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。
 (到達目標)
【思考・判断・表現力】 地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。
【コミュニケーション力】 他者と積極的に議論しながら、地域課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自律的行動力】 地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に行動する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
- 2 - 14回 卒業論文・卒業実践報告についての発表およびディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%
 欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表担当者は必ずレジュメを作成してくる。
 発表担当者以外も、自主的に論文を書き進めること。

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加とともに、自主的な資格取得に向けた学習を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多くあります。
 卒業論文作成に向けて、ともにがんばっていきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、社会福祉学、ソーシャルワーク

相談援助実習指導 1 【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての援助技術の基本を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉士としての現場理解を基盤に、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案するプロセスを理解する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を理解する。
	社会的責任・倫理観	● 社会人としての常識をわきまえて、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 1

SOW380M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。

- ① 相談援助実習の意義について理解する。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

(到達目標)

【技能】ソーシャルワーク実践に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技能を体得している。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【自律的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義で適宜紹介します。

相談援助実習指導 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書（履歴書）等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故 / 緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

3回以上出席しなかった場合には、評価不能(一)とします。

計画書等必要書類を期日までに提出しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自分の実習配属先に関する福祉領域について、文献を読んだり、施設見学したりする等の自主的な学習をしましょう。事後学習としては、実習に臨むにあたってどのような準備が必要なのかを考え、復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習指導 2 【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての理論と実践を融合的に理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉士としての現場理解を基盤に、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を理解する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 2

SOW381M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。

- ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

(到達目標)

【技能】ソーシャルワーク実践に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技能を体得している。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【自律的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習を終えて
- 2.相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
- 3.相談援助実習の振り返り② 【 ” ” 】
- 4.相談援助実習の振り返り③ 【 ” ” 】
- 5.相談援助実習の振り返り④ 【 ” ” 】
- 6.相談援助実習の振り返り⑤ 【 ” ” 】
- 7.相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
- 8.相談援助実習の振り返り⑦ 【 ” ” 】
- 9.相談援助実習の振り返り⑧ 【 ” ” 】
- 10.相談援助実習の振り返り⑨ 【 ” ” 】
- 11.相談援助実習の振り返り⑩ 【 ” ” 】
- 12.相談援助実習の振り返り⑪ 【 ” ” 】
- 13.相談援助実習の振り返り⑫ 【 ” ” 】
- 14.相談援助実習の振り返り⑬ 【 ” ” 】
- 15.実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

相談援助実習指導 2 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

3回以上出席しなかった場合には、評価不能(一)とします。

実習報告書を提出しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、実習ノートの内容の振り返りをしましょう。

事後学習としては、毎回出される課題に取り組み、次回の講義へ備えましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目(例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」)を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助演習 5 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から福祉問題を判断し、論理的かつ具体的な問題解決策を提案できる力を獲得する。
	プレゼンテーション力	● 福祉の問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、効果的にプレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション力を身につけ、協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 5

SOW460M

授業の概要 /Course Description

社会福祉関連テーマについて個別に深めるとともに学びを共有し、相談援助に係る実践的な知識や技術として理解を深めることがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
- 2 - 14回 課題発表（高齢者、児童、障害児者、ホームレス、社会的排除、コミュニティワーク、貧困、施設福祉、少年非行など）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%
欠席回数が全回数の3分の1を超える場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表担当者は、レジユメを作成すること。
各自、必要な関係資料を収集しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前年度までに相談援助演習 1～4 の履修が終わっていることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで学んできたことを総合的実践力として高めることを目指します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会福祉学、ソーシャルワーク

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに沿って、卒業論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：オリエンテーション
2回～29回：卒業論文の執筆指導、中間報告会
30回：最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 100%
卒業論文を提出していない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の準備および、議論、アドバイスを踏まえた事後学習(論文への反映)を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

報告・議論の場であるため、事前準備を十分に行って望むこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。
論文の提出はもちろんですが、中間報告会、最終報告会での報告も必須です。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文を作成する。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文100%

期日までに卒業論文を提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。

卒業論文・卒業実践報告【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

受講生が各自のテーマに従い、指導教員の指導にもとづいて卒業論文を作成します。
(到達目標)
【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
【思考・判断・表現力】地域創生の視点から思考し、得た知見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回～29回：卒業論文の指導と作成
- 30回：最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の作成 ... 100%
卒業論文が期日までに提出されなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文作成に向けて、ともにがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

地域創生学、社会福祉学

景観まちづくり論【夜】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 景観まちづくりに関する専門的基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 景観まちづくりを行う際の基礎的な調査手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 景観まちづくりの本質を理解し、景観について自分なりのとらえ方を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 景観まちづくりの実践手法の基礎を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

景観まちづくり論

ARC233M

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』
日本建築学会 編『景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために』
日本建築学会 著『まちづくりデザインのプロセス』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 身近な景観について考える【景観】
- 3回 景観とは？ / 景観に関する調査分析指標【景観】【調査】
- 4回 都市デザインのプロセス①【調査】【分析】
- 5回 都市デザインのプロセス②【戦略】【計画】
- 6回 都市デザインのプロセス③【デザイン】
- 7回 景観まちづくりとその歴史 / 景観まちづくりの意義【景観】【まちづくり】
- 8回 景観法について①【景観】【法制度】
- 9回 景観法について②【景観】【法制度】
- 10回 景観法について③【景観】【法制度】
- 11回 具体的事例の紹介【景観まちづくり】
- 12回 欧米における景観コントロール【法制度】
- 13回 意見発表会①【プレゼン】
- 14回 意見発表会②【プレゼン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
期末レポート ... 50%

なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 参考図書に目を通してください。
事後) 毎回の内容を復習してください。

景観まちづくり論【夜】

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

景観、まちづくり

まちづくり実践論【夜】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● まちづくりの実践に際し必要となる多様な視点と専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● まちづくり実践時の課題を抽出し、専門的知識に基づく解決策を考察できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

まちづくり実践論

RDE312M

授業の概要 /Course Description

これからの地域（都市部を含む）は、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、多様な主体がそれぞれ役割を担ってまちづくりに参画する地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいた実践が必要である。さらに、まちづくりを支える政策や各種事業を理解するためには、地域に関する情報収集や幅広い視点からの考察が不可欠である。

本授業では、地域創生・まちづくりを推進していくために必要な地域経営のあり方等について現実に即して学ぶと共に、近年注目されている「スポーツ（主に“観るスポーツ”）や文化財・文化芸術を活かしたまちづくり」に特に着目して関連政策動向や事例等を通じて基礎的事項を学ぶ。

※「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な用い方が行われている。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づける。

（到達目標）

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、授業中に文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤滋編著（2011）『まちづくり市民事業 新しい公共による地域再生』学芸出版社
 - 仲澤眞、吉田政幸編著（2017）『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房
- その他、適宜、授業中に文献や資料を紹介する。

まちづくり実践論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
 第 2回 新しい地域経営の動き① 【協働】
 第 3回 新しい地域経営の動き② 【“公共”の担い手】
 第 4回 新しい地域経営の動き③ 【実践事例】
 第 5回 国・地方自治体のまちづくり政策① 【地方創生、自治体の総合計画】
 第 6回 国・地方自治体のまちづくり政策② 【観光振興】
 第 7回 国・地方自治体のまちづくり政策③ 【スポーツ、文化財をいかしたまちづくり総論】
 第 8回 文化財をいかしたまちづくり① 【政策動向】※文化芸術全般を含む
 第 9回 文化財をいかしたまちづくり② 【産業観光など】
 第 10回 文化財をいかしたまちづくり③ 【実践事例】
 第 11回 スポーツをいかしたまちづくり① 【スポーツツーリズム】
 第 12回 スポーツをいかしたまちづくり② 【スタジアムとまちづくり】
 第 13回 スポーツをいかしたまちづくり③ 【国際スポーツ大会】
 第 14回 スポーツをいかしたまちづくり④ 【実践事例】
 第 15回 まちづくりを実践していくために

※ 各回の授業時点で社会的に話題となっているまちづくり関連のトピックや最新の政策動向を柔軟に取り入れた授業とするため、授業計画については変更する場合がある。

※ ゲスト講話を行う回を設ける。ゲストの御都合により、実施回を変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への積極的参加（取り組み姿勢、授業で課すミニレポート等）： 40%
- ・ 課題レポート（ゲスト講話から学んだこと等、学期中に複数回実施）： 60%

※正当な理由なく8回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の欠席でも単位を取得できない場合がある。

※課題レポートを1回も提出しない場合についても評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：毎回、「1週間以内に報道され、各自が興味を持ったまちづくり関連記事」を探し、それについて各自の考え方をまとめること。その他の取り組みについては授業中に指示する。

事後：授業中に課した課題に取り組むこと。その他、授業中に興味を持った事項については、図書館やインターネット等を活用し、授業後に各自で調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

各回の授業時点で社会的に話題となっているまちづくり関連のトピックや最新の政策動向を柔軟に取り入れた授業とするため、授業計画については変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から「まちづくり」へ幅広い関心（その時点では興味が無い内容も含めて）を持ち、自分なりに書籍、報道、実践活動等を通じ多角的に情報収集を行い、常にまちづくりについて思考するよう意識してほしい。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、地域活性化、スポーツをいかしたまちづくり、文化財をいかしたまちづくり

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

(到達目標)

- 【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,200円(税込み)
 レジユメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版]法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】【法人】【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】【国会】【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】【道徳】【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】【事実】【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%
 定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

法学総論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジюмеや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、池田真朗他編『法学六法'22』信山社(1,100円)をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

日本国憲法原論【夜】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。
とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】 憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身に付ける。

【技能】 憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身に付ける。

【思考・判断・表現力】 憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

大林啓吾＝小林裕紀編『ケースで学ぶ憲法ナビ〔第2版〕』（みらい、2021年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○斎藤一久＝堀口悟郎『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）

○新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡『憲法I・II〔第2版〕』（日本評論社、2021年）

○上田健介＝尾形健＝片桐直人『憲法判例50!〔第2版〕』（有斐閣、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

日本国憲法原論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に着けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子 『甘いバナナの苦い現実』 2020, コモンズ。
- 鶴見良行 『バナナと日本人』 1982, 岩波新書。
- 長田華子 『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』 2016, 合同出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

都市環境論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心を向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容を変更することがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

経済学入門 A 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

(到達目標)

- 【知識】ミクロ経済学の入門的知識を身につけている。
- 【技能】ミクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
- 【思考・判断・表現力】基礎的な資源配分の問題を考察することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と交易について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と交易について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と交易について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

経済学入門 A 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
試験を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

国際経済論I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。コロナ禍という大きな変化に直面した現在こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. ポスト・コロナの今日における地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 一体型国土構造の形成【一軸一極】
- 11回 コンピュータ・ネットワークと市場【市場の広がり】
- 12回 市場の世界化【金融市場】【物財市場】【労働市場】
- 13回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 14回 ポストコロナの地域経済【コロナ禍】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 50%(計) 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

地域経済I【夜】

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済特講」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I ECN361M

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 2) 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- 3) わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

財政学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 岸野 早希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

皆さんは大学を卒業後、多くの時間を企業組織において過ごすことになります。その企業組織内では日々の人々の相互作用のなかで多くの現象が起こっています。その現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかということを中心に学んでいきます。

(到達目標)

【知識】 経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】 経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ
上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明『経験から学ぶ経営学入門：第2版』有斐閣
開本浩矢(編)『入門組織行動論:第2版』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 企業で働くこととは
3. 組織への適応
4. 組織文化
5. モチベーションと規則の関係①
6. モチベーションと規則の関係②
7. キャリア開発
8. リーダーシップ
9. 集団のダイナミズム
10. コンフリクト・マネジメント
11. 組織デザイン
12. 環境のマネジメント
13. 組織変革
14. 経営理念
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート40%、期末試験60%
中間レポートの提出と期末試験の受験をしなかった場合には評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前配布のレジюмеに目を通すこと。

マネジメント論基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義のレジユメはWeb上でダウンロードして持参してください(初回の講義で案内します)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

この講義では、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、企業評価論I、企業評価論IIなど）を受講するうえで必要となるファイナンスに関する基礎知識について勉強します。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深く関わっています。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛丸元『スタンダード企業論(改定版)』同文館出版，2015年。(○)

鈴木基史・羽岡秀晃『実務から学ぶコーポレート・ファイナンス』中央経済社，2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業形態【合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
- 第3回 財務分析①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 第4回 財務分析②【安全性分析、収益性分析、効率性分析】
- 第5回 評価の基本原理解【単利、複利、将来価値、現在価値、割引率】
- 第6回 債券の価値評価【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 ポートフォリオ理論①【期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数】
- 第9回 ポートフォリオ理論②【リスク、リターン、効率的フロンティア】
- 第10回 ポートフォリオ理論③【CAPM、資本市場線、証券市場線】
- 第11回 M&A①【M&Aの意義と経済効果、敵対的買収】
- 第12回 M&A②【LBO、MBO、買収防衛策】
- 第13回 行動ファイナンス①【アノマリー、市場の効率性を阻害する要因】
- 第14回 行動ファイナンス②【現実の意思決定、プロスペクト理論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

企業論基礎【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと（目安時間：60分）。
講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと（目安時間：60分）。

履修上の注意 /Remarks

学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

企業形態、企業分析、価値評価、ポートフォリオ理論、M&A、行動ファイナンス

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 河島 晋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム	INF220M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータに関する基礎知識や利活用方法について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築は、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、情報処理・コンピュータの仕組み・デジタル技術の応用について学習する。

【到達目標】

- ▼知識
コンピュータシステムに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- ▼技能
コンピュータシステムの分析と設計に関する手法を身につけている。
- ▼思考・判断・表現力
コンピュータシステムについて、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を得ることを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報技術の発展とコンピュータ利用の変化
 - 2回 数値の数え方【2進数・10進数・16進数】
 - 3回 集合と論理演算
 - 4回 プログラミング的思考
 - 5回 機械判読可能なデータ作成
 - 6回 演習1：表計算演習【Excel】
 - 7回 コンピュータシステム基礎
 - 8回 ハードウェア(1)【CPUと記憶装置】
 - 9回 ハードウェア(2)【入力装置と出力装置】
 - 10回 ソフトウェア【OSとアプリケーション】
 - 11回 演習2：プレゼンテーション資料作成演習【PowerPoint】
 - 12回 ネットワーク基礎
 - 13回 インターネットサービスとIoT
 - 14回 人工知能やロボットの活用
 - 15回 演習3：これまでの復習
- ※【 】はキーワード

コンピュータシステム 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：60%
レポート：20%
日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の内容はそれまでの学習内容を理解している前提で進めるので、講義中に理解できなかった内容は復習することを推奨する。資料の中で説明される用語は、Web上での検索や技術書をはじめとする書籍でも調査・学習することができるので、各自で調べながら学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

演習ではMicrosoft OfficeのソフトウェアExcel・PowerPointを利用するため、これらのソフトウェアやパソコンの基本操作についてはある程度慣れておくことを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータに関する知識や技能はエンジニアなどの技術職だけでなく、近年はあらゆる職種や普段の生活でも必要とされるスキルとなりました。
本講義を受講する皆さまには、コンピュータに関する知識・技能・応用的な考え方を習得していただき、デジタル技術や論理的思考を活用・創造できる人材になることを期待しています。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために可能な限りかんたんな財務分析の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○
- 西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
- 西澤健次『負債認識論』国元書房○
- 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
- 中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

財務会計論I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末試験または期末レポート... 60%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

経営戦略論【夜】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは企業は、競合他社のひしめく市場に身をおいて、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)
ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【イノベーションとは何か】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 事業戦略⑤ 【集中戦略】
- 第9回 企業戦略① 【多角化戦略】
- 第10回 企業戦略② 【PPM】
- 第11回 企業戦略③ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】
- 第12回 企業戦略④ 【イノベーションを生み出す組織】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

経営戦略論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

なお、適宜、レポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域と対象者の抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に主体的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 2

SOW261M

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

(到達目標)

【知識】ソーシャルワークの基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの基礎と専門職』中央法規出版、2,900円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

地域福祉の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基礎的・専門的な理解ができる。
技能	専門分野のスキル	●	地域福祉の援助方法について理解ができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域福祉の諸課題を分析し、解決のための方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切な方法で表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域福祉の諸課題を自らの生活に引き付けて理解し、継続して学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法2

SOW211M

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的なサービスだけでは要支援者を支援することは困難になってきています。担当者自身が社会福祉協議会で地域福祉業務に携わっているため、授業では、パワーポイント、DVD、配布資料を使用して現場の生の声を伝えながら、地域福祉にかかわる社会資源（機関、団体、人材、資金、制度、情報など）を理解し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

(到達目標)

【知識】地域福祉における基本的考え方からその推進方法まで総合的に理解している。

【技能】地域福祉の推進に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現】地域福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
 必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、授業の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。
 栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードすることができます。

地域福祉の理論と方法2 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 オリエンテーション【傾聴】【自己覚知】
- 第 2回 地域福祉の推進機関【社会福祉協議会】【共同基金会】
- 第 3回 地域福祉の人材①【ソーシャルワーカー】【ボランティア】
- 第 4回 地域福祉の人材②【自治会】【民生委員児童委員】【福祉委員】
- 第 5回 地域福祉活動計画の実際【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
- 第 6回 孤立死防止対策【孤立死】【ネットワーク】
- 第 7回 認知症支援【認知症サポーター】
- 第 8回 権利擁護【日常生活自立支援事業】【成年後見制度】
- 第 9回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討【相談援助】【多職種連携】
- 第10回 集合住宅及び集落における支え合い【住民参加型サービス】【住民主体】【介護予防】
- 第11回 福祉教育の考え方と推進方法【偏見と差別】
- 第12回 ソーシャルワークの方法1【タスクゴール】【プロセスゴール】【リレーションシップゴール】
- 第13回 ソーシャルワークの方法2【組織化活動事例】
- 第14回 助けられ上手【ご近所パワー】
- 第15回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり【災害ボランティア】【生活支援相談員】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・30% 期末試験(レポート)・・・70%

指定期日までにレポート未提出の場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：【キーワード】について、理解を深めておいてください。

事後学習：興味関心を持った授業内容について、参考書・福祉関係雑誌・新聞などでさらに調べてみてください。

また、実際に地域のボランティア活動にも参加して、地域住民の熱意を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉にかかわる機関・団体・人材などを調べて積極的に地域行事に参加すると、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	児童や家庭に関わる諸課題を的確に捉え考察し、対応策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

SOW223M

授業の概要 /Course Description

わが国における子ども・家庭を取り巻く社会情勢と生活実態を確認し、子ども・家庭における福祉ニーズへの対応の在り方を考えます。また、現代の状況にふさわしい「子ども・家庭福祉」の考え方を身につけることを目指します。

(到達目標)

【知識】 児童・家庭福祉制度の基礎的な知識を総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版」中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現代社会と子ども・家庭(児童や家庭の定義)
- 3回 子どもの権利擁護
- 4回 子ども家庭福祉の歴史的展開
- 5回 子ども家庭福祉の理念と概念
- 6回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制①(児童福祉六法と関連機関)
- 7回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制②(その他法機と関連機関)
- 8回 子ども家庭福祉施策の現状と課題①(少子化と子育て支援)
- 9回 子ども家庭福祉施策の現状と課題②(子どもへの虐待)
- 10回 子ども家庭福祉施策の現状と課題③(母子保健・障がい児支援)
- 11回 子ども家庭福祉施策の現状と課題④(社会的擁護・家庭内暴力)
- 12回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑤(少年非行)
- 13回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑥(経済的貧困・ひとり親世帯への支援)
- 14回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑦(支援の実態)
- 15回 子ども家庭福祉の今後の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日頃の授業への取り組み 50%

5回以上出席しなかった場合には、評価不能(一)とします。
定期試験を受験しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関して教科書を読んで予習すること。事後学習は授業の復習を中心にする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適応可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③高齢化の現状や介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤認知症について理解する。⑥認知症高齢者のケアと施策について理解する。⑦高齢者虐待に関する法と現状について理解する。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

(到達目標)

【知識】高齢者の生活実態と取り巻く社会情勢に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 社会保障の意義と機能
- 第2回 高齢者福祉制度の発展過程【明治から福祉3法まで】
- 第3回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉6法から日本型福祉社会】
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉見直し論から高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程【介護保険制度の成立】
- 第6回 高齢者福祉制度の発展過程【後期高齢者医療制度創設】
- 第7回 高齢者の特性と疾病
- 第8回 少子・高齢社会の現状【高齢化の要因、人口高齢化の現状】
- 第9回 少子・高齢社会の現状【今後の人口構成の動向、人口高齢化の地域差】
- 第10回 少子・高齢社会の現状【人口高齢化の速度と国際比較、家族構成の変化】
- 第11回 高齢者の福祉ニーズと生活実態
- 第12回 介護の概念と介護予防
- 第13回 認知症高齢者の現状
- 第14回 認知症ケアの制度と施策
- 第15回 高齢者虐待と虐待予防の仕組み

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の対象は全回数の6割以上出席し、定期試験を受験した場合とする。出席回数6割を満たさなかったり、満たしていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

定期試験70% 授業への参加30%

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度IIは介護保険制度を中心に、以下の内容の理解をねらいとして進める。①介護保険制度成立の経緯について理解する。②介護保険制度の仕組みについて理解する。③介護保険法の組織や団体など制度の運営に関わる組織や団体の役割と実際等について理解する。④地域包括支援センターの役割と地域包括ケアシステムについて理解する。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職の役割等について理解することができる。

(到達目標)

【知識】 高齢者への支援に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】 高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢化の現状と将来推計(認知症高齢者の将来推計)
- 第2回 介護保険制度創設の背景
- 第3回 介護保険制度創設後の見直し【介護保険法の見直し】
- 第4回 介護保険制度の枠組み【介護保険制度の基本理念】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【保険者、被保険者】【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【介護保険制度の財源構成、保険料】
- 第7回 介護保険制度の仕組み【保険給付、介護度の判定、制度の利用】
- 第8回 介護保険制度の仕組み【給付の仕組みと利用者負担、利用できるサービス】
- 第9回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第10回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における組織及び団体の役割と実際】
- 第11回 介護保険法における介護報酬
- 第12回 介護保険制度の運営【専門職の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の対象は全回数の6割以上出席し、定期試験を受験した場合とする。出席回数6割を満たさなかったり、満たしていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

定期試験70% 授業への参加30%

高齢者に対する支援と介護保険制度2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワークにおける対象者の理解、支援過程の理解、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる知識を養う。

(到達目標)

【知識】 ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を総合的に理解している。

【技能】 ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

中央法規『最新 社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ミネルヴァ書房『社会福祉小六法』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『オリエンテーション』 ソーシャルワークにおける価値と尊厳
- 第2回 『総合的かつ包括的な支援の考え方』
- 第3回 『家族支援の実際』
- 第4回 『地域支援の実際』
- 第5回 『非常時や災害時支援の実際』
- 第6回 『援助関係形成の意義と概念』
- 第7回 『援助関係の形成方法と留意点』
- 第8回 『ネットワーキング』
- 第9回 『コーディネーション』
- 第10回 『社会資源の活用・調整』
- 第11回 『ソーシャルワーク実践と社会資源』
- 第12回 『社会資源開発のさまざまな方法』
- 第13回 『会議の種類と方法』
- 第14回 『事例分析(1)』
- 第15回 『事例分析(2)』

相談援助の理論と方法 2 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、レポート20%、各回の講義への取り組み20%
なお講義開始30分を越えての入室・退室は欠席扱いとする
<評価不能の条件>
全講義の3分の2を下回る出席は評価不能とする
試験を受験していない者は評価不能とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定教科書、関連図書、参考文献等に事前に目を通しておくこと
事後には配布資料、ノートの整理を行ない理解を深めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ケースマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法 3 【夜】

担当者名 /Instructor 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相談援助に関する基礎的・専門的知識と技術を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	初任者段階での相談援助の知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	生活問題に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間の暮らしと社会問題の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 3

SOW264M

相談援助の理論と方法 3 【夜】

授業の概要 /Course Description

1. 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - (1) 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - (2) 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - (3) 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - (4) 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - (5) ソーシャルワーク・アプローチ(実践モデル)の多様性について学ぶ。
 - (6) 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - (7) “超高齢・少子・人口減少・単身社会”の加速といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
 - (8) 今後の福祉改革を貫く基本コンセプト「『地域共生社会』の実現」に基づく関連法の改正と実践の変容(重層的支援体制整備事業を注視する)について知る。
 - (9) コロナ禍の地域福祉実践、気づきとアフターコロナへの展望について考える。
 - (10) 「内なる優生思想の問題」といった避けては通れない意識改革の課題を認識する。
2. 次の8つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワーク(CSW)です。
 - (1) 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - (2) 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的な位置・役割や課題についての認識を深める。
 - (3) 代表的な思考法(有用な「ビジネスフレームワーク」の活用を含む)、住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - (4) 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - (5) 地域福祉を進める援助技術の全体像と、今日的有用性の高い理論と技術の活用について理解を深める。
 - (6) 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。
 - (7) 住まい・住まい方、死後委任事務、権利擁護、生活支援、居場所、個人情報、生活困窮者支援、相模原事件に象徴される社会的現象、自然災害への備え、パンデミック等の今日的課題のポイントについて学ぶ。
 - (8) 他分野の実践と知見に学ぶ。
3. 到達目標
 - (1) 知識
ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を総合的に理解している。
 - (2) 技能
ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。
 - (3) 思考・判断・表現力
ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。必要に応じて、小冊子やリーフレット類を当日配布します。

事後学習のサポートが必要な場合は、授業のテーマへの理解を促す関連資料(地域福祉活動計画の重点項目を説明する資料等)を、当該授業終了後に配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。

参考文献として、調査報告書、計画書、実践(モデル事業、実証実験事業等)報告書を必要に応じて紹介します。

参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」、⑨浅井春夫「『子どもの貧困』解決への道」⑩河合雅司「未来の年表」、⑪山崎史郎「人口減少と社会保障」、⑫大牟羅良「ものいわぬ農民」、⑬木下大生・藤田孝典「知りたい、ソーシャルワーカーの仕事」、⑭伊藤周平「消費税増税と社会保障改革」、⑮岡田知弘「地域づくりの経済学入門」、⑯広井良典「人口減少社会のデザイン」、⑰津久井進「災害ケースマネジメントガイドブック」、⑱藤野豊「戦後民主主義が生んだ優生思想」、⑲山崎章郎「死の体験事業」、⑳宮下和裕「地域から創る民主主義」。

※⑩・⑪・⑫・⑬は単行本で、読みやすい図書です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 認定特定非営利活動法人「抱樸」の存在感

相談援助の理論と方法 3 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【地域共生社会をつくるための理念、パンデミックを生きる指針、居住支援の意義と視点】
- 2回 コミュニティソーシャルワーカーの働き (1) コミュニティソーシャルワーカーが応援する地域づくり
【社会的孤立とリスクの連鎖、共生支援、社会的つながりが弱い人への支援あり方、孤独・孤立対策】
- 3回 コミュニティソーシャルワーカーの働き (2) 地域ケア会議の「住民主体の地域づくり」に向けて
【「内省と対話」から「戦略」・「戦術」に至るプロセス、現象・パターン・構造化のプロセス】
- 4回 コミュニティソーシャルワーカーの働き (3) 社会福祉援助技術上のポイント
：対話実践①ナラティブ・ソーシャルワークの展開 ②オープンダイアログに学ぶ命の支え方
【「御用聞き」という「無知の姿勢」、資源の限界への挑戦】
- 5回 コミュニティソーシャルワーカーの働き (4) 実践上のポイント
：エンパワメントの理論と技術の活用
【相乗エンパワーモデル、カ動エンパワーモデル、可塑性・多様性・全体性】
- 6回 コミュニティソーシャルワーカーの働き (5) 困難な危機の時代に生きるソーシャルワーカー像
【人権論的福祉論、津久井やまゆり園事件、命と優生思想、IFSWのソーシャルワークの定義】
- 7回 個別支援と地域支援 (1) 個別支援と地域支援の関係
【地域自立生活を支援するベクトル、地域福祉を進める援助技術を有効に機能させる要件】
- 8回 個別支援と地域支援 (2) CSWが行う個別支援の基本
【多重・複合問題の基本的事項、チーム形成とチームアプローチ、社会的養護】
- 9回 個別支援と地域支援 (3) 地域を基盤としたソーシャルワーク (CSW) のポイント
【基本的視座と機能、CSWの機能を展開できるシステム、認知症の人にやさしいまち】
- 10回 個別支援と地域支援 (4) 論考の基本
【社会福祉の3元構造論、社会福祉の主体論、自治型地域福祉の提案】
- 11回 個別支援と地域支援 (5) 論考に関連する基本事項
【住民の定義、個人情報保護法制の正しい理解、災害時要援護者支援制度 (避難行動要支援者名簿の活用等)】
- 12回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス (1) 地域の全体像の把握から戦略の立案まで
【地域アセスメント、フレームワークによる地域の現状分析と取組みの手順・戦略・戦術の立案】
- 13回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス (2) 社会資源の開発①原則
【地域を過去・現在・未来の変化のプロセスで捉える、ストレングス・リングの発見】
- 14回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス (3) 社会資源の開発②実践知のポイント
【基本的視座、個別支援・地域支援を軸とした開発、開発のプロセス、ナレッジマネジメント】
- 15回 まとめにかえて：地域共生社会政策の理解とコミュニティソーシャルワークの勘所
【バルネラブルな人、社会的つながりが弱い人、友人的伴走支援、社会的処方、健康の社会的決定要因】
- ※授業の様子を見ながら、講義の順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度...40% 期末試験...60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。
事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。
ホワイトボードには、プリントに記載の特に重要な内容に関する詳細な説明や、プリントにはない補足的内容を板書しますので、書き写したノートを読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること(特に、ホワイトボードに板書した内容)。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。授業中でも、授業後でも構いません。努力します。また、講義内容が概念的過ぎても具体的過ぎても伝わりにくとも感じています。興味がある具体的テーマや実践事例などがあれば、ぜひ教えてください。解説します。

キーワード /Keywords

- ・ 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動(主権者運動・当事者運動)、住民自治、地域分権、主体形成、人間の尊厳と社会正義、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション
- ・ 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション(“優しい暴力”の排除)、エンパワメント、創発、合理的配慮、構造主義的援助論
- ・ 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立、生活支援サービスの開発、社会変革と政策提言、「縁」、つながり、排除しないまちづくり、孤立と縮小を乗り越える、寄り添い型・伴走型支援、社会的処方、生活実態の解明、ICTの活用、積極的行動主義、3.5%ルール
- ・ 学習のポイントは・・・思考法、原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景、援助対象の理解、平和的生存権

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ①現代における社会保障制度の課題
- ②社会保障の概念、理念、対象等
- ③社会保障の歴史的展開
- ④社会保障の構造
- ⑤諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本的知識、制度のスキーム等の形式的な知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

(到達目標)

【知識】現代社会における社会保障の基礎的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著 「改訂 社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末試験の合算で評価する。

原則割合は、平常点等(30点)、期末試験(70点)とする。

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします

社会保障【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象であるとともに、それは身近な何かであると思っています。そのことを踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後はアウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

近年の日本社会では、経済の長期停滞、労働環境の変化、少子高齢化の進展などを背景として、貧困と格差が拡大し、それとともに経済的給付だけでは解決しがたい生活の質に関係する諸問題の拡大や深刻化も懸念されています。低所得者支援と生活保護制度に関するこの授業では、以下の内容と到達目標に基づいて講義を行います。

《授業内容の概要》

第1部「貧困とその原因および貧困に対する支援・対策」では、現代の貧困問題および低所得者層の福祉需要ならびに福祉国家における対策の全体像について学習します。

第2部「貧困に対する支援・対策の歴史と生活保護制度」では、貧困と公的扶助の歴史、生活保護制度の成立、および生活保護制度における保護と自立支援の実践について学習します。

第3部「貧困に対する支援と対策の現代的動向」では、貧困に対する支援と対策に関する近年の制度改革の動向について学習し、その現代的課題と新たな諸制度や支援について学習します。

《到達目標》

【知識】貧困と低所得階層の生活実態およびその支援の制度と実際について、総合的で専門的な知識を修得している。

【思考・判断・表現力】貧困と低所得に関わる課題について論理的に思考して解決策を探索し、貧困とその対策・支援について専門的見地から判断して、その内容を明瞭に表現することができる

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会「最新社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援」中央法規 ¥2,750（社会福祉士養成新カリキュラムを踏まえたテキストです）

岩永理恵他編著「貧困に対する支援」新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック13 ¥2,600（同上）

岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困の実態に迫るものです）

小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（法立案者による生活保護法の逐条解説です）

柴田滋著「社会法総論」大学教育出版 ¥2800（排除・貧困対策法制の全体像を考察するものです）

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この科目は、社会福祉士養成課程科目「貧困に対する支援」の新カリキュラムを踏まえた内容で構成しています。この授業では、内容を3部に区分し、各回ごとに以下の計画で講義を行います。

【第1部 貧困とその原因および貧困に対する支援・対策】

第1回.貧困の概念： 絶対的貧困と相対的貧困、相対的貧困線、潜在能力の欠如、社会的排除

第2回.現代の貧困： 国際化と脱工業社会、統計にみる排除と貧困、非正規労働者、アンダークラス論

第3回.貧困層の福祉需要と福祉国家の役割： 事例で考える福祉需要、福祉国家と生存権、社会保障制度審議会勧告

第4回.貧困の原因と対策： 貧困の社会的要因と個人的要因、貧困レジリエンス、公的補完システムと公的扶助

【第2部 貧困に対する支援・対策の歴史と生活保護制度】

第5回.貧困と公的扶助の歴史： 世界と日本における貧困と支援の歴史、生活保護の誕生と制度の特徴

第6回.生活保護制度(1)—生活保護制度の目的と保護の原理原則： 保護と自立助長、保護受給権発生要件

第7回.生活保護制度(2)—保護給付と保護の実施機関： 扶助の種類と範囲、保護の実施機関と受任機関、福祉事務所の構成と役割

第8回.生活保護制度(3)—最低生活費の算定： 保護申請、世帯の認定、最低生活費の算定、生活保護基準

第9回.生活保護制度(4)—資産調査と収入認定： 資産の取り扱い、各種の収入の認定要領、勤労控除

第10回.生活保護制度(5)—被保護者の権利義務、費用負担： 審査請求、生活保護訴訟、扶養義務の範囲

第11回.生活保護制度(6)—被保護者の現況と自立支援： 自立支援プログラムと支援の実際、関係機関と専門職

第12回.海外の公的扶助とわが国の特徴： 各国の公的扶助の概要と特徴、能力活用(activation)と自立支援

【第3部 貧困に対する支援と対策の現代的動向】

第13回.貧困に対する支援の動向と現代的課題： 経済社会的背景の変化と防貧施策の動向、生活保護受給者の増加と生活保護改革、社会保障の全般的機能不全

第14回.貧困に対する支援の基調転換-自立支援の新制度： 第2のセーフティネット構想、公的給付から自立支援へ、生活困窮者自立支援法、求職者支援法、ホームレス自立支援法

第15回.貧困に対する各種支援の連携および展望： 公営住宅法、生活福祉資金貸付、無料定額宿泊所、無料低額診療事業、ベストフの三角形と公私の支援の連携、貧困に対する支援とソーシャルワーカーの役割

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習への取り組み(比重30%)、定期試験(比重70%)により、評価を行います。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開講にあたって、講義全体の要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、この資料及び参考書などによって予習および事後の学習に心がけてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、関心を持てるテーマを選択して自分なりの探究を継続しながら授業に臨んでほしいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問や授業についての感想など、積極的にコメントするように心がけてください。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

絶対的貧困と相対的貧困、潜在能力の欠如、社会的排除、見えない貧困、貧困の連鎖、脱工業社会論、アンダークラス論、貧困の社会的要因と個人的要因、エリザベス救貧法と恤救規則、救護法、貧困と生存権、残余的と制度的の福祉モデル、生活保護基準、資産調査、福祉事務所、自立支援プログラム、アクティベーション、第二のセーフティネット、生活困窮者自立支援法

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要を学ぶ内容が主な柱となる。

(到達目標)

【知識】心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】人体に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 医学概論 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ライフステージにおける心身の変化と健康課題①・・・ライフステージにおける心身の特徴 について学ぶ
2. ライフステージにおける心身の変化と健康課題②・・・心身の加齢・老化 ライフステージ別の健康課題 について学ぶ
3. 健康及び疾病の捉え方・・・健康と疾病の概念 国際生活機能分類 について学ぶ
4. 身体構造と心身機能・・・人体部位の名称 器官系と臓器の役割 について学ぶ
5. 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程・・・疾病の発生原因と成立機序 について学ぶ
6. リハビリテーションの概要と範囲・・・リハビリテーションの定義・目的・対象・方法 について学ぶ
7. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①・・・感染症・神経疾患、認知症、高次脳機能障害・脳血管疾患 について学ぶ
8. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②・・・心疾患・内分泌・代謝疾患 について学ぶ
9. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③・・・呼吸器疾患・腎、泌尿器 について学ぶ
10. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④・・・消化器・肝胆膵疾患・骨・関節の疾患・血液・免疫・アレルギー疾患 について学ぶ
11. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤・・・眼科疾患、視覚障害・耳鼻咽喉疾患、視覚障害、平衡機能障害・口腔疾患 について学ぶ
12. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥・・・婦人科・産科・精神疾患、精神障害、発達障害・小児科疾患、肢体不自由、知的障害 について学ぶ
13. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑦・・・高齢者に多い疾患・生活習慣病、内部障害について学ぶ
14. 公衆衛生・・・公衆衛生の概要・健康増進と保健医療対策 について学ぶ
15. まとめ

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%・課題レポート30%・日常授業への取り組み20%で評価する。
課題レポートのテーマは授業内で提示します。
5回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。
課題レポートが未提出の場合は定期試験を受けることができない。
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書及び授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、予習、復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【夜】

担当者名 /Instructor 金蔵 常一 / 金蔵常一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 保健医療サービスに関する専門知識に加え、生活に関わる福祉の専門知識について、総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 保健医療サービスに関する理論と現場理解を基盤に、課題解決に取り組む力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

保健医療サービス

SOW230M

授業の概要 /Course Description

この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得の必須科目となっています。受験対策のために必要な内容を取り上げるとともに、社会福祉士として、保健・医療・福祉施設で働くことを目指す学生が最低限度必要な知識を学べる機会にとしたいと考えています。

【到達目標】

- 1) 知識：ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療サービスの知識を総合的に理解することができる。
- 2) 思考・判断・表現力：保健医療サービスに関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- 3) その他：社会福祉士として多種多様な現場で働く上での基本的姿勢を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

最新 社会福祉士養成講座「保健医療と福祉」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版をテキストとしますので、必ず購読してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書として、以下の2つの購読をお勧めします。

- 1) 「医療福祉総合ガイドブック 2022年度版」NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会 編集 医学書院
- 2) 「地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト」日本医療ソーシャルワーク学会 編集 日経研出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回「オリエンテーション(講義の進め方、単位認定、試験について)」「保健医療サービスを学ぶ意義」

- 第2回「戦前から今日までの保健・医療制度の動向」
- 第3回「医療法の概要」(1)～主に「医療計画」について～
- 第4回「医療法の概要」(2)～主に「地域医療構想」と「医療機能分化」について～
- 第5回「保健・医療提供施設の種類と機能」(1)～医療法・診療報酬制度上の施設～
- 第6回「保健・医療提供施設の種類と機能」(2)～介護保険施設～
- 第7回「医療保険制度の基本的仕組み」
- 第8回「医療保険制度・公費負担医療制度などによる医療費の負担軽減制度」
- 第9回「診療報酬制度の基本的仕組み」
- 第10回「保健・医療分野における各専門職の役割」
- 第11回「保健・医療分野における多職種連携の実際」
- 第12回「医療ソーシャルワークの歴史と医療ソーシャルワーカー業務指針について」
- 第13回「医療ソーシャルワークの実践例」
- 第14回「地域包括ケアシステムと多職種連携の必要性」
- 第15回「地域包括ケアシステムと多職種連携の実際」

保健医療サービス【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

評価のウエイトは、学期末試験70%、各回授業への取り組みの評価を30%とします。
学期末試験は、毎回配布する資料の中から出題し、80点以上を合格とします。
各回の授業への取り組みの評価は、各回で配布する小テストの結果をもとに判定します。
なお、3回以上欠席した場合や期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
ただし、病気や怪我によりやむを得ず欠席、または小テストを受けることが出来ない場合は、その理由により考慮します。その場合は、必ずメールで連絡してください。連絡がない場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義のテーマについて教科書をもとに事前に予習してください。受講前の学習の時間は60分とします。受講後の復習時間は60分とします。

履修上の注意 /Remarks

「社会保障」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」の各課目の内容と重複する内容が多いので、それぞれについてしっかり学習しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

保健医療分野のソーシャルワーカーとして働いてきた経験やその間に学んだことをもとにできるだけ分かりやすい講義になるように努めていきたいと考えています。講義に対する質問はその都度受けます。不明な点は遠慮なく発言してください。授業中に質問がし難いと思いますので、小テストの裏面に講義の感想、質問を記入する欄を設けますので、そこに記入してください。

キーワード /Keywords

その人が望む暮らしの実現、意思決定支援、医療・介護制度改革、医療ソーシャルワーク、医療機能分化と地域連携、地域包括ケアシステム

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

今後の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら社会保障の維持と介護事業の両立で進まなければならない。その際、事業の経営やサービスの専門性が自治体や法人にとって重要な課題となってくる。地域の崩壊、ケアラー問題、老老介護、高齢期における健寿命の延伸、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた措置から21世紀に応じた自立支援型法人運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護の概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなり、「福祉の心」という理念に頼った事業が行われてきた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に2000年以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSDと支え方の確立等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたらされる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティネットでもある。利用者の自立や自律ということを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧で安心が求められる施設経営が必要となっている。地域住民の福祉ニーズに応えるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを現場の声で講義していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していく。21世紀型の地域福祉及び福祉経営がわかりやすい講義となっています。

(到達目標)

【知識】福祉サービスの経営と管理運営の知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営」 最新社会福祉士養成講座 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

福祉サービスの組織と経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人（NPO）の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論（組織構造）
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉サービスのリスクマネジメント
- 13回 福祉事業所の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉サービスにおける人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 日常の授業への取り組み 20% 課題（レポート） 10%
 * 期末テストを受けなかった場合、また7回以上の欠席理由なく欠席をした場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計も興味をもって学んでください。

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何か、またその際のサービスのあり方を学習します。福祉ニーズをポジティブに分析できるアセスメント技術も学習しておくことより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア	多職種連携	ガバナンス	人権擁護	福祉施設経営	サービスの質と自立支援	PDCAサイクル
法人	組織	ソーシャルワーク	リーダー論	人材育成	リスクマネジメント	公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 植竹 克典 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	権利擁護の取り組みに関する関心を高め、成年後見制度と日常生活自立支援事業に取り組むための問題解決能力を形成する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業を活用することで、権利擁護が具体化できることに関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

権利擁護と成年後見制度

SOW250M

授業の概要 /Course Description

以下の各事項を理解し身につけるため、援助活動の実際を踏まえた講義を行う。

- ① 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。
- ② 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。
- ③ 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。
- ④ 権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。
- ⑤ ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。

教科書 /Textbooks

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度」中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義において適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プロローグ・法の基礎
- 2回 憲法
- 3回 民法1
- 4回 民法2
- 5回 行政法
- 6回 権利擁護の意義と支える仕組み1
- 7回 権利擁護の意義と支える仕組み2
- 8回 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題1
- 9回 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題2
- 10回 成年後見制度1
- 11回 成年後見制度2
- 12回 日常生活自立支援事業
- 13回 権利擁護にかかわる組織・団体・専門職
- 14回 権利擁護に関する最近のトピック
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50%
期末試験・・・50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉に関する報道や時事問題に関する情報収集を行うこと。

権利擁護と成年後見制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士を目指さない学生の履修も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

就労支援サービス【夜】

担当者名 横谷 佳代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会的に不利な立場にいる人々への就労支援について、制度、関連組織等の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 就労支援を行っていく上で必要とされる、専門的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 就労支援制度に関する理論と現場理解を基盤に、問題解決策を提案する力を獲得する。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

就労支援サービス

SOW243M

授業の概要 /Course Description

人が「働く」意義について考え、就労することに支援を必要とする人々について、またその支援の在り方について学びます。
相談援助活動の中で必要となる就労支援制度、関連組織そして専門職について知識を得て、理解を深めることがねらいです。

(到達目標)

【知識】

就労につながりにくい人々に対する就労支援に関わる専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

就労支援に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。

講義スライド等の資料は当日配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新・社会福祉士養成講座第18巻 就労支援サービス 第4版) (中央法規出版) 一般的なテキスト

「社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス 第3版」(弘文堂) 説明が分かりやすい。国試対策用語集付き。

「新社会福祉士養成課程対応 就労支援サービス」(みらい) 各支援機関の役割などをイメージしやすく紹介。

「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリング」(教育新社/松為信雄) 職業リハビリテーションの理論と実際の相談支援での展開を分かりやすく解説。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 就労支援サービスとは？(講義の概要)
- 第2回 現代社会の労働市場と動向
- 第3回 労働に関する法律と制度
- 第4回 障害のある人への就労支援(障害者の雇用・就労の歴史)
- 第5回 障害のある人への就労支援(職業リハビリテーションとは？)
- 第6回 障害のある人への就労支援(職業リハビリテーションの実施機関と役割)
- 第7回 障害のある人への就労支援(障害福祉サービスにおける就労支援)
- 第8回 障害のある人への就労支援(特別支援教育における就労支援)
- 第9回 障害のある人への就労支援(企業の取り組み・合理的配慮)
- 第10回 障害のある人への就労支援(支援の実際①)
- 第11回 障害のある人への就労支援(支援の実際②)
- 第12回 生活困窮者への就労支援
- 第13回 若年層・特定求職者への就労支援(母子家庭の母など女性に向けた就労支援)
- 第14回 特定求職者への就労支援(高齢者に向けた就労支援)
- 第15回 まとめ

就労支援サービス【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...54% ミニレポート(2回)...36% 日常の授業への取り組み...10%

下記の場合、成績評価ができず評価不能(一)となるため、ご注意ください。

- ①小テストおよびミニレポートを、一度も提出していない場合。
- ②全15回の講義の2/3以上、明確な理由および連絡なく欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示した課題に関してミニレポートを作成し、期日までに提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

発達心理学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方と心理学の中核的テーマである認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、今日問題とされている認知症についての話も加えている。これは老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する心理学的・社会学的視点からの理論
- 第4回 老年期の認知機能の変化 - 認知機能を見る際の枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【知能とは、結晶性能力と動作性能力】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【測定方法と測定時の留意点】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【記憶の種類】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【記憶機能の変化の要因、病気の影響】
- 第11回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 4【老年期の記憶の病的変化】
- 第12回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 4【アルツハイマー型認知症について】
- 第13回 老年期のパーソナリティ 1【社会通念・時代背景・社会環境、人の気持ちは分かるか】
- 第14回 老年期のパーソナリティ 2【成熟したパーソナリティ、OldestOldと社会関係】
- 第15回 老年期のさまざまな心理的問題

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の対象は全回数の6割以上出席し、定期試験を受験した場合とする。出席回数6割を満たさなかったり、満たしていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

試験 60% 授業への参加・課題の提出 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

老年心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

(到達目標)

DP1 知識

対人心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%
評価材料となる小テストを1回も受けなかった場合は原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

対人心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、こころの問題に対する援助の基本姿勢を学びます。また、さまざまな心理療法の共通基盤としての援助的コミュニケーション技法として、マイクロカウンセリングを用いた演習を行います。その後、心理療法のロールプレイを実施し、援助的コミュニケーション技法の基本姿勢を身につけます。

教科書 /Textbooks

なし。資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、対話による心理療法の基本姿勢
- 第2回：心理療法の導入①（出会いの技法）
- 第3回：心理療法の導入②（治療同盟）
- 第4回：心理療法の導入③（質問による関わり）
- 第5回：心理療法の展開①（感情の扱い方）
- 第6回：心理療法の展開②（葛藤への触れ方）
- 第7回：心理療法の展開③（効果的な助言）
- 第8回：心理療法の展開④（面接関係の扱い方）
- 第9回：心理療法のロールプレイ
- 第10回：ロールプレイの振り返り
- 第11回：発達に応じた心理療法（子ども・思春期への援助）
- 第12回：心理療法の様々な技法（精神分析的な心理療法）
- 第13回：心理療法の様々な技法（認知行動療法）
- 第14回：心理療法の様々な技法（動作法）
- 第15回：心理療法の様々な技法（集団療法）、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% 日常の授業への取り組み 50%

5回以上出席しなかった場合には、評価不能（－）とします。
レポートを提出しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

心理療法論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体スポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を到達目標としている。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 パーバルコミュニケーション①【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第4回 パーバルコミュニケーション②【PREP法・ホールパート法の実践】
- 第5回 ノンパーバルコミュニケーション①【ノンパーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 ノンパーバルコミュニケーション②【ノンパーバルコミュニケーションの実践】
- 第7回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル
- 第8回 チームでのコミュニケーション
- 第9回 コミュニケーションワーク①
- 第10回 コミュニケーションワーク②
- 第11回 自己とのコミュニケーション①【マインドフルネス】
- 第12回 自己とのコミュニケーション②【認知行動療法】
- 第13回 自己とのコミュニケーション③【アンガーマネジメント】
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%
- 4) 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

身体スポーツ論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康科学【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

(到達目標)

【知識】自分自身の健康管理に関して、専門的な知識を身につけている。

【技能】自分自身の健康管理を行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ・ ・ 40% 期末試験 ・ ・ 60%
6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

健康科学【夜】

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 伊東 良輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW222M	◎		○		
科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

障がいのある方を支援する制度・サービスの知識について学び、現代社会でどのような支援を行うことができるのか考える力を身につけることを目標とします。
我が国、北欧の障がい者支援の歴史を学び、現在の制度・政策について考えていきます。
その他、障がいのある方が、どのような場面で不自由を感じるのかを体験することで、実践の場でどのような支援が必要であるのかを考える疑似体験を行います。

教科書 /Textbooks

中央法規出版「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要時にお伝えします

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を利用し

- 1：障がい者を取り巻く社会情勢
- 2：障がい者の生活実態
- 3：障がい者にかかわる法体系（戦前）
- 4：障がい者にかかわる法体系（戦後）
- 5：障がい者自立支援制度（支援費制度）
- 6：障がい者自立支援制度（障害者自立支援法）
- 7：障がい者自立支援制度（障害者総合支援法）
- 8：障害支援区分の意味
- 9：組織・機関の役割（行政機関・外郭団体）
- 10：組織・機関の役割（民間企業）
- 11：専門職の役割と実際（医療職）
- 12：専門職の役割と実際（福祉・教育職）
- 13：多職種連携・ネットワーキング（フォーマルサービス）
- 14：多職種連携・ネットワーキング（インフォーマルサービス）
- 15：ノーマライゼーションとICF

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 講義態度 80%
 - ・ 講義中の質疑応答 20%
- ※5回以上欠席した場合は「評価不能（－）」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障がいのある方の支援について自らの考え方をまとめておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 藤上 幸恵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW262M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士及び精神保健福祉士に共通するソーシャルワーク実践の基盤となる人と環境の交互作用に関する諸理論を学び、ソーシャルワーク過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と結果評価、アフターケアに至る一連の支援過程）をひとつずつ理解していきます。そして、ソーシャルワークを具体的に展開するために不可欠な実践モデルとアプローチをおさえつつ、面接や記録に関する技法を学びます。さらには、ソーシャルワーク実践に関連する技術（ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンとコンサルテーション）についても学びます。

（到達目標）

【知識】 ソーシャルワークの理論や方法に関連する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技術】 ソーシャルワークの理論や方法に関連する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 ソーシャルワークの理論や方法に関連する知識・技術に基づきながら、ソーシャルワークが向きあう諸課題に対して、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座/精神保健福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』中央法規出版、2021年、2900円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク
- 2回 ソーシャルワークの過程【ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）】
- 3回 ソーシャルワークの過程【アセスメント】
- 4回 ソーシャルワークの過程【プランニング】
- 5回 ソーシャルワークの過程【支援の実施とモニタリング】
- 6回 ソーシャルワークの過程【支援の終結と結果評価、アフターケア】
- 7回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ
- 8回 ソーシャルワークの面接
- 9回 ソーシャルワークの記録
- 10回 ケアマネジメント（ケースマネジメント）
- 11回 グループを活用した支援
- 12回 コミュニティワーク
- 13回 ソーシャルアドミニストレーション
- 14回 ソーシャルアクション
- 15回 スーパービジョンとコンサルテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・ 20%、期末試験・・・ 80%

試験を受験しなかった場合 または 5回以上欠席した場合は 評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、世の中にある福祉に関する情報に関心を持ちましょう。
また、講義時に紹介する文献等も読むように心がけましょう。

相談援助の理論と方法 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords